

令和3年度

シラバス

富山県立富山高等学校

令和3年度 教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数	
・普通科 ・理数科学科 ・人文社会科学科	1	国 語	国語総合(現代文)	2	
教科書		補助教材			
改訂版 新訂国語総合(現代文編) (第一学習社)		LT現代文2(浜島書店)、頻出漢字マスター3000(尚文出版)			
到達目標	1 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2 思考力や想像力を伸ばし心情を豊かにする。 3 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。 4 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語を伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で、「書く能力」、「読む能力」、「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、確認プリントやテストで、「関心・意欲・態度」を、授業中の質疑応答で、「話す・聞く能力」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。				
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)			
評論(一) 「新しい地図を描け」 「水の東西」		・評論の文章の流れをつかみ、筆者の思いや考えを理解することができる。 ・筆者の論理的な思考方法を学び、自らの思考や視野を拡大することができる。			
表現の実践1・2		・相手に情報が伝わる説明のしかたを身につけることができる。 ・スピーチのしかたを身につけることができる。			
小説(一) 「羅生門」		・短編小説のおもしろさを味わわせ、鑑賞のしかたを学ぶことができる。 ・すぐれた描写、効果的な表現を学び、表現力・感受性を豊かにすることができる。			
評論(二) 「ものごとくば」		・文章の論理的な構成を理解し、筆者の主張を正確に把握することができる。 ・自己と世界を取り巻く関係について、意識的に考える態度を養うことができる。			
評論(二) 「ネットが崩す公私の境」		・文章の論理的な構成を理解し、筆者の主張を正確に把握することができる。 ・自己と世界を取り巻く関係について、意識的に考える態度を養うことができる。			
表現の実践3・4 言語活動 「情報探索の方法と実践」		・相手に理解してもらえる説明文について理解することができる。 ・情景や心情の描写を取り入れた、文学的文章を創作する力を身につけることができる。			
表現の実践9		・効果的な情報の収集のしかたを学び、実践することができる。			
詩 「鶯のうへ」		・客観的なデータを有効に活用して報告文を作成することができる。			
随想 「交換は楽しい」		・近代詩・現代詩に親しみ、鑑賞の方法を学ぶことができる。 ・近代詩・現代詩の技法について学び、想像力を豊かにすることができる。			
随想 「交換は楽しい」		・随想を読み、作者の視点・洞察力・考えを読み取ることができる。 ・視野を広げ、幅広い問題意識を育てることができる。			
評論(三) 「『間』の感覚」		・文章の論理展開の構造を把握し、筆者の言いたいことを読み取ることができる。 ・自然で自明なものを現代的な視点で捉え直す思考や視野を拡大することができる。			
評論(三) 「自分の身体」		・文章の論理展開の構造を把握し、筆者の言いたいことを読み取ることができる。 ・自然で自明なものを現代的な視点で捉え直す思考や視野を拡大することができる。			
小説(二) 「鏡」		・小説を読むおもしろさを味わうことができる。 ・小説の主題を読み取る言語感覚を磨き、新しい発見を自覚することができる。			
表現の実践8 表現の実践		・意見文を書くときの注意点を理解することができる。 ・小論文を実際に書き、自分の考えを適切に伝えることができる。			
評論(四) 「『文化』としての科学」		・論理的な文章を読解する技術に習熟することができる。 ・科学の持つ長所と短所を客観的に捉える視点を養う。			
短歌・俳句 「その子二十」他		・短歌の形式や表現方法、鑑賞方法を学ぶことができる。 ・俳句の形式や表現方法、鑑賞方法を学ぶことができる。			
評論(五) 「ホンモノのおカネの作り方」		・評論の論旨を適確に捉える力を養成することができる。 ・自分を取り巻く世界を相対的に見る視点を養うことができる。			
表現の実践		・小論文を実際に書き、自分の考えを適切に伝えることができる。			

学科名	学年	教科	科目	単位数	
・普通科 ・理数科学科 ・人文社会科学科	1	国 語	国語総合(古 典)	4	
教科書		補助教材			
改訂版 新訂国語総合(古典編) (第一学習社)		完全マスター古典文法(第一学習社)、漢文必携(桐原書店)、 プレミアムカラー国語便覧(数研出版) プログレス古文 標準編(いっずな書店)、プログレス漢文 標準編(いっずな書店)			
到達目標	1 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2 思考力や想像力を伸ばし心情を豊かにする。 3 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。 4 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	古典に対する関心を深め、辞書などを積極的に活用して、進んで理解したり味わったりする。	古典特有の調子を味わいながら音読したり聞いて味わったりする。また感じたことや考えたことを発表する。	古典を読んで感じたことや考えたことを文章にまとめ、表現することができる。	表現上の特色を理解し優れた表現に親しみながら、様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	古典理解に必要な語彙・文語文法・修辞法・句法・古典常識などの知識を身につけている。
学習の評価	1 定期考査で、「書く能力」、「読む能力」、「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認プリントやテストで、「関心・意欲・態度」を、授業中の質疑応答で、「話す・聞く能力」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。				
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)			
古文入門 「児のそら寝」「絵仏師良秀」 物語『竹取物語』 古典文法入門 活用のある自立語(用言) 物語『伊勢物語』 漢文入門 故事成語「漁父之利」「狐借虎威」 「蛇足」 付属語		<ul style="list-style-type: none"> <li>古文を読むことに面白さを見出し、興味・関心を持つことができる。</li> <li>音読を積極的に行うことができる。</li> <li>歴史的仮名遣いや古語を理解して的確に読むことができる。</li> <li>教材の内容を的確に理解することができる。</li> <li>語句の意味や用法を理解することができる。</li> <li>用言の種類や活用形について理解することができる。</li> <li>中国文化や漢文に関心を持つことができる。</li> <li>漢文訓読の仕方を理解することができる。</li> <li>助動詞や助詞の種類・意味・接続等について理解することができる。</li> </ul>			
随筆『徒然草』 説話『沙石集』 活用のない自立語 史伝『完璧』『先従隗始』 軍記『平家物語』 日記『土佐日記』 敬語・修辞法 史伝『鶏鳴狗盗』『臥薪嘗胆』 漢詩「漢詩」 和歌と俳諧「和歌」 種々の文章『漁父辞』		<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の内容に関心を持つことができる。</li> <li>作品の特色や作者について理解することができる。</li> <li>自立語について理解することができる。</li> <li>唐詩に関心を持ち、唐詩のきまりや技巧を理解することができる。</li> <li>敬語表現法・音便等について理解することができる。</li> <li>和歌等の表現技巧に注意して、その内容を理解することができる。</li> <li>作品の特色や作者について理解することができる。</li> <li>史伝・中国の歴史・文化や、教材の内容に関心を持つことができる。</li> <li>返り点や再読文字・助字等の種類や用法を理解することができる。</li> <li>三大歌集とそれらの代表的歌人について理解することができる。</li> <li>各文章の内容を把握することができる。</li> </ul>			
歌論『俊頼髓脳』 和歌と俳諧『奥の細道』 種々の文章『春夜宴…』 思想「論語・孟子」		<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌等の表現技巧に注意して、主題や筆者の主張を理解することができる。</li> <li>俳諧紀行文や評論を読んで、主題や心情を理解し、筆者の主張を理解することができる。</li> <li>各文章の内容を把握することができる。</li> <li>諸子百家の思想に関心をもつことができる。</li> <li>各文章の内容を把握することができる。</li> </ul>			

学科名	学年	教科	科目	単位数	
普通科 理数科学科 人文社会科学科	2	国語	現代文B	2	
教科書		補助教材			
改訂版 現代文B (第一学習社)		国語便覧(数研出版) 頻出漢字マスター3000(尚文出版) 現代文単語(桐原書店) 他			
到達目標	1 読解・鑑賞の能力をいっそう向上させ、認識力・思考力・感受性を啓発する。 2 現代社会の複雑多様な言語生活への適応を図る。 3 現代の言語文化を享受できるような読書力を育む。				
評価の観点	①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
	国語を伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取った後、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	表現と理解に役立てるための文法、語彙、語句、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で、③「書く能力」、④「読む能力」、⑤「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、確認プリントやテストで、①「関心・意欲・態度」を、授業中の質疑応答で、②「話す・聞く能力」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。				
学習内容(単元・項目)	学習到達目標(評価規準)				
評論(一) 「自明性の罨」からの解放 自他の「間合い」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論の基本的な読み方を習得することができる。</li> <li>・筆者の柔軟な思考方法に触れ、考える楽しみを味わうことができる。</li> </ul>				
小説(一) 山月記	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短編小説のもつ緊密な構成を理解し、鑑賞のしかたを学ぶことができる。</li> <li>・自分に引きつけて読み、人間に対する深い感受性を養うことができる。</li> </ul>				
評論(二) 「私」中心の日本語 日本人の「自然」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二項対立、抽象論と具体例の関係など、評論の基本的な構成を把握することができる。</li> <li>・日本人の美意識や言語感覚について理解を深めることができる。</li> </ul>				
評論(三) 手の変幻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的な言葉の意味を押さえ、その内容や背景を理解する力を養うことができる。</li> <li>・自分を取り巻く世界について、意識的に考えるための契機とすることができる。</li> </ul>				
評論(三) 存在としての建築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的な言葉の意味を押さえ、その内容や背景を理解する力を養うことができる。</li> <li>・自分を取り巻く世界について、意識的に考えるための契機とすることができる。</li> </ul>				
小説(二) ころ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説を主体的に読解・鑑賞する姿勢を身につけることができる。</li> <li>・小説を自己の問題として捉え直し、人間の「生」の意味と意義を考えることができる。</li> </ul>				
評論(四) 働かないアリに意義がある 消費社会とは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例と筆者の意見の対応を理解し、論の展開を把握することができる。</li> <li>・現代の社会・経済・科学技術について理解を深めることができる。</li> </ul>				
詩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の詩に親しみ、鑑賞の方法に習熟することができる。</li> <li>・近現代の詩の技法に親しむとともに、想像力を豊かにすることができる。</li> </ul>				
言語活動 創作の楽しみ 実用的な文章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら創作する契機とし、言葉に対する感受性を磨くことができる。</li> <li>・現代社会の一側面について理解を深めることができる。</li> </ul>				
評論(五) トランス・サイエンスの時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を取り巻く世界を相対的に見る視点を養うことができる。</li> <li>・科学と人間生活との関わりについて、自分なりに理解を深めることができる。</li> </ul>				
小説(三) 葉桜と魔笛	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短編小説のおもしろさを味わい、鑑賞のしかたを学ぶことができる。</li> <li>・小説の主題を把握し、価値の多面性について考えを深めることができる。</li> </ul>				
評論(六) 連帯という言葉の意味	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的関係についての筆者の主張を把握し、対する自分の意見を明確にすることができる。</li> <li>・読解を通して、自他の関係についての新たな視点を身につけることができる。</li> </ul>				

学科名	学年	教科	科目	単位数	
・普通科 ・理数科学科 ・人文社会科学科	2	国 語	古 典B	3	
教科書		補助教材			
改訂版 古典B (古文編) 改訂版 古典B (漢文編) (第一学習社)		完全マスター古典文法 (第一学習社) 漢文必携 (桐原書店) 核心古文単語 3 5 1 (尚文出版) 他			
到達目標	1 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2 思考力や想像力を伸ばし心情を豊かにする。 3 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。 4 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
評価の観点	①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
	古典に対する関心を深め、辞書などを積極的に活用して、進んで理解したり味わったりする。	古典特有の調子を味わいながら音読したり聞いて味わったりする。また感じたことや考えたことを発表する。	古典を読んで感じたことや考えたことを文章にまとめ、表現することができる。	表現上の特色を理解し優れた表現に親しみながら、様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	古典理解に必要な語彙・文語文法・修辞法・句法・古典常識などの知識を身につけている。
学習の評価	1 定期考査で、③「書く能力」、④「読む能力」、⑤「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認プリントやテストで、①「関心・意欲・態度」を、授業中の質疑応答で、②「話す・聞く能力」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。				
学習内容 (単元・項目)	学習到達目標 (評価規準)				
説話・随筆 (一) 宇治拾遺物語 随筆 (一) 徒然草	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的短い説話を読んで古文に親しみをもち、そのおもしろさを理解することができる。</li> <li>・展開や人物の心理を的確に把握し、説話文学を通して古典への興味を養うことができる。</li> <li>・作者のものの見方について考え、通底する作者の考え方の特色を理解することができる。</li> <li>・古典的・伝統的な美意識に基づいた作者の自然観を理解することができる。</li> </ul>				
故事・寓話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文に慣れ、訓読上のきまりをより正しく理解することができる。</li> <li>・故事・寓話のもつ寓意を理解し、思考力や判断力を養うことができる。</li> </ul>				
随筆(一) 方丈記 物語(一) 竹取物語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者のものの見方について考え、通底する作者の考え方の特色を理解することができる。</li> <li>・自由な形式で叙述した随筆文学の特色を理解することができる。</li> <li>・敬語の用法を正しく理解することができる。</li> <li>・言語活動 (古典に描かれた年中行事と、地域や社会に伝わる年中行事について)</li> </ul>				
古代の史話 名家の文章 物語(一) 大和物語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の表現・比喩・構成の巧みさ、論の展開を理解することができる。</li> <li>・作品の内容・表現を理解し、自己の思考と表現力を高めることができる。</li> <li>・作品中の和歌に人物の思いがどのように描写されているかを正確に把握することができる。</li> <li>・登場人物の言動と心の動きがどのように描写されているかを正確に把握することができる。</li> </ul>				
物語(一) 伊勢物語 随筆(二) 枕草子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌物語における和歌の役割や位置づけを理解することができる。</li> <li>・言語活動 (同じ題材を取りあげた文章を読み比べての共通点や相違点)</li> <li>・さまざまな形式や話題で織りなされている随筆の特色を捉えることができる。</li> <li>・作者の美意識や好み、判断や評価の基準、教養に基づく機知を理解することができる。</li> </ul>				
項羽と劉邦 (史記)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長い文章を、話の筋を追いながら読解する力を養うことができる。</li> <li>・人間の真実を追求しようとした司馬遷の意図を理解することができる。</li> </ul>				
物語(二) 大鏡 源氏物語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『大鏡』と『源氏物語』を読み、表現・文体、判断などを対比的に捉えることができる。</li> <li>・紀伝体歴史叙述の構成原理と、戯曲的構成を把握することができる。</li> <li>・長編物語を組みたてる人間関係の一端を理解することができる。</li> </ul>				
漢詩の鑑賞 志怪と伝奇	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国近体詩と日本人の漢詩を味わい、鑑賞力ひいては豊かな人間性を養うことができる。</li> <li>・話の不思議さを味わい、当時の人々の豊かな想像力と社会状況の一端を捉えることができる。</li> </ul>				
日記 更級日記	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日記文学が自己の視点で時間を追って記述する文章であることを抑えることができる。</li> <li>・物語世界への憧れが少女期の心を動かし、以後変化していくことを理解することができる。</li> </ul>				
思想 (儒家)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡略な表現、論理的な表現、比喩的な表現の妙味を味わうことができる。</li> </ul>				
日記 建礼門院右京大夫集・十六夜日記 物語(三) 平家物語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代背景を理解した上で、作品に表れた作者の心情を読み解くことができる。</li> <li>・和歌が心情の吐露や旅の慰めであることを理解し、修辞法への知識を深めることができる。</li> <li>・軍記物語特有の語彙や語法、文体などに留意して、適切に現代語訳することができる。</li> <li>・生き生きとした合戦描写や武人たちの人物造形を読み味わうことができる。</li> </ul>				
思想 (道家・法家) 宋・元代の文章	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩の巧みさ・説得の巧みさを味わい、主張や論理を的確に捉えることができる。</li> <li>・宋・元代の随筆・紀行文を読み、人間の心理のおもしろさを理解することができる。</li> </ul>				
物語(三) 義経記	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軍記物語特有の語彙や語法、文体などに留意して、適切に現代語訳することができる。</li> </ul>				

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数	
普通科・理数科学科・人文社会科学科	3	国語	現代文B	3・2	
教科書	補助教材				
高等学校改訂版現代文B (第一学習社)	[改訂版]現代文キーワード読解(Z会) 頻出漢字マスター3000(尚文出版)				
到達目標	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することにより人生を豊かにする態度を育てる。				
評価の観点	①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
	日本語や言語文化に対する関心を深め、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えを、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	自分の考えを深めたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立つための文法、語彙、語句、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で③「書く能力」、④「読む能力」、⑤「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認プリント・テストで①「関心・意欲・態度」を、授業中の質疑応答で②「話す・聞く能力」を評価する。 3 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。				
学習内容(単元・項目)	学習到達目標(評価規準)				
未来世代への責任(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論を読み、その構成・展開・要旨などを、文章に即して的確に読み取る。</li> <li>・経済学と環境問題についての文章を読み、思索を深める。</li> </ul>				
檸檬(小説)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。</li> <li>・心象風景を描いた小説の読み取りを通じて、洞察力を養う。</li> </ul>				
リスク社会とは何か(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論を読み、筆者の述べる人間・社会についての的確に理解する。</li> <li>・現代のリスク社会が直面している状況を把握し、自分の問題として、思索を深める。</li> </ul>				
骰子の七の目(小説)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説を読み、場面や登場人物の描写を的確に捉える。</li> <li>・心象風景を描いた小説の読み取りを通じて、洞察力を養う。</li> </ul>				
コスモポリタニズムの可能性(評論)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な評論の構成、論の展開を把握して、要旨を的確に理解する。</li> <li>・抽象的な概念を正しく理解し、現代社会の抱える問題を自己に引きつけて考える。</li> </ul>				
枯野抄(小説)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代と異なる時代背景を踏まえつつ、場面や登場人物の描写を的確に捉える。</li> <li>・心象風景を描いた小説の読み取りを通じて、洞察力を養う。</li> </ul>				

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数	
普通科・理数科学科	3	国語	古典B	3	
教科書	補助教材				
高等学校改訂版古典B 古文編・漢文編 (第一学習社)	新版五訂完全マスター古典文法(第一学習社) 理解しやすい古文(文英堂) 新版理解を深める核心古文単語351(尚文出版) 新明説漢文(京都書房) 理解しやすい漢文(文英堂) 常用国語便覧(浜島書店)				
到達目標	古典としての古文と漢文を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、古典に親しむことによって人生が豊かにする態度を育てる。				
評価の観点	①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
	古典に対する関心を深め、辞書などを積極的に活用して、進んで理解したり味わったりする。	古典特有の調子を味わいながら音読したり聞いて味わったりする。また感じたことや考えたことを発表する。	古典を読んで感じたことや考えたことを文章にまとめ、表現することができる。	表現上の特色を理解し優れた表現に親しみながら、様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	古典理解に必要な語彙・文語文法・修辭法・句法・古典常識などの知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で③「書く能力」、④「読む能力」、⑤「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認プリント・テストで①「関心・意欲・態度」を、授業中の質疑応答で④「読む能力」を評価する。 3 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。				
学習内容(単元・項目)	学習到達目標(評価規準)				
逸話 古代の史話(漢文)	・古文や漢文に用いられている語句の意味、用法を理解し、その特有の表現を味わうことができる。				
随筆(一) 枕草子(古文)	・文章や作品に表れた思想や感情を的確に読み取り、文学のあり方や人生についての考えを深めるとともに、その考えを発表することができる。 ・古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考えることができる。				
物語(一) 源氏物語(古文) 評論(一) 無名草子(古文) 俊頼髓脳(古文) 日記 紫式部日記(古文) 史記の群像(漢文)	・古文や漢文に用いられている語句の意味、用法を理解し、その特有の表現を味わうことができる。 ・文章や作品に表れた思想や感情を的確に読み取り、文学のあり方や人生についての考えを深めるとともに、その考えを発表することができる。 ・古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考えることができる。				
物語(二) 大鏡、増鏡(古文) 物語(三) とりかえばや物語(古文) しのびね物語(古文) 評論(二) 玉勝間(古文) 明代の文章(漢文) 清代の文章(漢文)	・古文や漢文に用いられている語句の意味、用法を理解し、その特有の表現を味わうことができる。 ・文章や作品に表れた思想や感情を的確に読み取り、文学のあり方や人生についての考えを深めるとともに、その考えを発表することができる。 ・古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考えることができる。				

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数	
人文社会科学科	3	国語	古典研究	3	
教科書	補助教材				
高等学校改訂版古典B 古文編・漢文編 (第一学習社)	新版五訂完全マスター古典文法(第一学習社) 理解しやすい古文(文英堂) 新版理解を深める核心古文単語351(尚文出版) 新明説漢文(京都書房) 理解しやすい漢文(文英堂) 常用国語便覧(浜島書店)				
到達目標	古典としての古文と漢文を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、古典に親しむことによって人生が豊かにする態度を育てる。				
評価の観点	①関心・意欲・態度	②話す・聞く能力	③書く能力	④読む能力	⑤知識・理解
	古典に対する関心を深め、辞書などを積極的に活用して、進んで理解したり味わったりする。	古典特有の調子を味わいながら音読したり聞いて味わったりする。また感じたことや考えたことを発表する。	古典を読んで感じたことや考えたことを文章にまとめ、表現することができる。	表現上の特色を理解し優れた表現に親しみながら、様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	古典理解に必要な語彙・文語文法・修辭法・句法・古典常識などの知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で③「書く能力」、④「読む能力」、⑤「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認プリント・テストで①「関心・意欲・態度」を、授業中の質疑応答で④「読む能力」を評価する。 3 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。				
学習内容(単元・項目)	学習到達目標(評価規準)				
逸話 古代の史話(漢文)	・古文や漢文に用いられている語句の意味、用法を理解し、その特有の表現を味わうことができる。				
随筆(一) 枕草子(古文)	・文章や作品に表れた思想や感情を的確に読み取り、文学のあり方や人生についての考えを深めるとともに、その考えを発表することができる。 ・古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考えることができる。				
物語(一) 源氏物語(古文) 評論(一) 無名草子(古文) 俊頼髓脳(古文) 日記 紫式部日記(古文) 史記の群像(漢文)	・古文や漢文に用いられている語句の意味、用法を理解し、その特有の表現を味わうことができる。 ・文章や作品に表れた思想や感情を的確に読み取り、文学のあり方や人生についての考えを深めるとともに、その考えを発表することができる。 ・古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考えることができる。				
物語(二) 大鏡、増鏡(古文) 物語(三) とりかえばや物語(古文) しのびね物語(古文) 評論(二) 玉勝間(古文) 明代の文章(漢文) 清代の文章(漢文)	・古文や漢文に用いられている語句の意味、用法を理解し、その特有の表現を味わうことができる。 ・文章や作品に表れた思想や感情を的確に読み取り、文学のあり方や人生についての考えを深めるとともに、その考えを発表することができる。 ・古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考えることができる。				

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科 ・人文社会科学科	1	地理歴史	世界史A	2
教科書		補助教材		
世界史A 新訂版(実教出版)		最新世界史図説 タペストリー十九訂版(帝国書院)/ふるさと富山(富山県教育委員会)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の歴史の大きな枠組みと流れを、特に東アジアを定点軸として、日本の歴史と関連づけながら理解させる。</li> <li>諸事象の本質を、その歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によって、捉えられるようにさせる。</li> <li>文化の多様性や、複雑な多国間関係を広い視野から考察し、理解を深め、将来の国際社会における民主的・平和的な社会の一員としての自覚と資質を養う。</li> </ul>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用 of 技能	④知識・理解
	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする。	世界の特質や文化の多様性を多面的に考察し、国際社会の変化をふまえて公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的な事象を追求する方法を身につける。	世界の歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、多面的に考察する力を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」③「資料活用 of 技能」④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
東アジア世界の成立 東アジア世界の展開		<ul style="list-style-type: none"> <li>東アジアの文化的結びつき、祭政一致、封建制、実力本位について理解を深め、統一王朝出現の背景とその意義について、日本への影響にも留意しながら考える。</li> </ul>		
東アジア世界の変動 東アジア世界の動き 朝鮮半島と日本列島		<ul style="list-style-type: none"> <li>鮮卑王朝の興亡、遊牧騎馬民族など周辺民族について整理・理解し、冊封体制下での東アジア世界の構築に関し説明できる。</li> </ul>		
ヨーロッパ商業権とモンゴル帝国 明と東アジア 東南アジアの海域と東アジア		<ul style="list-style-type: none"> <li>モンゴルネットワークの成立の流れを説明できるようになる。明朝と室町幕府と関係を、各々の国内問題から捉える。銀本位制の中の日本を捉えながら、南蛮貿易や朱印船交易を世界史の視点から説明することができる。</li> </ul>		
清と東アジア アヘン戦争の衝撃 日本の近代化と東アジア		<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨーロッパ帝国主義の進出で、東アジア冊封体制に訪れた変化について理解し、それらが日本にも及ぼした影響について考察する。</li> </ul>		
日露戦争前後の東アジア 辛亥革命と東アジア		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の近代化が東アジアにも影響を与え、民族自決権に基づく国家形成を企図した流れを理解し、主権国家の有り様について考える。また、富山県と日露戦争との関係について考察する。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画（シラバス）

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・人文社会科学科	1	公民	現代社会	2
教科書		補助教材		
改訂版 現代社会(第一学習社)		最新図説 現社(浜島書店)		
到達目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としてのあり方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	現代社会の基本的問題に対する関心を高め、意欲的に課題を追求し、社会的事象を総合的に考える態度を身につける。	現代社会の諸問題から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としてのあり方生き方について、広い視野に立って多角的に考察し、公正に判断できる。	諸資料をメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し、考察過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	現代社会の基本的問題と人間の在り方生き方に関わる基本的な事柄や学び方を理解し、その知識を身につける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」③「資料活用の技能」④「知識・理解」を評価する。 2 平生の授業に臨む姿勢観察や課題の提出状況、及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)	学習到達目標(評価規準)			
第1章 現代に生きる人間	・現代社会における青年の生き方を考察できる。			
第2章 個人の尊重と法の支配 民主政治における個人と国家など	・民主政治と国家の在り方について、個人と国家などの観点から、理解することができる。			
第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 基本的人権の保障 世論形成と政治参加	・日本国憲法の基本的性格の背景を理解することができる。 ・平等権、自由権、社会権、新しい人権の内容と成立の背景を理解することができる。 ・政党の役割、選挙のしくみ、世論形成について理解し、主権者意識を持つことができる。			
第4章 国際政治の動向と日本の役割 今日の国際社会 地域紛争と人種民族問題	・第2次大戦後から現在の国際社会の状況を理解することができる。 ・様々な人種と民族、主な民族紛争について理解することができる。			
第5章 現代の経済社会と私たちの生活 市場経済のしくみ 経済成長と景気変動 金融機関のはたらき 戦後の日本経済の動き	・現代の技術革新、企業の役割、市場経済の機能、GNP・国民所得、経済成長と景気変動について理解することができる。 ・公的部門の役割と租税、金融機関の働きについて理解することができる。 ・戦後日本経済の変遷と産業構造の転換、財政問題、中小企業・農業問題について理解することができる。 また、富山の産業発展の様相について理解する。			
第6章 国際経済の動向と日本の役割 国際経済のしくみと貿易の拡大 国際経済の動向	・貿易の意義や経済のグローバル化について考える。 ・貿易の拡大とそれにとまらぬ貿易摩擦について、具体的事例をあげて考察する。 ・日本の貿易やアメリカなどの貿易について理解し、貿易の拡大とそれにとまらぬ貿易摩擦について考察する。			
第7章 現代に生きる倫理 豊かな人生を求めて 近代の西洋思想	・青年期の意義と課題について理解し、青年期の生き方について自覚を深めることができる。 ・先哲の思想を手がかりとして、人間の生き方、科学、日本人の思想の基礎を理解することができる。 ・富山の偉人の生き方に触れることで、自己の生き方を考えるきっかけとする。			

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(文系)	2	人文社会	世界史探究	3
教科書		補助教材		
世界史B 新訂版(実教出版)		最新世界史図説タペストリー十八訂版(帝国書院)、必携世界史用語(実教出版)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界史Bで学習する知識を踏まえ、それを自らの力で深く掘り下げ現代社会を生きる上での資質を養う。</li> <li>世界の歴史の大きな枠組みと流れを、日本の歴史と関連づけながら理解させる。</li> <li>文化の多様性や現代世界の特質を広い視野から考察し、理解を深め、将来の国際社会における民主的・平和的な社会の一員としての自覚と資質を養う。</li> <li>諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身につけさせる。</li> </ul>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする。	現代世界の特質や文化の多様性を多面的に考察し、国際社会の変化をふまえて公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につける。	世界の歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、多面的に考察する力を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、③「資料活用の技能」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1章 西アジア世界と地中海世界 ○ オリент世界の成立と展開 ○ ギリシア世界とヘレニズム  ○ ローマの成立と発展  ○ ローマ帝国とキリスト教  第2章 南アジア世界と東南アジア世界 ○ 北インドの古代王朝  第3章 東アジア世界 ○ 東アジアにめばえた文明 ○ 秦漢帝国の誕生  第4章 中央ユーラシア世界と東アジア世界の展開 ○ 南北朝時代 ○ 隋唐帝国 ○ 五代十国と宋  第5章 アフリカ世界と南北アメリカ世界 第6章 イスラームの広がりや西アジア世界の展開 ○ イスラーム世界の誕生 ○ イスラーム世界の発展  第7章 ヨーロッパ世界の形成と展開 ○ 東西ヨーロッパ世界の誕生  ○ カトリック教会と十字軍 ○ 中世的世界の解体  第8章 中央ユーラシア世界と諸地域の交流・再編 ○ モンゴル帝国と元朝の成立  第9章 近世ヨーロッパと大航海時代 ○ 大交易時代 ○ ルネサンス ○ 主権国家群の成立と宗教改革 ○ 近世ヨーロッパの社会と文化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリент諸民族が対立や交流を繰り返し、発展していった姿が理解できる。</li> <li>・アテネが歴史的な事件を経て民主政を進展させていったことを順を追って説明できる。</li> <li>・ギリシア・ヘレニズム文化の後世に対する影響や普遍性が理解できる。</li> <li>・ローマにおける身分闘争の歴史をアテネと比較しつつ理解することができる。</li> <li>・ローマが領域国家として発展していった姿と社会変動を関連させて理解できる。</li> <li>・ローマ帝国の繁栄と衰退がいかなる経済的理由を原因としているか理解できる。</li> <li>・キリスト教の基本的内容が把握され、それがいかんにして拡大したのか説明できる。</li> <li>・インド社会の特質を歴史的経緯をふまえて理解できる。</li> <li>・中国文明の特徴をその自然環境とともに理解できる。</li> <li>・春秋戦国時代の特色と思想の特徴をとらえ、中国思想の源流を社会背景とともに理解できる。</li> <li>・秦の中国統一が、以後の中国社会に与えた影響を理解できる。</li> <li>・北方遊牧民と農耕民の対立・協調が社会制度や文化に影響を及ぼしていることが理解できる。</li> <li>・唐の律令制度が日本などの東アジア世界に伝播し、影響を与えたことが理解できる。</li> <li>・唐から宋への社会変革(唐宋変革)が説明できる。</li> <li>・イスラームの特徴を理解できる。</li> <li>・イスラーム世界拡大の背景を考察することができる。</li> <li>・ゲルマン民族移動後の東西ヨーロッパの特徴と宗教的特質を理解できる。</li> <li>・ヨーロッパの封建制の特質を理解できる。</li> <li>・ヨーロッパの帝国理念を理解できる。</li> <li>・ヨーロッパの封建制の特質を理解できる。</li> <li>・十字軍遠征の経緯と封建制の解体について説明できる。</li> <li>・モンゴル帝国がユーラシアを支配できた理由を考察することができる。</li> <li>・ヨーロッパ世界の拡大が、南北アメリカやアジアに与えた影響を理解できる。</li> <li>・近代の先駆けとしてのルネサンスの意義について理解できる。</li> <li>・宗教改革の意義について理解できる。</li> <li>・「主権国家体制」の歴史的意義を考察し、自分なりの歴史観をもつことができる。</li> <li>・絶対主義国家の共通点やそれぞれの国の特徴を理解できる。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会科学科	2	人文社会	世界史探究	2
教科書		補助教材		
世界史B 新訂版 (実教出版)		最新世界史図説タペストリー十八訂版(帝国書院)、五訂必携世界史用語(実教出版)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界史Bで学習する知識を踏まえ、それを自らの力で深く掘り下げ現代社会を生きる上での資質を養う。</li> <li>世界の歴史の大きな枠組みと流れを、日本の歴史と関連づけながら理解させる。</li> <li>文化の多様性や現代世界の特質を広い視野から考察し、理解を深め、将来の国際社会における民主的・平和的な社会の一員としての自覚と資質を養う。</li> <li>諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身につけさせる。</li> </ul>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする。	現代世界の特質や文化の多様性を多面的に考察し、国際社会の変化をふまえて公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につける。	世界の歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、多面的に考察する力を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、③「資料活用の技能」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1章 西アジア世界と地中海世界 ○ オリент世界の成立と展開 ○ ギリシア世界とヘレニズム  ○ ローマの成立と発展  ○ ローマ帝国とキリスト教  第2章 南アジア世界と東南アジア世界 ○ 北インドの古代王朝  第3章 東アジア世界 ○ 東アジアにめばえた文明 ○ 秦漢帝国の誕生  第4章 中央ユーラシア世界と東アジア世界の展開 ○ 南北朝時代 ○ 隋唐帝国 ○ 五代十国と宋  第5章 アフリカ世界と南北アメリカ世界 第6章 イスラームの広がりや西アジア世界の展開 ○ イスラーム世界の誕生 ○ イスラーム世界の発展  第7章 ヨーロッパ世界の形成と展開 ○ 東西ヨーロッパ世界の誕生  ○ カトリック教会と十字軍 ○ 中世的世界の解体  第8章 中央ユーラシア世界と諸地域の交流・再編 ○ モンゴル帝国と元朝の成立  第9章 近世ヨーロッパと大航海時代 ○ 大交易時代 ○ ルネサンス ○ 主権国家群の成立と宗教改革 ○ 近世ヨーロッパの社会と文化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリент諸民族が対立や交流を繰り返し、発展していった姿が理解できる。</li> <li>・アテネが歴史的な事件を経て民主政を進展させていったことを順を追って説明できる。</li> <li>・ギリシア・ヘレニズム文化の後世に対する影響や普遍性が理解できる。</li> <li>・ローマにおける身分闘争の歴史をアテネと比較しつつ理解することができる。</li> <li>・ローマが領域国家として発展していった姿と社会変動を関連させて理解できる。</li> <li>・ローマ帝国の繁栄と衰退がいかなる経済的理由を原因としているか理解できる。</li> <li>・キリスト教の基本的内容が把握され、それがいかんにして拡大したのか説明できる。</li> <li>・インド社会の特質を歴史的経緯をふまえて理解できる。</li> <li>・中国文明の特徴をその自然環境とともに理解できる。</li> <li>・春秋戦国時代の特色と思想の特徴をとらえ、中国思想の源流を社会背景とともに理解できる。</li> <li>・秦の中国統一が、以後の中国社会に与えた影響を理解できる。</li> <li>・北方遊牧民と農耕民の対立・協調が社会制度や文化に影響を及ぼしていることが理解できる。</li> <li>・唐の律令制度が日本などの東アジア世界に伝播し、影響を与えたことが理解できる。</li> <li>・唐から宋への社会変革(唐宋変革)が説明できる。</li> <li>・イスラームの特徴を理解できる。</li> <li>・イスラーム世界拡大の背景を考えることができる</li> <li>・ゲルマン民族移動後の東西ヨーロッパの特徴と宗教的特質を理解できる。</li> <li>・ヨーロッパの封建制の特質を理解できる。</li> <li>・ヨーロッパの帝国理念を理解できる。</li> <li>・ヨーロッパの封建制の特質を理解できる。</li> <li>・十字軍遠征の経緯と封建制の解体について説明できる。</li> <li>・モンゴル帝国がユーラシアを支配できた理由を考察することができる。</li> <li>・ヨーロッパ世界の拡大が、南北アメリカやアジアに与えた影響を理解できる。</li> <li>・近代の先駆けとしてのルネサンスの意義について理解できる。</li> <li>・宗教改革の意義について理解できる。</li> <li>・「主権国家体制」の歴史的意義を考察し、自分なりの歴史観をもつことができる。</li> <li>・絶対主義国家の共通点やそれぞれの国の特徴を理解できる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・人文社会科学科・理数科学科	2	地理歴史	日本史B	3・2
教科書		補助教材		
詳説 日本史B 改訂版 (山川出版社)		最新日本史図表・史料日本史・日本史用語集		
到達目標	1 わが国の歴史の枠組みや流れを理解させ、基本的な知識を身に付けさせる。 2 歴史事象の原因や背景、因果関係などを多面的に追求し、歴史の見方・考え方を身に付けさせる。 3 わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、自国の文化と伝統の特色について認識を深めさせる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	日本史に対する興味・関心を高め、課題や疑問に対して意欲的に追求しようとする。	日本史を世界史的視野に立って総合的に考察し、自国の文化と伝統の特色について認識を深め、公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している	歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的な見方・考え方を身に付ける。	歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けるとともに、それぞれの時代背景を理解し、その知識を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの  第2章 律令国家の形成  第3章 貴族政治と国際文化		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本列島における文化の形成を、自然環境や大陸からの文化の影響による生活の変化と関連付けて理解できる。</li> <li>・古代国家の展開と古墳・白鳳の文化の特色に関する遺物、文献、絵画などの資料を活用し、それぞれの時代・文化の特徴をまとめることができる。</li> <li>・律令制度と大陸文化の受容を、東アジアの動向と関連させて理解できる。</li> <li>・律令体制の修正・強化がどのように行われたのか理解できる。</li> </ul>		
第2部 中世 第4章 中世社会の成立  第5章 武家社会の成長		<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂関政治や院政、荘園の発達や武士の台頭を通して、律令体制の崩壊過程について理解できる。</li> <li>・荘園のしくみや変質について説明できる。</li> <li>・武家政治の特徴や変遷について、幕府と朝廷の関係を軸に理解できる。</li> <li>・元寇が幕府政治や御家人たちに与えた影響について説明できる。</li> <li>・南北朝期から室町幕府の政権確立までの流れを理解できる。</li> <li>・中世末期の動乱の背景に、経済社会の発展や今日的生活文化の原型が見られることについて理解できる。</li> </ul>		
第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立  第7章 幕藩体制の展開  第8章 幕藩体制の動揺		<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦国時代から、統一政権が成立し、さらに諸制度が整備され充実する過程について説明することができる。</li> <li>・産業経済の発達やそれに伴う都市の成長について理解できる。</li> <li>・政治、経済面から幕政改革と文化の特徴をとらえる事ができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・人文社会科学科	2	地理歴史	地理B	3・2
教科書		補助教材		
新編詳解地理B改訂版(二宮書店)、新詳高等地図(帝国書院)		新詳地理資料COMPLETE2021(帝国書院)、2021データブック・オブ・ザ・ワールド(二宮書店) '21サクシード(啓隆社)、ウィニングコンパス 地理の整理と演習2021(とうほう)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本や世界に見られる諸事象を地理的事象として捉え、その展開から空間的諸条件と人間生活の相互作用を読み解く視点を身につける。</li> <li>自然地理学の初歩的な知識や考え方を身につけ、それらを土台にしながら世界の諸地域にみられる地理的事象に対する理解を深める。</li> <li>地理的認識を深め、地理的な見方・考え方を培う学習を通して、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</li> </ul>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	世界の諸地域に様々な地理的事象がみられる理由およびメカニズムに興味を抱き、それらの事象と人間生活とが相互に及ぼす影響や関係について意欲的に調べたり考えたりしようとする。	景観の成り立ちや有り様について、自然地理学的視点から大まかに説明することができる。また、自然環境や距離等の空間的諸条件と人間の経済活動との間にある相互作用について思考することができる。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料から、空間的および社会的な諸条件の影響を読み取り、資料で示された数値が人間生活をどのように規定しているのかを引き出すことができる。	空間的諸条件が世界の諸地域においてどのような景観を生んでいるかを理解し、その諸条件のもとで人間がどのような生活を送っているかをイメージすることができる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認プリント・テストで①「関心・意欲・態度」を、授業中の諸資料の活用で③「技能」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第Ⅰ編 地図と地理的技能  1章 地図情報と地図 1節 世界観の変化と地図 2節 地球儀と世界地図 3節 地理情報の地図化  2章 地図と地域調査  第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察  1章 自然環境 1節 地形		<ul style="list-style-type: none"> <li>時代と共に変化してきた世界像の経過を把握するとともに、図法の比較や地理情報の地図化等の活動を通して、現代における地図の使命と課題について理解することができる。</li> <li>収集した資料から、有用な情報を適切に選択し、これを基に、現代世界の地図について読み取ったり図表にまとめたりすることができる。</li> <li>GPSやGISなど現代の地図の仕組みと有用性を理解し、その知識を身につける。</li> <li>地形図の読図の技術を身につける。</li> <li>様々な地形の形成過程を理解し、それらの地形が見られる特徴的な地域を空間的に把握することができる。</li> <li>地形と人間生活との関連を多方面から考察することができる。</li> </ul>		
第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察  1章 自然環境 2節 気候 3節 自然と生活 4節 環境問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>気候要素と気候因子の意味を理解し、それらの連関について、具体的な地域の気候を題材にして説明することができる。</li> <li>雨温図やハイサーグラフを適切に読み取り、複数の図における差異を気候因子から説明することができる。</li> <li>気候と人間生活の関連を多方面から考察し、世界の諸地域における人間生活の多様性と共通性について、自然環境の観点から説明することができる。</li> </ul>		
第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察  2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 資源・エネルギー		<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の特徴的な農業地域の分布を、自然および社会条件に基づいて説明することができる。また、アメリカ合衆国・オーストラリア・インドなど国家規模の地域の農業について、多方面から考察することができる。</li> <li>資源の分布を空間的な諸条件に基づいて説明することができる。またそれらの偏在性について理解し、どのような問題(資源・エネルギー・環境問題)をもたらしているかを把握することができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	3	人文社会	世界史探究	4
教科書		補助教材		
世界史B新訂版(実教出版)		最新世界史図説タペストリー十七訂版(帝国書院)、必携世界史用語(実教出版)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会・政治を規定する19世紀以降の世界史の大きな枠組みと流れを、政治・経済史を中心に理解させる。</li> <li>・文化の多様性や現代世界の特質を広い視野から考察させ、理解を深めさせる。</li> <li>・諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる手法を用い、現代社会と政治に対する洞察力・個人的識見を身につけさせる。</li> </ul>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	世界の政治史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする。	現代社会の特質や文化の多様性を多面的に考察し、国際社会の変化をふまえて公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的な事象を追求する方法を身につける。	世界の近現代政治史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、多面的に考察する力を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、③「資料活用の技能」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第10章 アジア諸地域の帝国と第2次大交易時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明・清帝国と東アジア諸国家との関係、東南アジア海域世界とイスラーム世界の動向を扱い、16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解させる。</li> <li>・「主権国家体制」の歴史的意義を考察し、自分なりの歴史観を持つことができる。</li> </ul>			
第11章 環大西洋革命とバクス=ブリタニカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対主義諸国家の共通点やそれぞれの特徴を理解できる。</li> <li>・各国間の植民地抗争を、成立する世界商業ネットワークと関連づけながら理解できる。</li> <li>・世界市場の形成とヨーロッパのアジア進出、並びにアジア諸国の動揺と改革を具体的な事項とともに理解できる。</li> </ul>			
第12章 近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・典型的市民革命としての英・米・仏革命の背景と進展を理解し、近代国民国家・市民社会の形成への寄与を考察できる。</li> <li>・産業革命がもたらした経済・社会・政治全般における影響と問題点を自分の言葉で説明できる。</li> <li>・帝国主義という抽象的概念を理解し、具体的事象としてどのような現象が起こるか説明できる。</li> </ul>			
第13章 地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植民地をめぐるヨーロッパ諸国の競争とそれに対する植民地の抵抗を扱い、19世紀後期から20世紀初頭の世界の支配・従属を伴う一体化と社会の変容を理解させる。</li> </ul>			
第14章 二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝国主義戦争の極致としての第一次大戦とその後の世界秩序、それに抵抗する民族運動の特徴を概観できる。</li> <li>・世界恐慌が資本主義を大きく変容させ、世界状況を協調から戦争へと一変させたことを理解する。</li> <li>・第二次世界大戦の持つ複雑な性格を理解した上で、人類史上最悪の甚大な被害を具体的事例をもとに把握する。</li> </ul>			
第15章 冷戦から多極的国际社会へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦構造の成立と動揺を学び、世界が次第に多極化してゆく姿を理解する。</li> </ul>			
第16章 グローバリゼーションと地球環境の危機	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦の終結とあらたな問題を考察し、自らの生きる社会を世界史の中で位置づけることができる。</li> </ul>			

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会科学科	3	人文社会	世界史探究	4
教科書		補助教材		
世界史B新訂版(実教出版)		最新世界史図説タペストリー十七訂版(帝国書院)、必携世界史用語(実教出版)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会・政治を規定する19世紀以降の世界史の大きな枠組みと流れを、政治・経済史を中心に理解させる。</li> <li>・文化の多様性や現代世界の特質を広い視野から考察させ、理解を深めさせる。</li> <li>・諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる手法を用い、現代社会と政治に対する洞察力・個人的識見を身につけさせる。</li> </ul>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	世界の政治史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする。	現代社会の特質や文化の多様性を多面的に考察し、国際社会の変化をふまえて公正に判断する。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的な事象を追求する方法を身につける。	世界の近現代政治史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けているとともに、多面的に考察する力を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、③「資料活用の技能」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第10章 アジア諸地域の帝国と第2次大戦時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明・清帝国と東アジア諸国家との関係、東南アジア海域世界とイスラーム世界の動向を扱い、16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の特質を理解させる。</li> <li>・「主権国家体制」の歴史的意義を考察し、自分なりの歴史観を持つことができる。</li> </ul>			
第11章 環大西洋革命とバクス=ブリタニカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対主義諸国家の共通点やそれぞれの特徴を理解できる。</li> <li>・各国間の植民地抗争を、成立する世界商業ネットワークと関連づけながら理解できる。</li> <li>・世界市場の形成とヨーロッパのアジア進出、並びにアジア諸国の動揺と改革を具体的な事項とともに理解できる。</li> </ul>			
第12章 近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・典型的市民革命としての英・米・仏革命の背景と進展を理解し、近代国民国家・市民社会の形成への寄与を考察できる。</li> <li>・産業革命がもたらした経済・社会・政治全般における影響と問題点を自分の言葉で説明できる。</li> <li>・帝国主義という抽象的概念を理解し、具体的事象としてどのような現象が起こるか説明できる。</li> </ul>			
第13章 地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植民地をめぐるヨーロッパ諸国の競争とそれに対する植民地の抵抗を扱い、19世紀後期から20世紀初頭の世界の支配・従属を伴う一体化と社会の変容を理解させる。</li> </ul>			
第14章 二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝国主義戦争の極致としての第一次大戦とその後の世界秩序、それに抵抗する民族運動の特徴を概観できる。</li> <li>・世界恐慌が資本主義を大きく変容させ、世界状況を協調から戦争へと一変させたことを理解する。</li> <li>・第二次世界大戦の持つ複雑な性格を理解した上で、人類史上最悪の甚大な被害を具体的事例をもとに把握する。</li> </ul>			
第15章 冷戦から多極的国际社会へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦構造の成立と動揺を学び、世界が次第に多極化してゆく姿を理解する。</li> </ul>			
第16章 グローバリゼーションと地球環境の危機	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦の終結とあらたな問題を考察し、自らの生きる社会を世界史の中で位置づけることができる。</li> </ul>			

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・人文社会科学科・理数科学科	3	地理歴史	日本史B	4・3
教科書		補助教材		
詳説日本史B(山川出版社)		最新日本史図表・史料日本史・日本史用語集		
到達目標	1 わが国の歴史の枠組みや流れを理解させ、基本的な知識を身に付けさせる。 2 歴史事象の原因や背景、因果関係などを多面的に追求し、歴史の見方・考え方を身に付けさせる。 3 わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、自国の文化と伝統の特色について認識を深めさせる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	日本史に対する興味・関心を高め、課題や疑問に対して意欲的に追求しようとする。	日本史を世界史的視野に立って総合的に考察し、自国の文化と伝統の特色について認識を深め、公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している	歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的な見方・考え方を身に付ける。	歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けるとともに、それぞれの時代背景を理解し、その知識を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第IV部 近代・現代 第9章 近代国家の成立		・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。  ・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。  ・政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。  ・開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を諸外国の動向と関連付けて考察する。  ・伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。		
第10章 二つの世界大戦とアジア  第11章 占領下の日本		・第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。 ・ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。 ・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や国民生活の変化を踏まえて、市民文化の特色について考察する。 ・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ・日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について考察する。 ・日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を考察する。 ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考える。		
第12章 高度成長の時代  第13章 激動する世界と日本		・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を考察する。  ・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。  ・ドル＝ショックや、石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を考察する。  ・冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会科学科	3	人文社会	日本史研究	1
教科書		補助教材		
詳説日本史(山川出版社)		最新日本史図表・史料日本史・日本史B用語集		
到達目標	1 わが国の歴史の枠組みや流れを、主に文化・社会面を中心に理解させ、基本的な知識を身に付けさせる。 2 歴史事象の原因や背景、因果関係などを多面的に追求し、歴史の見方・考え方を身に付けさせる。 3 わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、自国の文化と伝統の特色について認識を深めさせる。 4 歴史学習における資料の重要性を理解させるため、資料を中心とした学習を行う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用 of 技能	④知識・理解
	日本史に対する興味・関心を高め、課題や疑問に対して意欲的に追求しようとする。	日本史を世界史的視野に立って総合的に考察し、自国の文化と伝統の特色について認識を深め、公正に判断できる。	歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的な見方・考え方を身に付ける。	歴史の大きな枠組みと流れを把握し、基本的知識を身に付けるとともに、それぞれの時代背景を理解し、その知識を身に付ける。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 レポートや課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能・表現」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第3編 近世の社会・文化と国際社会 第2章 産業経済の発展と文化 第3章 国際環境の変化と幕藩体制の動揺  第4編 近代日本の形成と東アジア 第1章 明治維新と立憲体制の成立 第2章 国際関係の推移と立憲国家の展開		<ul style="list-style-type: none"> <li>幕藩体制を支える朱子学の特徴を知り、武断政治から文治政治への転換の様子に注目する。</li> <li>商品経済の発展や農民層の分解という幕藩体制の構造的矛盾に着目しながら、幕府・諸藩の政治改革のあり方を理解する。</li> <li>封建社会の動揺、幕政改革の矛盾、欧米列強の接近と関連させて、国学・蘭学などの新しい学問による思想の変革及び化政文化の諸相について理解する。</li> <li>明治新政府が強力な中央集権体制の樹立をめざして諸制度の改革を進めたことに着目し、近代日本の特色を理解する。</li> <li>大日本帝国憲法制定の意義と、その限界や問題点について考察する。</li> <li>日本の大陸政策が清、ロシアと対立するに至った事情を、世界史の動向および日本資本主義の発達と関連させて理解する。</li> <li>近代産業の発達の諸相と労働者階級に注目し、近代における日本の経済構造の特色を考察する。</li> <li>学問の発展や教育制度に着目して、日本の近代文化の特色について考察する。</li> </ul>		
第5編 二つの世界大戦と日本 第1章 第一次世界大戦と日本 第2章 第二次世界大戦と日本  第6編 第二次世界大戦後の日本と世界 第1章 戦後日本の動向と国民生活 第2章 東西冷戦と日本の動向 第3章 現代の日本と世界		<ul style="list-style-type: none"> <li>第一次世界大戦の経緯とその影響を把握し、戦時期日本の経済発展と社会運動の高揚について理解する。</li> <li>護憲運動や政党政治の展開、民本主義・天皇機関説を通して、大正デモクラシーの思潮を理解する。</li> <li>東京を中心とする都市文化の特色について理解する。</li> <li>相次ぐ恐慌による政治的・経済的危機を背景に、軍部・右翼が台頭し、日本の中国侵略へと進展していく過程を理解する。</li> <li>太平洋戦争が国民生活に及ぼした影響について、写真・文献・統計などさまざまな資料を通して考察する。</li> <li>占領政策における民主化・非軍事化の内容を理解するとともに、学問・言論の自由のもとで展開した文化について考察する。</li> <li>日本の現代社会の状況を把握し、日本が当面している多くの課題を認識する。</li> <li>世界平和の実現や南北問題、地球規模での環境破壊の解決のために日本が今後何をすべきか考える。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・人文社会科学科	3	地理歴史	地理B	4・3
教科書		補助教材		
新編詳解地理B 改訂版(二宮書店)、新詳高等地図(帝国書院)		新編地理資料2019(とうほう)、2019データブック・オブ・ザ・ワールド(二宮書店)、'19サクシード(啓隆社)、ウイニングコンパス 地理の整理と演習(とうほう)		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的事象の展開から空間的諸条件と人間生活の相互作用を読み解き、現代社会における諸課題の要因について考察することができる。</li> <li>・自然地理学および人文地理学の基礎的な見方・考え方を土台として、世界各地の地誌について理解することができる。</li> <li>・地理的認識を深め、地理的な見方・考え方を培う学習を通して、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</li> </ul>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適正に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付ける。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、③「資料活用の技能」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の諸資料の活用で③「技能」を評価する。1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第Ⅱ編 現代社会の系統地理的考察  第2章 資源と産業 第2節 資源・エネルギー 第3節 工業 第4節 流通と消費		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界の資源・エネルギーに関する問題について、世界的視野からみた地域的特性や成立要因を理解している。</li> <li>・世界の工業の分布や動向に関する基礎的・基本的な知識や概念、グローバル化に伴う変化について理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>・世界の交通・通信・貿易・商業・観光の現状を捉え、その動向に関する基礎的・基本的な知識や概念を理解している。</li> </ul>		
第3章 人口と村落・都市 第1節 人口 第2節 村落・都市  第4章 生活文化と民族と宗教 第1節 衣食住 第2節 言語と宗教 第3章 民族と国家		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における人口構成や推移を分析・考察するための地理的思考力を身に付けている。また、人口増加地域および減少地域の実態に関して現代社会の動向を踏まえて理解することができる。</li> <li>・世界の村落・都市の分布および形態に関して、空間的または社会的な諸条件から説明することができる。</li> <li>・世界の衣食住の分布や変容について、空間的諸条件との相互関係およびグローバリゼーションの文脈の中で捉える視点や方法を身に付けている。</li> <li>・世界の民族・宗教の分布について基礎的・基本的な知識や概念を理解している。</li> <li>・現代世界の民族・領土問題について、歴史、宗教、言語、資源などの観点から多角的に考察することができる。</li> <li>・日本の領土問題について基礎的・基本的な知識や概念を理解している。</li> </ul>		
第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察  第1章 現代社会の地域区分  第2章 現代社会の諸地域 第1節 中国 第2節 韓国 第3節 東南アジア 第4節 インド 第5節 西アジア・東アジア 第6節 アフリカ 第7節 EU 第8節 ドイツとポーランド 第9節 ロシア 第10節 アメリカ 第11節 ブラジル 第12節 オーストラリアとカナダ  第3章 現代世界と日本 第1節 世界の中の日本  第2節 持続可能な社会を目指して		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域概念や地域区分の意義、有用性を理解し、地域区分の知識を方法を身に付けている。</li> <li>・地域区分の学習を通して、現代世界の多様性・多面性について理解している。</li> <li>・中国の歴史的背景や、経済発展をささえる工業、農業、人口、地域格差について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・韓国の歴史的背景や、文化、工業や農業の変化、経済発展について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・東南アジアの歴史的背景や、民族、自然と資源、農業、工業化と経済成長について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・インドの歴史的背景や、文化・工業や農村の変化、経済発展について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・西・中央アジアの歴史的背景や、自然や農牧業、鉱工業、宗教と生活について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・アフリカの自然と農牧業、鉱工業と貿易、紛争について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・ヨーロッパの歴史的背景や、自然、農業、鉱工業、言語と宗教、都市と交通について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・ドイツとポーランドの歴史的背景や、自然や民族、経済成長について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・ロシアの歴史的背景や、産業・生活の変化、資源開発、世界との結びつきについて、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・アメリカの歴史的背景や、自然、農業、鉱工業、文化、都市化について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・ブラジルの歴史的背景や、民族、自然、農業、資源開発と工業発展について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・オーストラリアとカナダの土地開発の歴史や変容、資源や産業について、その特色や課題を理解し、知識として身に付けている。</li> <li>・自然災害や資源小国、人口減少、グローバル化への対応等、現代世界における日本の国土の特色や諸課題について、個人や国、国際社会等からの多角的で客観的な視点を身に付けている</li> <li>・日本がかかえる地理的な諸課題を探究する過程において、主体的に課題を設定して探究し発表するという過程を通し、課題解決への視点や方法を身に付けている。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会科学科	3	人文社会	地理研究	1
教科書		補助教材		
詳解地理B(二宮書店)新詳高等地図(帝国書院)		新編地理資料, データブックオブザワールド, サクシード, ウイニングコンパスノート		
到達目標	<p>・地理Bの学習内容を, 自らが設定したテーマをもとに, さらに深化させることができるよう, 資料研究などとおして, 現代社会の諸地域を歴史的背景を踏まえて系統的・地誌的に考察する。</p> <p>・生徒各自が特定の系統的地理的内容(自然環境・資源・産業・民族など)か地誌的内容からテーマを設定し, 資料研究で内容を深化させ, 互いに発表する。</p>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用の技能	④知識・理解
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め, それを意欲的に追究するとともに, 国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし, それを系統的・地誌的に考察するとともに, 国際社会の変化を踏まえて公正に判断し, その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計, 画像など地域に関する諸資料を収集し, 有用な情報を選択, 活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付ける。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し, その知識を身に付けている。
学習の評価	<p>1 各自の個別研究をレポートとして提出する。また, それらの内容についての発表を行い, 討論によりさらに内容を深める。</p> <p>2 定期考査で②「思考・判断・表現」, ③「資料活用の技能」, ④「知識・理解」を評価する。</p> <p>3 課題の提出状況及び確認テストで①「関心・意欲・態度」を評価し, 授業中の諸資料の活用で③「資料活用の技能」を評価する。1の評価に2を加味し, 総合的に評価する。</p>			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
<p>以下の内容を中心に個人研究テーマを一つ設定する。</p> <p>第Ⅱ編 現代世界の系統地理的考察 1章4節 環境問題 2章1節 農林水産業の食料問題 2章2節 資源・エネルギー問題 3章1節 人口問題</p>		<p>・人口・食料問題, 環境・エネルギー問題や領土問題を世界的視野から地域性を踏まえて追求し, それらの解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることについて理解する。</p> <p>・自然環境や社会環境の違いによって生活と密着した衣食住に違いが生じることを理解する。民族問題を世界的視野から地域性を踏まえて追求し, それらの解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることについて理解する。</p>		
<p>以下の内容から個人研究テーマを一つ設定する。</p> <p>第Ⅲ編 現代世界の地理的考察</p> <p>・変化に富んだ地形と気候の東アジア ・モンスーンの影響をうける東南アジア ・三つに分けられる地形の南アジア ・乾燥した大地が広がる西・中央アジア ・赤道を軸として南北で対照的なアフリカ ・高緯度でも温暖なヨーロッパ ・広大な国土と多様な自然のロシア ・南北東西で異なる自然環境の北アメリカ ・南北と標高で異なるラテンアメリカ ・一つの大陸と島々からなるオセアニア ・世界と結びつく日本</p>		<p>・現代世界の国家群や貿易, 交通・通信などの現状と課題を地域の環境条件と関連付けて追究し, 国家間の結びつきを地理的に考察できる。</p> <p>・国家規模の地域を地誌的にとらえる視点や方法を身に付けている。 具体的地域の例－韓国, オーストラリア, アメリカ合衆国－</p> <p>・州, 大陸規模の地域を地誌的にとらえる視点と方法を身に付けている。 具体的地域の例－西アジア・中央アジア, ヨーロッパ, 東南アジア－</p> <p>・近隣諸国の生活・文化を地域の環境条件と関連付けて追究し, 日本との共通性や異質性及び異文化を理解し尊重できる。また, 近隣諸国との交流のあり方や日本の役割を理解する。 具体的地域の例－中国・ロシア</p>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)				
学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・人文社会科学科	3	人文社会	公民探究	4
教科書		補助教材		
高校倫理新訂版(実教出版) 高校政治・経済新訂版(実教出版)		テオリア 最新倫理資料新版三訂(第一学習社)、倫理用語集(山川出版社) 最新図説政経(浜島書店)、政治・経済用語集(山川出版社)		
到達目標	広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③資料活用 of 技能	④知識・理解
	人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする。 現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心をもち、意欲的に探究しようとしている。	生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある一公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断し、追究・考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。 現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる諸課題の本質や特質、さらには望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的、多角的に考察し、そこに到る過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するよう活用し、 現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる基本的な問題や重要な課題にかかわる事柄に関する諸資料をさまざまなメディアから収集し、有用な情報を適切に選択・活用することができる。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 現代の政治、経済、社会、国際関係にかかわる基本的な事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、②「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況及び進学模試、授業中の諸資料の活用などで、①「関心・意欲・態度」、③「技能」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
倫 理 分 野	第1編 青年期の課題と人間の自覚 1 青年期の課題と自己形成 2 人間としての自覚 3 日本人としての自覚	人間の定義、人生における青年期の位置とその課題を考察することができる。古代日本人の考え方や生き方、風土との関連や言葉の使い方などをもとに、日本人の人間観・自然観について考える。仏教、儒教の考え方について理解することができる。 より豊かな自己実現のための、生きることについての主体的な思索を理解することができる。宗教が人生にどのような意味を持つかを考える。美への感動と愛の関連について理解し、芸術の意義について考えることができる。 わが国の先人たちが、西洋の近代思想をどのように受容し、日本の伝統思想とどのように統合しようとしたかを理解することができる。		
	第2編 現代と倫理 1 現代に生きる人間の倫理 ・人間の尊厳 ・科学・技術と人間 ・民主社会と自由の実現 ・社会と個人 ・人間への新たな問い ・社会参加と幸福 2 現代の諸課題と倫理 ・生命、環境、家族についての倫理 ・地域社会、高度情報化社会の課題 ・国際平和と人類の福祉の課題	近代的な人間尊重の考え方が、自然や社会などに対する見方を変えていったことを理解することができる。 個人の尊重と民主主義の倫理、個人と国家の関係などを理解することができる。 理性中心の考え方ではなく、自由で主体的に生きる人間の生き方を理解することができる。 現代の科学技術の自然観の再検討の必要性を理解することができる。 現代の課題について実態と問題点を理解し、具体的な問題について考察することができる。		
政 治 ・ 経 済 分 野	第1編 現代の政治 1 民主政治の基本原則 2 日本国憲法の基本的性格 3 日本の政治機構 4 現代日本の政治 5 現代の国際政治	民主主義の本質について理論的・体系的に理解を深め、現代の政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、現実の情勢を主体的に探究する態度が身につけることができる。 日本国憲法の基本原則、日本の政治機構、現代の政治の諸課題について理解を深め、法の支配の意義や現実の社会における法の機能、国民の司法参加の意義や課題についても考察することができる。		
	第2編 現代の経済 1 経済社会の変容 2 現代経済のしくみ 3 現代経済と福祉の向上 4 世界経済と日本	現代経済のしくみを基礎的な経済理論の観点から理解するとともに、国民経済の動向および、政府の役割と日本経済が抱える課題などについて考察することができる。		
	第3編 現代社会の諸課題 ①地域社会をいかに活性化するか ②中小企業の新しい変化 ③農業、農村と食料、環境問題 ④雇用と労働をめぐる問題 ⑤これからの社会保障のあり方 ⑥地球環境の保全と経済成長 ⑦原子力と再生可能エネルギー ⑧人種・民族問題 ⑨国際経済格差の是正と国際協力 ⑩国際社会における日本の立場と役割	国際社会の現状と諸課題について理解し、国際社会に生きる日本の役割について考察し、それを踏まえて、現代社会の諸課題について主体的に考察するとともに公正な判断力を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を身につけることができる。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	1	数学	数学 I	3
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学 I (数研出版)		改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学I+A (数研出版)、増補改訂版 チャート式 基礎からの数学I+A(数研出版)		
到達目標	1 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 2 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析について理解させ, 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに, それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して, 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析における考え方に興味をもつとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して, 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付け, 事象を数学的にとらえ, 論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析において, 事象を数学的に考察し, 表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け, 的確に問題を解決する。	数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形の計量及びデータの分析における基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に, ②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を含めて, 定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を, 授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し, その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1章 数と式 第1節 式の計算 1 整式とその加減 2 整式の乗法 3 因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式		<ul style="list-style-type: none"> <li>・整式の整理ができる。</li> <li>・整式に応じて適切な方法で展開することができる。</li> <li>・整式に適した方法で因数分解ができる。</li> <li>・自然数、整数、有理数、無理数を実数として体系的に理解できる。</li> <li>・根号を含む式の計算に習熟し、分母の有理化ができる。</li> <li>・不等式について理解し、大小関係を不等式で表すことができる。</li> <li>・1次不等式とその連立不等式を解くことの意味を理解し、解を求めることができる。</li> <li>・絶対値を含んだ1次方程式や1次不等式を解くことができる。</li> </ul>		
第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の表現方法や基本的性質を理解できる。</li> <li>・論証の基礎となる用語を理解しそれを使いこなすことができる。</li> <li>・逆・裏・対偶の意味が理解できる。</li> <li>・対偶を利用した証明、背理法による証明をすることができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定 第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・関数を定義し、定義域、値域、グラフを理解できる。</li> <li>・2次関数のグラフを書くことができる。</li> <li>・2次関数の最大と最小を求めることができる。</li> <li>・条件に合わせて2次関数の方程式を求めることができる。</li> <li>・2次方程式の解の公式を導き、解を求めることができる。</li> <li>・方程式から2次関数のグラフとx軸の位置関係を理解できる。</li> <li>・2次関数のグラフを利用して2次不等式を解くことができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・鋭角の正接・正弦・余弦を定義を理解し、求めることができる。</li> <li>・正接・正弦・余弦との関係を理解できる。</li> <li>・鈍角の定義を理解し、求めることができる。</li> <li>・正弦定理が理解できる。</li> <li>・余弦定理が理解できる。</li> <li>・与えられた三角形の要素から残りの要素を求めることができる。</li> <li>・三角形の面積の求め方の理解を深め、それを活用して様々な図形の面積を求めることができる。</li> <li>・空間図形について、辺の長さや体積などの量を三角比を用いて表すことができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・データを度数分布表に整理することができる。また、度数分布表をヒストグラムで表すことができる。</li> <li>・平均値や中央値, 最頻値の定義や意味を理解し, それらを求めることができる。</li> <li>・四分位範囲の定義やその意味を理解し, それを求め, データの散らばりを比較することができる。</li> <li>・分散, 標準偏差の定義とその意味を理解し, 分散, 標準偏差を求めることができる。</li> <li>・散布図を作成し, 2つの変量の間の相関を考察することができる。</li> <li>・平均値, 分散, 標準偏差, 相関係数の定義に従った式を表計算ソフトに入力し, それらを計算することができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	1	数学	数学Ⅱ	1
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版)		改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学Ⅱ+B (数研出版)、改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版)		
到達目標	1 複素数と三角関数, 指数関数, 対数関数について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 2 等式や不等式の証明, 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに, それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して, 三角関数, 指数関数, 対数関数, 複素数における考え方に関心をもつとともに, 証明や方程式の解法などを通して数学的な見方や考え方のよさを認識し, それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して, 複素数, 三角関数, 指数関数, 対数関数における数学的な見方や考え方を身に付け, 事象を数学的にとらえ, 証明などを学ぶことで論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	事象を数学的に考察し, 表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け, 的確に問題を解決する。	基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に, ②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を含めて, 定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を, 授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し, その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1章 式と証明 第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 整式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式 第2節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3次式の因数分解ができる。</li> <li>・二項定理について習熟し, これを利用することができる。</li> <li>・整式の割り算により, 商と余りを計算できる。</li> <li>・分数式の四則計算ができる。</li> <li>・恒等式について習熟し, これを利用することができる。</li> <li>・等式の証明法について習熟し, 代数的に証明することができる。</li> <li>・不等式の証明法について習熟し, 代数的に証明することができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
第2章 複素数と方程式 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数の四則計算ができる。</li> <li>・2次方程式の解が実数解になるか虚数解になるかを, 判別式を用いて判断できる。</li> <li>・解と係数の関係を導き, これを利用することができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1 指数の拡張 2 指数関数 第2節 対数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・指数の拡張について理解し, 指数法則を使って計算ができる。</li> <li>・指数関数のグラフをかくことができる。また, 指数方程式や不等式を解くことができる。</li> <li>・対数の定義や法則を理解し, 対数の値や計算ができる。</li> <li>・対数関数のグラフをかくことができる。また, 対数方程式や不等式を解くことができる。</li> <li>・常用対数を利用して, 桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
第4章 三角関数 第1節 三角関数 1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数の応用 第2節 加法定理 6 三角関数の加法定理 7 加法定理の応用 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・角の概念を拡張した一般角が理解できる。</li> <li>・一般角を用いた三角関数の定義が理解できる。</li> <li>・三角関数のグラフの周期性や対称性を理解し, グラフを書くことができる。</li> <li>・三角関数の相互関係を利用して問題を解くことができる。</li> <li>・簡単な三角方程式・三角不等式を解くことができる。</li> <li>・加法定理を用いて三角関数の値を計算することができる。</li> <li>・三角関数の合成を用いて, 関数の最大値や最小値を求めることができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	1	数学	数学A	2
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学A (数研出版)		改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学I+A (数研出版)、増補改訂版 チャート式 基礎からの数学I+A(数研出版)		
到達目標	1 場合の数と確率, 整数の性質及び図形の性質について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 2 場合の数と確率, 整数の性質及び図形の性質について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに, それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して, 場合の数と確率, 整数の性質及び図形の性質における考え方や体系に関心をもつとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して, 場合の数と確率, 整数の性質及び図形の性質における数学的な見方や考え方を身に付け, 事象を数学的にとらえ, 論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	場合の数と確率, 整数の性質及び図形の性質において, 事象を数学的に考察し, 表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け, よりよく問題を解決する。	場合の数と確率, 整数の性質及び図形の性質における基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に, ②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を含めて, 定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を, 授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し, その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組合せ 第2節 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>ベン図を利用して集合を図示することで, 要素の個数を考察することができる。</li> <li>事象に応じて, 樹形図, 和の法則, 積の法則を使い分けて場合の数を求めることができる。</li> <li>場合の数を, 順列, 円順列, 重複順列に帰着させて求めることができる。</li> <li>組合せの意味を知り, 総数を求めることができる。</li> <li>試行の結果を集合と結びつけて, 事柄の起こりやすさを数量的にとらえることができる。</li> <li>確率の性質を理解し, 和事象, 余事象の確率の求め方がわかる。</li> <li>独立な試行の確率や反復試行の確率を, 公式を用いて求めることができる。</li> <li>条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。</li> <li>発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺と比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図 第2節 空間図形 8 直線と平面 9 区間図形と多面体 問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>定理を適切に利用して, 線分の比や長さを求めることができる。</li> <li>三角形の外心, 内心, 重心の定義, 性質を理解している。</li> <li>チェバの定理, メネラウスの定理を, 三角形に現れる線分比や図形の面積比を求める問題に活用できる。</li> <li>円に内接する四角形の性質を利用して, 角度を求めたり, 図形の性質を証明することができる。</li> <li>円の接線と弧の作る角の性質や方べきの定理を利用して, 辺の長さや角の大きさを求めることができる。</li> <li>2つの円の位置関係を, 動的な面から観察することができる。</li> <li>内分点・外分点やいろいろな長さの線分が作図できる。</li> <li>空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを, 与えられた条件から考察できる。</li> <li>正多面体の特徴を理解し, それに基づいて面, 頂点, 辺の数を求めることができる。</li> <li>発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数・最小公倍数 3 整数の割り算と商・余り 第2節 ユークリッドの互除法 4 ユークリッドの互除法 5 1次不定方程式 第3節 整数の性質の活用 6 分数と小数 7 n進法 問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>ある整数aの倍数はakと表せることを使って, 簡単な命題を証明することができる。</li> <li>最大公約数, 最小公倍数を求めることができる。</li> <li>整数の除法を理解した上で, 余りに着目した整数の分類ができる。</li> <li>ユークリッドの互除法のよさが分かる。</li> <li>解が存在する二元一次不定方程式の解法を身につける。</li> <li>分数が整数, 有限小数, 循環小数のいずれかで表される理由を, 割り算の余りによって考察することができる。</li> <li>小数やn進法を通じて, 位取りの理解を深める。</li> <li>発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数学科・人文社会科学科	1	理数	理数数学 I	4
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学 I (数研出版) 改訂版 高等学校 数学 A (数研出版) 改訂版 高等学校 数学 II (数研出版)	改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学 I+A (数研出版)、増補改訂版 チャート式 基礎からの数学 I+A (数研出版) 改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学 II+B (数研出版)、改訂版 チャート式 基礎からの数学 II+B (数研出版)			
到達目標	1 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形と計量, データの分析, 式と証明, 複素数と方程式及び指数関数・対数関数について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 2 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形と計量, データの分析, 式と証明, 複素数と方程式及び指数関数・対数関数について理解させ, 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに, それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して, 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形と計量, データの分析, 式と証明, 複素数と方程式及び指数関数・対数関数における考え方に関心をもつとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して, 数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形と計量, データの分析, 式と証明, 複素数と方程式及び指数関数・対数関数における数学的な見方や考え方を身に付け, 事象を数学的にとらえ, 論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形と計量, データの分析, 式と証明, 複素数と方程式及び指数関数・対数関数において, 事象を数学的に考察し, 表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け, 的確に問題を解決する。	数と式, 集合と命題, 2次関数, 図形と計量, データの分析, 式と証明, 複素数と方程式及び指数関数・対数関数における基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に, ②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能含めて, 定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を, 授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し, その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
数学 I 第1章 数と式 第1節 式の計算 1 整式とその加減 2 整式の乗法 3 因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式		<ul style="list-style-type: none"> <li>・整式の整理ができる。</li> <li>・整式に応じて適切な方法で展開することができる。</li> <li>・整式に適した方法で因数分解ができる。</li> <li>・自然数, 整数, 有理数, 無理数を実数として体系的に理解できる。</li> <li>・根号を含む式の計算に習熟し, 分母の有理化ができる。</li> <li>・不等式について理解し, 大小関係を不等式で表すことができる。</li> <li>・1次不等式とその連立不等式を解くことの意味を理解し, 解を求めることができる。</li> <li>・絶対値を含んだ1次方程式や1次不等式を解くことができる。</li> </ul>		
数学 I 第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の表現方法や基本的性質を理解できる。</li> <li>・論証の基礎となる用語を理解しそれを使いこなすことができる。</li> <li>・逆・裏・対偶の意味が理解できる。</li> <li>・対偶を利用した証明, 背理法による証明をすることができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
数学 A 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺と比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図 第2節 空間図形 8 直線と平面 9 区間図形と多面体 問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定理を適切に利用して, 線分の比や長さを求めることができる。</li> <li>・三角形の外心, 内心, 重心の定義, 性質を理解している。</li> <li>・チェバの定理, メネラウスの定理を, 三角形に現れる線分比や図形の面積比を求める問題に活用できる。</li> <li>・円に内接する四角形の性質を利用して, 角度を求めたり, 図形の性質を証明することができる。</li> <li>・円の接線と弧の作る角の性質や方べきの定理を利用して, 辺の長さや角の大きさを求めることができる。</li> <li>・2つの円の位置関係を, 動的な面から観察することができる。</li> <li>・内分点・外分点やいろいろな長さの線分が作図できる。</li> <li>・空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを, 与えられた条件から考察できる。</li> <li>・正多面体の特徴を理解し, それに基づいて面, 頂点, 辺の数を求めることができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
数学 I 第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・鋭角の正接・正弦・余弦を定義を理解し, 求めることができる。</li> <li>・正接・正弦・余弦との関係を理解できる。</li> <li>・鈍角の定義を理解し, 求めることができる。</li> <li>・正弦定理が理解できる。</li> <li>・余弦定理が理解できる。</li> <li>・与えられた三角形の要素から残りの要素を求めることができる。</li> <li>・三角形の面積の求め方の理解を深め, それを活用して様々な図形の面積を求めることができる。</li> <li>・空間図形について, 辺の長さや体積などの量を三角比を用いて表すことができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
数学 I 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定 第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式 演習問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・関数を定義し, 定義域, 値域, グラフを理解できる。</li> <li>・2次関数のグラフを書くことができる。</li> <li>・2次関数の最大と最小を求めることができる。</li> <li>・条件に合わせて2次関数の方程式を求めることができる。</li> <li>・2次方程式の解の公式を導き, 解を求めることができる。</li> <li>・方程式から2次関数のグラフとx軸の位置関係を理解できる。</li> <li>・2次関数のグラフを利用して2次不等式を解くことができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		

<p>数学Ⅰ 第5章 データの分析</p> <p>1 データの整理</p> <p>2 データの代表値</p> <p>3 データの散らばりと四分位数</p> <p>4 分散と標準偏差</p> <p>5 データの相関</p> <p>6 表計算ソフトによるデータの分析</p> <p>演習問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データを度数分布表に整理することができる。また、度数分布表をヒストグラムで表すことができる。</li> <li>・平均値や中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。</li> <li>・四分位範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。</li> <li>・分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、分散、標準偏差を求めることができる。</li> <li>・散布図を作成し、2つの変量間の相関を考察することができる。</li> <li>・平均値、分散、標準偏差、相関係数の定義に従った式を表計算ソフトに入力し、それらを計算することができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>
<p>数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数</p> <p>第1節 指数関数</p> <p>1 指数の拡張</p> <p>2 指数関数</p> <p>第2節 対数関数</p> <p>3 対数とその性質</p> <p>4 対数関数</p> <p>5 常用対数</p> <p>演習問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指数の拡張について理解し、指数法則を使って計算ができる。</li> <li>・指数関数のグラフをかくことができる。また、指数方程式や不等式を解くことができる。</li> <li>・対数の定義や法則を理解し、対数の値や計算ができる。</li> <li>・対数関数のグラフをかくことができる。また、対数方程式や不等式を解くことができる。</li> <li>・常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>
<p>数学Ⅱ 第4章 三角関数</p> <p>第1節 三角関数</p> <p>1 角の拡張</p> <p>2 三角関数</p> <p>3 三角関数のグラフ</p> <p>4 三角関数の性質</p> <p>5 三角関数の応用</p> <p>第2節 加法定理</p> <p>6 三角関数の加法定理</p> <p>7 加法定理の応用</p> <p>演習問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角の概念を拡張した一般角が理解できる。</li> <li>・一般角を用いた三角関数の定義が理解できる。</li> <li>・三角関数のグラフの周期性や対称性を理解し、グラフを書くことができる。</li> <li>・三角関数の相互関係を利用して問題を解くことができる。</li> <li>・簡単な三角方程式・三角不等式を解くことができる。</li> <li>・加法定理を用いて三角関数の値を計算することができる。</li> <li>・三角関数の合成を用いて、関数の最大値や最小値を求めることができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>
<p>数学Ⅱ 第1章 式と証明</p> <p>第1節 式と計算</p> <p>1 3次式の展開と因数分解</p> <p>2 二項定理</p> <p>3 整式の割り算</p> <p>4 分数式とその計算</p> <p>5 恒等式</p> <p>第2節 等式・不等式の証明</p> <p>6 等式の証明</p> <p>7 不等式の証明</p> <p>演習問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3次式の因数分解ができる。</li> <li>・二項定理について習熟し、これを利用することができる。</li> <li>・整式の割り算により、商と余りを計算できる。</li> <li>・分数式の四則計算ができる。</li> <li>・恒等式について習熟し、これを利用することができる。</li> <li>・等式の証明法について習熟し、代数的に証明することができる。</li> <li>・不等式の証明法について習熟し、代数的に証明することができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>
<p>数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式</p> <p>1 複素数とその計算</p> <p>2 2次方程式の解</p> <p>3 解と係数の関係</p> <p>演習問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数の四則計算ができる。</li> <li>・2次方程式の解が実数解になるか虚数解になるかを、判別式を用いて判断できる。</li> <li>・解と係数の関係を導き、これを利用することができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科・人文社会科学科	1	理数	理数数学特論	2
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学A (数研出版)		改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学 I+A (数研出版)、増補改訂版 チャート式 基礎からの数学 I+A (数研出版)		
到達目標	<p>1 場合の数と確率及び整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。</p> <p>2 場合の数と確率及び整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	<p>数学的活動を通して、場合の数と確率及び整数の性質における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。</p>	<p>数学的活動を通して、場合の数と確率及び整数の性質における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。</p>	<p>場合の数と確率及び整数の性質において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。</p>	<p>場合の数と確率及び整数の性質における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。</p>
学習の評価	<p>1. ④知識・理解を中心に、②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を含めて、定期考査で評価する。</p> <p>2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を、授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し、その成績を加味し総合的に評価する。</p>			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
<p>第1章 場合の数と確率</p> <p>第1節 場合の数</p> <p>1 集合の要素の個数</p> <p>2 場合の数</p> <p>3 順列</p> <p>4 組合せ</p> <p>第2節 確率</p> <p>5 事象と確率</p> <p>6 確率の基本性質</p> <p>7 独立な試行と確率</p> <p>8 条件付き確率</p> <p>問題演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の要素の個数について成り立つ性質が理解できる。</li> <li>・樹形図を用いて場合の数を求めることができる。</li> <li>・場合の数を求めるときの基本として、和の法則を使うことができる。</li> <li>・場合の数を求めるときの基本として、積の法則を使うことができる。</li> <li>・順列の意味を知り、総数を求めることができる。</li> <li>・いろいろな順列について総数を求めることができる。</li> <li>・組合せの意味を知り、総数を求めることができる。</li> <li>・同じものを含む順列について総数を求めることができる。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
<p>第3章 整数の性質</p> <p>第1節 約数と倍数</p> <p>1 約数と倍数</p> <p>2 最大公約数・最小公倍数</p> <p>3 整数の割り算と商・余り</p> <p>第2節 ユークリッドの互除法</p> <p>4 ユークリッドの互除法</p> <p>5 1次不定方程式</p> <p>第3節 整数の性質の活用</p> <p>6 分数と小数</p> <p>7 n進法</p> <p>問題演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある整数aの倍数はakと表せることを使って、簡単な命題を証明することができる。</li> <li>・最大公約数、最小公倍数を求めることができる。</li> <li>・整数の除法を理解した上で、余りに着目した整数の分類ができる。</li> <li>・ユークリッドの互除法のよさが分かる。</li> <li>・解が存在する二元一次不定方程式の解法を身につける。</li> <li>・分数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を、割り算の余りによって考察することができる。</li> <li>・小数やn進法を通じて、位取りの理解を深める。</li> <li>・発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・人文社会科学科	2	数学	数学Ⅱ	3
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版)		改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学Ⅱ+B [ベクトル, 数列] (数研出版) 増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B (数研出版)		
到達目標	いろいろな式, 図形と方程式, 微分・積分の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに, それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	いろいろな式, 図形と方程式及び微分・積分の考えにおける考え方に興味をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式, 図形と方程式及び微分・積分の考えにおいて, 事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式, 図形と方程式及び微分・積分の考えにおいて, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能技術を身に付けている。	いろいろな式, 図形と方程式及び微分・積分の考えにおける基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に, ②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を含めて, 定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を, 授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し, その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第2章 複素数と方程式 1. 複素数と2次方程式の解 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係 2. 高次方程式 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式		<ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数の四則計算ができる。</li> <li>・2次方程式の解が実数解になるか虚数解になるかを, 判別式を用いて判断できる。</li> <li>・解と係数の関係を導き, これを利用することができる。</li> <li>・剰余の定理と因数定理を理解し, これを利用することができる。</li> <li>・因数定理やおき換えを使って高次方程式を解くことができる。</li> </ul>		
第3章 図形と方程式 1. 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 2. 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 3. 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域		<ul style="list-style-type: none"> <li>・数直線上の2点間の距離, 線分の内分点・外分点の座標を求めることができる。</li> <li>・平面上の2点間の距離, 線分の内分点・外分点の座標を求めることができる。</li> <li>・いろいろな条件の下で直線の方程式を求めることができる。</li> <li>・2直線の平行条件, 垂直条件を理解し, それらを利用して直線の方程式を求めることができる。</li> <li>・いろいろな条件の下で円の方程式を求めることができる。</li> <li>・円と直線の位置関係を調べたり, 円の接線の方程式を求めることができる。</li> <li>・2つの円の位置関係と, 中心間の距離と半径の関係から, 円の方程式を求めることができる。</li> <li>・軌跡の定義を理解し, 種々の軌跡の方程式を求めることができる。</li> <li>・不等式の表す領域を図示することができる。</li> </ul>		
第6章 微分法と積分法 1. 微分係数と導関数 1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式 2. 関数の値の変化 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用 3. 積分法 6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積		<ul style="list-style-type: none"> <li>・微分係数の意味を理解し, 微分係数を用いて接線の傾きを求めることができる。</li> <li>・導関数の意味を理解し, 微分の公式を用いて導関数を計算することができる。</li> <li>・導関数を計算して, 接線の方程式を求めることができる。</li> <li>・関数の増減表やグラフを求め, これらを用いて関数の最大値や最小値を求めることができる。</li> <li>・関数のグラフを用いて, 方程式の実数解の個数を調べたり, 不等式を証明することができる。</li> <li>・不定積分の意味を理解し, 主に2次以下の整関数を積分することができる。</li> <li>・定積分の基本的な性質を理解し, 定積分の公式によって定積分を計算することができる。</li> <li>・定積分を利用して, 直線や曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	2	数学	数学Ⅲ	1
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学Ⅲ (数研出版)		改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学Ⅲ (数研出版) 改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅲ (数研出版)		
到達目標	関数及び極限の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	平面上の曲線と複素数平面, 極限及び微分法に関心をもつとともに, それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 平面上の曲線と複素数平面, 極限及び微分法における数学的な見方や考え方を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面, 極限及び微分法において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技術を身に付けている。	平面上の曲線と複素数平面, 極限及び微分法における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に, ②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を含めて, 定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を, 授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し, その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1章 複素数平面 1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形		<ul style="list-style-type: none"> <li>複素数平面を考えることにより, 複素数の図形的側面が明らかになることを理解しようとする。</li> <li>極形式の定義を理解し, 複素数を極形式で表すことができる。</li> <li>ド・モアブルの定理を利用して, 複素数の<math>n</math>乗を求めることができる。</li> <li>複素数の方程式を満たす点全体について考察し, その意味を考えることや計算で求めることができる。</li> </ul>		
第2章 式と曲線 1. 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線 6 2次曲線の性質 2. 媒介変数表示と極座標 7 曲線の媒介変数表示 8 極座標と極方程式 9 コンピュータの利用		<ul style="list-style-type: none"> <li>軌跡の考えを利用して, 放物線の方程式を導くことができる。</li> <li>軌跡の考えを利用して, 楕円の方程式を導くことができる。</li> <li>軌跡の考えを利用して, 双曲線の方程式を導くことができる。</li> <li>複雑な方程式で表された2次曲線を, 平行移動を利用して考察することができる。</li> <li>2次曲線と直線の交点や接線, 弦の中点を2次方程式の実数解を利用して求めることができる。</li> <li>2次曲線が定点と定直線との距離の比の関係で定められることに関心を示し, それについて考察しようとする。</li> <li>媒介変数表示された曲線を, 媒介変数を消去した式で表すことができる。</li> <li>円や直線を極方程式で表すことができる。</li> <li>いろいろな曲線をコンピュータで描画し, その性質を考察できる。</li> </ul>		
第3章 関数 1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数		<ul style="list-style-type: none"> <li>分数関数のグラフをかき, そのグラフを利用して分数式を含む簡単な方程式や不等式を解くことができる。</li> <li>無理関数のグラフをかき, そのグラフを利用して無理式を含む簡単な方程式や不等式を解くことができる。</li> <li>逆関数を求めたり, 2つ以上の関数の合成関数を求めたりすることができる。</li> </ul>		
第4章 極限 1. 数列の極限 1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数 2. 関数の極限 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性		<ul style="list-style-type: none"> <li>無限数列の極限を求めることができる。</li> <li>無限等比数列や漸化式で表される数列の極限を求めることができる。</li> <li>無限級数の定義を理解し, 収束や発散について調べることができる。</li> <li>関数の極限の意味を理解し, そのいろいろな状態を詳しく調べることができる。</li> <li>不定形を解消するなど, 関数の式を適切に変形することで, 関数の極限を求めることができる。</li> <li>三角関数の極限の意味を理解し, 求めることができる。</li> <li>関数の連続性の意味を理解し, 連続・不連続の判定ができる。</li> </ul>		
第5章 微分法 1. 導関数 1 微分係数と導関数 2 導関数の計算 2. いろいろな関数の導関数 3 いろいろな関数の導関数 4 第 $n$ 次導関数 5 曲線の方程式と導関数		<ul style="list-style-type: none"> <li>微分可能と連続について理解し, 導関数を定義に従い求めることができる。</li> <li>導関数の性質を理解し, 様々な関数の導関数を求めることができる。</li> <li>三角関数, 指数対数関数の導関数を求めることができる。</li> <li>第<math>n</math>次導関数の表現を理解し, 導関数を求めることができる。</li> <li>2次曲線の導関数, 媒介変数表示された曲線の導関数を求めることができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・人文社会科学科	2	数学	数学B	2
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学B (数研出版)		改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学II+B [ベクトル, 数列] (数研出版) 増補改訂版 チャート式 基礎からの数学II+B (数研出版)		
到達目標	<p>数列, ベクトルについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに, それらを活用する態度を育てる。</p> <p>数列では, 等差数列, 等比数列などの数列について一般項や第n項までの和を求めたり, 記号<math>\Sigma</math>の意味を理解しそれを用いたりできるようにする。さらに, 漸化式と数学的帰納法について理解する。</p> <p>ベクトルでは, 平面上のベクトルおよび空間におけるベクトルの意味や演算, 成分および内積などの概念を理解し, ベクトルを用いて図形の性質を考察する。</p>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	<p>数学的な活動を通して, 数列及びベクトルにおける考え方に興味をもつとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識し, それらを事象の考察に活用しようとしている。</p>	<p>数学的な活動を通して, 数列及びベクトルにおける数学的な見方や考え方を身につけ, 事象を数学的にとらえ, 論理的に考えとともに, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。</p>	<p>数列及びベクトルにおいて, 事象を数学的に考察し, 表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ, 的確に問題を解決できる。</p>	<p>数列及びベクトルにおける基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身につけている。</p>
学習の評価	<p>1. ④知識・理解を中心に, ②数学的な見方や考え方や③表現・処理を含めて, 定期考査で評価する。</p> <p>2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方や③表現・処理を, 授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し, その成績を加味し総合的に評価する。</p>			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
<p>第3章 数列</p> <p>1 等差数列と等比数列</p> <p>1 数列と一般項</p> <p>2 等差数列</p> <p>3 等差数列の和</p> <p>4 等比数列</p> <p>5 等比数列の和</p> <p>2 いろいろな数列</p> <p>6 和の記号<math>\Sigma</math></p> <p>7 階差数列</p> <p>8 いろいろな数列の和</p> <p>3 漸化式と数学的帰納法</p> <p>9 漸化式</p> <p>10 数学的帰納法</p> <p>問題演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>数列の一般項の意味を理解できる。</li> <li>等差数列の一般項や和を求めることができる。</li> <li>等差数列の和を求めることができる。</li> <li>等比数列の一般項を求めることができる。</li> <li>等比数列の和を求めることができる。</li> <li><math>\Sigma</math>の記号を理解し, 数列の和を表現したり和を求めることができるようにする。</li> <li>階差数列を用いて, もとの数列の一般項を求めることができる。</li> <li>部分分数を利用したり, 群数列の考え方を利用することができる。</li> <li>漸化式で定義される数列の一般項を求めることができる。</li> <li>数学的帰納法を用いて等式や不等式を証明することができる。</li> <li>発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
<p>第1章 平面上のベクトル</p> <p>1 ベクトルとその演算</p> <p>1 ベクトル</p> <p>2 ベクトルの演算</p> <p>3 ベクトルの成分</p> <p>4 ベクトルの内積</p> <p>2 ベクトルと平面図形</p> <p>5 位置ベクトル</p> <p>6 ベクトルの図形への応用</p> <p>7 図形のベクトルによる表示</p> <p>問題演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>平面上のベクトルの意味やその演算および計算法則を理解することができる。</li> <li>平面上のベクトルの相等, 加法, 減法および実数倍について理解し, 表現することができる。</li> <li>ベクトルを成分で表し, 成分でのベクトルの計算を理解させる。</li> <li>ベクトルの内積の定義を理解し, 内積を用いて図形の性質を調べることができる。</li> <li>位置ベクトルを用いて, 図形に関する事柄が形式的に表現できることを理解する。</li> <li>位置ベクトルを活用することにより, 平面図形の性質を考察することができる。</li> <li>直線や円のベクトル方程式を理解し, ベクトル方程式の表す図形を求めることができる。</li> <li>発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
<p>第2章 空間のベクトル</p> <p>1 空間の点</p> <p>2 空間のベクトル</p> <p>3 ベクトルの成分</p> <p>4 ベクトルの内積</p> <p>5 ベクトルの図形へ応用</p> <p>6 座標空間における図形</p> <p>問題演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>空間座標を理解し, 2点間の距離が求められる。</li> <li>空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえることができる。</li> <li>空間のベクトルの成分を座標空間と関連付けて考察できる。</li> <li>ベクトルの内積を, 平面から空間へ拡張して考察できる。</li> <li>位置ベクトルを活用することにより, 空間図形の性質の考察に活用することができる。</li> <li>空間ベクトルを利用して, 線分の長さ, 分点の座標などを考察できる。</li> <li>発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	2	理数	理数数学II	5
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学II (数研出版) 改訂版 高等学校 数学III (数研出版) 改訂版 高等学校 数学B (数研出版)		改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学II+B [ベクトル, 数列] (数研出版) 増補改訂版 チャート式 基礎からの数学II+B (数研出版) 改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学III (数研出版) 改訂版 チャート式 基礎からの数学III (数研出版)		
到達目標	いろいろな式, 図形と方程式, 三角関数, 微分・積分, 数列及び極限の考えについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに, それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	いろいろな式, 図形と方程式, ベクトル, 数列, 極限及び微分法に関心をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式, 図形と方程式, ベクトル, 数列, 極限及び微分法において, 事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して, 数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式, 図形と方程式, ベクトル, 数列, 極限及び微分法において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能技術を身に付けている。	いろいろな式, 図形と方程式, ベクトル, 数列, 極限及び微分法における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に, ②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を含めて, 定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を, 授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し, その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第2章 複素数と方程式 1. 複素数と2次方程式の解 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係 2. 高次方程式 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式		<ul style="list-style-type: none"> <li>複素数の四則計算ができる。</li> <li>2次方程式の解が実数解になるか虚数解になるかを, 判別式を用いて判断できる。</li> <li>解と係数の関係を導き, これを利用することができる。</li> <li>剰余の定理と因数定理を理解し, これを利用することができる。</li> <li>因数定理やおき換えを使って高次方程式を解くことができる。</li> </ul>		
第3章 図形と方程式 1. 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 2. 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 3. 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域		<ul style="list-style-type: none"> <li>数直線上の2点間の距離, 線分の内分点・外分点の座標を求めることができる。</li> <li>平面上の2点間の距離, 線分の内分点・外分点の座標を求めることができる。</li> <li>いろいろな条件の下で直線の方程式を求めることができる。</li> <li>2直線の平行条件, 垂直条件を理解し, それらを利用して直線の方程式を求めることができる。</li> <li>いろいろな条件の下で円の方程式を求めることができる。</li> <li>円と直線の位置関係を調べたり, 円の接線の方程式を求めることができる。</li> <li>2つの円の位置関係と, 中心間の距離と半径の関係から, 円の方程式を求めることができる。</li> <li>軌跡の定義を理解し, 種々の軌跡の方程式を求めることができる。</li> <li>不等式の表す領域を図示することができる。</li> </ul>		
第6章 微分法と積分法 1. 微分係数と導関数 1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式 2. 関数の値の変化 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用 3. 積分法 6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積		<ul style="list-style-type: none"> <li>微分係数の意味を理解し, 微分係数を用いて接線の傾きを求めることができる。</li> <li>導関数の意味を理解し, 微分の公式を用いて導関数を計算することができる。</li> <li>導関数を計算して, 接線の方程式を求めることができる。</li> <li>関数の増減表やグラフを求め, これらを用いて関数の最大値や最小値を求めることができる。</li> <li>関数のグラフを用いて, 方程式の実数解の個数を調べたり, 不等式を証明することができる。</li> <li>不定積分の意味を理解し, 主に2次以下の整関数を積分することができる。</li> <li>定積分の基本的な性質を理解し, 定積分の公式によって定積分を計算することができる。</li> <li>定積分を利用して, 直線や曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。</li> </ul>		

学習内容(単元・項目)	学習到達目標(評価規準)
数学B 第3章 数列 1. 等差数列と等比数列 1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 2. いろいろな数列 6 和の記号 $\Sigma$ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和 3. 数学的帰納法 9 漸化式 10 数学的帰納法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数列の一般項の意味を理解できる。</li> <li>・等差数列の一般項や和を求めることができる。</li> <li>・等差数列の和を求めることができる。</li> <li>・等比数列の一般項を求めることができる。</li> <li>・等比数列の和を求めることができる。</li> <li>・<math>\Sigma</math>の記号を理解し、数列の和を表現したり和を求めることができるようにする。</li> <li>・階差数列を用いて、もとの数列の一般項を求めることができる。</li> <li>・部分分数を利用したり、群数列の考え方を利用することができる。</li> <li>・漸化式で定義される数列の一般項を求めることができる。</li> <li>・数学的帰納法を用いて等式や不等式を証明することができる。</li> </ul>
数学III 第1章 複素数平面 1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複素数平面を考えることにより、複素数の図形的側面が明らかになることを理解しようとする。</li> <li>・極形式の定義を理解し、複素数を極形式で表すことができる。</li> <li>・ド・モアブルの定理を利用して、複素数の<math>n</math>乗を求めることができる。</li> <li>・複素数の方程式を満たす点全体について考察し、その意味を考えることや計算で求めることができる。</li> </ul>
第2章 式と曲線 1. 2次曲線 1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線 6 2次曲線の性質 2. 媒介変数表示と極座標 7 曲線の媒介変数表示 8 極座標と極方程式 9 コンピュータの利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軌跡の考えを利用して、放物線の方程式を導くことができる。</li> <li>・軌跡の考えを利用して、楕円の方程式を導くことができる。</li> <li>・軌跡の考えを利用して、双曲線の方程式を導くことができる。</li> <li>・複雑な方程式で表された2次曲線を、平行移動を利用して考察することができる。</li> <li>・2次曲線と直線の交点や接線、弦の中点を2次方程式の実数解を利用して求めることができる。</li> <li>・2次曲線が定点と定直線との距離の比の関係で定められることに関心を示し、それについて考察しようとする。</li> <li>・媒介変数表示された曲線を、媒介変数を消去した式で表すことができる。</li> <li>・円や直線を極方程式で表すことができる。</li> <li>・いろいろな曲線をコンピュータで描画し、その性質を考察できる。</li> </ul>
第3章 関数 1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数関数のグラフをかき、そのグラフを利用して分数式を含む簡単な方程式や不等式を解くことができる。</li> <li>・無理関数のグラフをかき、そのグラフを利用して無理式を含む簡単な方程式や不等式を解くことができる。</li> <li>・逆関数を求めたり、2つ以上の関数の合成関数を求めたりすることができる。</li> </ul>
第4章 極限 1. 数列の極限 1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数 2. 関数の極限 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無限数列の極限を求めることができる。</li> <li>・無限等比数列や漸化式で表される数列の極限を求めることができる。</li> <li>・無限級数の定義を理解し、収束や発散について調べることができる。</li> <li>・関数の極限の意味を理解し、そのいろいろな状態を詳しく調べることができる。</li> <li>・不定形を解消するなど、関数の式を適切に変形することで、関数の極限を求めることができる。</li> <li>・三角関数の極限の意味を理解し、求めることができる。</li> <li>・関数の連続性の意味を理解し、連続・不連続の判定ができる。</li> </ul>
第5章 微分法 1. 導関数 1 微分係数と導関数 2 導関数の計算 2. いろいろな関数の導関数 3 いろいろな関数の導関数 4 第 $n$ 次導関数 5 曲線の方程式と導関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微分可能と連続について理解し、導関数を定義に従い求めることができる。</li> <li>・導関数の性質を理解し、様々な関数の導関数を求めることができる。</li> <li>・三角関数、指数対数関数の導関数を求めることができる。</li> <li>・第<math>n</math>次導関数の表現を理解し、導関数を求めることができる。</li> <li>・2次曲線の導関数、媒介変数表示された曲線の導関数を求めることができる。</li> </ul>

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	2	理数	理数数学特論	1
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学B (数研出版)		改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学II+B [ベクトル, 数列] (数研出版) 増補改訂版 チャート式 基礎からの数学II+B (数研出版)		
到達目標	ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 平面上のベクトルおよび空間におけるベクトルの意味や演算、成分および内積などの概念を理解し、ベクトルを用いて図形の性質を考察する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的な活動を通して、ベクトルにおける考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	数学的な活動を通して、ベクトルにおける数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考えとともに、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	ベクトルにおいて、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決できる。	ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に、②数学的な見方や考え方及び③表現・処理を含めて、定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③表現・処理を、授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し、その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
数学B 第2章 平面上のベクトル 1 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 2 ベクトルと図形 1 位置ベクトル 2 ベクトルの図形への応用 3 ベクトル方程式 問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>平面上のベクトルの意味やその演算および計算法則を理解することができる。</li> <li>平面上のベクトルの相等、加法、減法および実数倍について理解し、表現することができる。</li> <li>ベクトルを成分で表し、成分でのベクトルの計算を理解させる。</li> <li>ベクトルの内積の定義を理解し、内積を用いて図形の性質を調べることができる。</li> <li>位置ベクトルを用いて、図形に関する事柄が形式的に表現できることを理解する。</li> <li>位置ベクトルを活用することにより、平面図形の性質を考察することができる。</li> <li>直線や円のベクトル方程式を理解し、ベクトル方程式の表す図形を求めることができる。</li> <li>発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
第2章 空間のベクトル 1 空間の点 2 空間のベクトル 3 空間ベクトルの成分 4 空間ベクトルの内積 5 ベクトルの図形へ応用 6 座標空間における図形 問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>空間座標を理解し、2点間の距離が求められる。</li> <li>空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえることができる。</li> <li>空間のベクトルの成分を座標空間と関連付けて考察できる。</li> <li>ベクトルの内積を、平面から空間へ拡張して考察できる。</li> <li>位置ベクトルを活用することにより、空間図形の性質の考察に活用することができる。</li> <li>空間ベクトルを利用して、線分の長さ、分点の座標などを考察できる。</li> <li>発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	3	数学	数学Ⅲ	5
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学Ⅲ (数研出版)		改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学Ⅲ (数研出版) 改訂版 4プロセス数学Ⅲ 完成ノートシリーズ (数研出版) 改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅲ (数研出版) 三訂版 クリアー数学演習Ⅲ 受験編 (数研出版)		
到達目標	微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して、極限、微分法及び積分法の考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に進んで活用しようとする。	数学的活動を通して、微分法及び積分法の考えにおける見方や考え方を身に付け、論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	微分法及び積分法の考えにおいて、事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	微分法及び積分法の考えにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に、②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を含めて、定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を、授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し、その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第5章 微分法 第2節 いろいろな関数の導関数		・三角関数, 対数関数, 指数関数, 媒介変数表示の導関数を求めることができる。		
第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用  第2節 いろいろな応用		・接線の方程式を求めることができる。 ・不等式の証明に平均値の定理を利用できる。 ・曲線の凹凸や変曲点を調べることができる。 ・直線上の点の運動の速度と加速度を理解し, 計算できる。 ・等速円運動における速度, 加速度を計算できる。 ・近似式を理解し, 計算できる。		
第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用		・置換積分法, 部分積分法の公式を導き, これらを用いて不定積分の計算ができる。 ・定積分を含む関数を求めることができる。 ・定積分を利用し面積を求めることができる。 ・面積の大小を利用して, 数列の和に関する不等式の証明ができる。 ・平面上の曲線で囲まれた図形をx軸またはy軸のまわりに1回転してできる回転体の体積を求めることができる。 ・道のりや曲線の長さを求めることができる。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・人文社会科学科	3	数学	数学研究A	3
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学 I (数研出版) 改訂版 高等学校 数学A (数研出版) 改訂版 高等学校 数学 II (数研出版) 改訂版 高等学校 数学B (数研出版)		四訂版 メジアン数学演習 I・II・A・B 受験編(数研出版)		
到達目標	数学 I + A分野および数学 II + B分野について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。高等学校で学習した内容を体系化するため、適宜数学 I + A分野と数学 II + B分野を横断的に学習するが、全体として数学 I + A分野と数学 II + B分野の学習内容を多く取り扱う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方に関心をもつとともに、そのよさを認識して様々な事象の考察に進んで活用しようとする。	数学的活動を通して、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1 ④知識・理解を中心に、②数学的な見方や考え方、③数学的な技能を含めて、定期考査で評価する。 2 ①関心・意欲・態度、②数学的な見方や考え方及び、③数学的な技能について、授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し、その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
I 数と式		<ul style="list-style-type: none"> <li>数と式分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>数と式分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
II 関数と方程式・不等式		<ul style="list-style-type: none"> <li>関数と方程式・不等式分野における基本的な学習内容の理解を深める。</li> <li>関数と方程式・不等式分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
III 式と証明, 論理		<ul style="list-style-type: none"> <li>式と証明分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>式と証明分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
IV 個数の処理・確率		<ul style="list-style-type: none"> <li>個数の処理・確率分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>個数の処理・確率分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
V 平面図形		<ul style="list-style-type: none"> <li>平面図形における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>平面図形における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
VI 図形と式		<ul style="list-style-type: none"> <li>図形と式分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>図形と式分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
VII 三角・指数・対数関数		<ul style="list-style-type: none"> <li>三角・指数・対数関数分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>三角・指数・対数関数分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
VIII 微分法・積分法		<ul style="list-style-type: none"> <li>微分法・積分法分野における基本的な学習内容を定型的に理解する。</li> <li>微分法・積分法分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
IX ベクトル		<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトル分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>ベクトル分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
X 数列		<ul style="list-style-type: none"> <li>数列分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>数列分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	3	数学	数学研究A	2
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学 I (数研出版) 改訂版 高等学校 数学A (数研出版) 改訂版 高等学校 数学 II (数研出版) 改訂版 高等学校 数学B (数研出版)		三訂版 クリアー数学演習 I・II・A・B 受験編 (数研出版)		
到達目標	数学 I + A分野および数学 II + B分野について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。高等学校で学習した内容を体系化するため、適宜数学 I + A分野と数学 II + B分野を横断的に学習するが、全体として数学 I + A分野と数学 II + B分野の学習内容を多く取り扱う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方に関心をもつとともに、そのよさを認識して様々な事象の考察に進んで活用しようとする。	数学的活動を通して、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1 ④知識・理解を中心に、②数学的な見方や考え方、③数学的な技能を含めて、定期考査で評価する。 2 ①関心・意欲・態度、②数学的な見方や考え方及び、③数学的な技能について、授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し、その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
I 数と式		<ul style="list-style-type: none"> <li>数と式分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>数と式分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
II 関数と方程式・不等式		<ul style="list-style-type: none"> <li>関数と方程式・不等式分野における基本的な学習内容の理解を深める。</li> <li>関数と方程式・不等式分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
III 式と証明, 論理		<ul style="list-style-type: none"> <li>式と証明分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>式と証明分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
IV 個数の処理・確率		<ul style="list-style-type: none"> <li>個数の処理・確率分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>個数の処理・確率分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
V 平面図形		<ul style="list-style-type: none"> <li>平面図形における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>平面図形における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
VI 図形と式		<ul style="list-style-type: none"> <li>図形と式分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>図形と式分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
VII 三角・指数・対数関数		<ul style="list-style-type: none"> <li>三角・指数・対数関数分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>三角・指数・対数関数分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
VIII 微分法・積分法		<ul style="list-style-type: none"> <li>微分法・積分法分野における基本的な学習内容を定型的に理解する。</li> <li>微分法・積分法分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
IX ベクトル		<ul style="list-style-type: none"> <li>ベクトル分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>ベクトル分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		
X 数列		<ul style="list-style-type: none"> <li>数列分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>数列分野における発展的な問題を解くことができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・人文社会科学科	3	数学	数学研究B	2
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学 I (数研出版) 改訂版 高等学校 数学A (数研出版) 改訂版 高等学校 数学 II (数研出版) 改訂版 高等学校 数学B (数研出版)		四訂版 メジアン数学演習 I・II・A・B 受験編(数研出版)		
到達目標	数学 I +A分野および数学 II +B分野について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。高等学校で学習した内容を体系化するため、適宜数学 I +A分野と数学 II +B分野を横断的に学習するが、全体として数学 I +A分野と数学 II +B分野の学習内容を多く取り扱う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方に関心をもつとともに、そのよさを認識して様々な事象の考察に進んで活用しようとする。	数学的活動を通して、事象を数学的にとらえ、論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1 ④知識・理解を中心に、②数学的な見方や考え方、③数学的な技能を含めて、定期考査で評価する。 2 ①関心・意欲・態度、②数学的な見方や考え方及び、③数学的な技能について、授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し、その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
1 数と式 2 集合と命題 3 2次関数 4 図形と計量 5 データの分析 6 場合の数と確率 7 図形と性質 8 整数の性質 9 式と証明 10 複素数と方程式 11 図形と方程式 12 三角関数 13 指数関数と対数関数 14 微分法と積分法 15 ベクトル 16 数列 17 補充問題		<ul style="list-style-type: none"> <li>数と式分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>集合と命題分野における基本的な学習内容の理解を深める。</li> <li>関数と方程式・不等式分野における基本的な学習内容の理解を深める。</li> <li>関数と方程式・不等式分野における発展的な問題を解くことができる。</li> <li>データにおける基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>個数の処理・確率分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>平面図形における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>整数分野における発展的な問題を解くことができる。</li> <li>式と証明分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>複素数と方程式における発展的な問題を解くことができる。</li> <li>図形と式分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>三角関数分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>指数・対数分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>微分法・積分法分野における基本的な学習内容を定型的に理解する。</li> <li>ベクトル分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> <li>数列分野における基本的な学習内容を体系的に理解する。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	3	理数	理数数学Ⅱ	5
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学Ⅲ (数研出版)		改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学Ⅲ (数研出版) 改訂版 4プロセス数学Ⅲ 完成ノートシリーズ (数研出版) 改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅲ (数研出版) 三訂版 クリアー数学演習Ⅲ 受験編 (数研出版)		
到達目標	微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して、極限、微分法及び積分法の考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に進んで活用しようとする。	数学的活動を通して、微分法及び積分法の考えにおける見方や考え方を身に付け、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	微分法及び積分法の考えにおいて、事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	微分法及び積分法の考えにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に、②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を含めて、定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を、授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し、その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第5章 微分法 第2節 いろいろな関数の導関数		・三角関数, 対数関数, 指数関数, 媒介変数表示の導関数を求めることができる。		
第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用  第2節 いろいろな応用		・接線の方程式を求めることができる。 ・不等式の証明に平均値の定理を利用できる。 ・曲線の凹凸や変曲点を調べることができる。 ・直線上の点の運動の速度と加速度を理解し、計算できる。 ・等速円運動における速度, 加速度を計算できる。 ・近似式を理解し、計算できる。		
第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用		・置換積分法, 部分積分法の公式を導き、これらを用いて不定積分の計算ができる。 ・定積分を含む関数を求めることができる。 ・定積分を利用し面積を求めることができる。 ・面積の大小を利用して、数列の和に関する不等式の証明ができる。 ・平面上の曲線で囲まれた図形をx軸またはy軸のまわりに1回転してできる回転体の体積を求めることができる。 ・道のりや曲線の長さを求めることができる。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	3	理数	理数数学研究	2
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 数学 I (数研出版) 改訂版 高等学校 数学A (数研出版) 改訂版 高等学校 数学 II (数研出版) 改訂版 高等学校 数学B (数研出版)		三訂版 クリアー数学演習 I・II・A・B 受験編 (数研出版)		
到達目標	数学 I + A分野および II + B分野について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
	数学的活動を通して、数学 II + B分野における考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に進んで活用しようとする。	数学的活動を通して、数学 II + B分野における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	数学 II + B分野において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	数学 II + B分野における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。
学習の評価	1. ④知識・理解を中心に、②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を含めて、定期考査で評価する。 2. ①関心・意欲・態度や②数学的な見方や考え方及び③数学的な技能を、授業中の取り組み方や課題の提出状況及びその他のテストで評価し、その成績を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
I 数と式		・数と式分野における発展的な問題を解くことができる。		
II 関数と方程式・不等式		・関数と方程式・不等式分野における発展的な問題を解くことができる。		
III 式と証明、論理		・式と証明分野における発展的な問題を解くことができる。		
IV 整数の性質		・整数の性質における発展的な問題を解くことができる。		
V 場合の数・確率		・個数の処理・確率分野における発展的な問題を解くことができる。		
VI 図形の性質		・平面図形における発展的な問題を解くことができる。		
VII 図形と式		・図形と式分野における発展的な問題を解くことができる。		
VIII 三角・指数・対数関数		・三角・指数・対数関数分野における発展的な問題を解くことができる。		
IX 微分法・積分法		・微分法・積分法分野における発展的な問題を解くことができる。		
X ベクトル		・ベクトル分野における発展的な問題を解くことができる。		
XI 数列		・数列分野における発展的な問題を解くことができる。		
XII データの分析		・データの分析分野における発展的な問題を解くことができる。		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	1	理科	地学基礎	2
教科書		補助教材		
地学基礎 改訂版(啓林館)		ニューステージ新地学図表(浜島書店), 地学基礎の基本マスター(啓林館)		
到達目標	1. 地球や宇宙の時間的・空間的な広がりの中における自己の位置を確認させ、科学的な自然観を修得させる。 2. 自然現象や物質に対して観察・実験・実習をおこない、自然に対する関心や探究心を高め、探究する能力・態度を育てる。 3. 物事や事象に対する的確で正確な判断力を養うと同時に、地学的な考え方の修得を目指す。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	地学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見出し、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして事実に基づいて科学的に判断できる。観察、実験の過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。	地学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付ける。	観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能」を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1部 固体地球とその変動 第1章 地球 1 地球の概観 2 地球の内部構造 第2章 活動する地球 1 プレートと地球の活動 2 地震 3 火山活動と火成岩の形成		・地球の形や重力・地磁気・熱といった特徴、そこから推定される地球の内部構造を学ぶとともに、その調べ方についても理解できる。 ・地震や火山のような、活動する地球の特徴を学習し、地球上に分布するプレートと関連付けて考えることができる。 ・地球の表層をつくる岩石について、成因や構成する鉱物の特徴などを学習し、理解できる。 ・さまざまな地殻変動が地形に与える影響について実習を通じて学習し、大規模な造山運動と関連させて理解できる。		
第2部 移り変わる地球 第1章 地球史の読み方 1 堆積岩とその形成 2 地層と地質構造 3 地球の歴史の組み立て 第2章 地球と生命の進化 1 先カンブリア時代 2 顕生代 第3部 大気と海洋 第1章 大気の特徴 1 大気圏 2 水と気象 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 1 地球のエネルギー収支 2 大気の大循環 3 海水の循環 第3章 日本で見られる季節の気象 1 冬から春の気象 2 夏から秋の気象		・堆積岩やそのできかた、地層の特徴やその調べ方について、野外調査の方法や地質図の実習をまじえながら、地球の歴史と関連させて学習し理解できる。 ・46億年の地球の歴史について、生物の進化と地球の環境変化とを関連付けながら学習する。また、化石標本の観察などを行い、古生物の特徴や地層の堆積環境などを考えることができる。 ・大気圏の特徴と大気中の水分のはたらきについて、水の状態変化と熱の関係を考えながら学習し理解できる。 ・太陽からやってくるエネルギーが、大気に与える影響やそれによる大気の運動について気象現象と関連させて理解できる。 ・日本の天気について、いろいろな方法で入手できる雲の画像や天気図を用いて理解を深めることができる。 ・地球の気候に大きな影響を及ぼす海水の動きやエルニーニョ現象、気象関係の環境問題について考えることができる。		
第4部 宇宙の構成 第1章 太陽系と太陽 1 太陽系の天体 2 太陽系の誕生 3 太陽 第2章 恒星としての太陽の進化 1 太陽と恒星 2 太陽の誕生と進化 第3章 銀河系と宇宙 1 銀河系と周りの銀河 2 宇宙の姿 第5部 自然との共生 1 地球環境と人類 2 日本の自然災害と防災 3 人間生活と地球環境の変化		・太陽系がどのような天体で構成されているかを確認し、各惑星の特徴を他と比較しながら整理することで、理解を深めることができる。 ・太陽を普通の恒星と考え、その明るさや色を他の恒星と比較しながら、その誕生や進化について理解できる。 ・銀河系の形や構造を理解し、宇宙の構造や進化について考えることができる。 ・自然からの恩恵を、主に資源を題材にして考えることができる。 ・自然災害についてその要点を整理し、減災や防災について、身近な問題をとらえて考えることができる。 ・地学を学習してきた意義を理解できる。		

令和3年度 教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科・人文社会科学科	1	理数	理数地学	2
教科書		補助教材		
地学基礎 改訂版(啓林館)		ニューステージ新地学図表(浜島書店), 地学基礎の基本マスター(啓林館), ひどりで学べる地学最新第4版(清水書院)		
到達目標	1. 地球や宇宙の時間的・空間的な広がりの中における自己の位置を確認させ、科学的な自然観を修得させる。 2. 自然現象や物質に対して観察・実験・実習をおこない、自然に対する関心や探究心を高め、探究する能力・態度を育てる。 3. 物事や事象に対する的確で正確な判断力を養うと同時に、地学的な考え方の修得を目指す。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	地学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見出し、事象を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして事実に基づいて科学的に判断できる。観察、実験の過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。	地学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付ける。	観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能・表現」を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
1. 地球の活動				
(1) 活動する地球		<ul style="list-style-type: none"> <li>地震や火山のような活動する地球の特徴を、地球上に分布するプレートと関連付けて考えることができる。</li> <li>地球の内部構造を学習し、走時曲線と地殻の構造を関連づけて考えることができる。</li> <li>様々な地殻変動が地形に与える影響について実習を通じて学び、造山運動と関連させて理解できる。</li> </ul>		
(2) 地球の活動と歴史		<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の表層をつくる岩石について、火成岩を中心に標本を用いながら、成因や構成する鉱物の特徴などを学習し、理解できる。</li> <li>堆積岩やそのできかた、地層の特徴やその調べ方について、野外調査の方法や地質図の実習をまじえながら、地球の歴史と関連させて学習し理解できる。</li> </ul>		
2. 地球の歴史				
(1) 移り変わる地球		<ul style="list-style-type: none"> <li>46億年の地球の歴史について、生物の進化と地球の環境変化とを関連付けながら学習する。また、化石標本の観察などを行い、古生物の特徴や地層の堆積環境などを考えることができる。</li> </ul>		
(2) 地球の歴史		<ul style="list-style-type: none"> <li>地表や地層の観察を通して、過去の地球環境や地殻変動について考察できる。</li> <li>日本列島の成り立ちを島弧の特徴を捉えながら理解できる。</li> </ul>		
3. 大気と海洋の構造と運動				
(1) 大気と海洋		<ul style="list-style-type: none"> <li>大気圏の特徴と大気中の水分のはたらきについて、状態変化と熱の関係を考えながら理解できる。</li> <li>海水の組成と海洋の構造について学習し、理解できる。</li> </ul>		
(2) 大気の構造と運動		<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽からやってくるエネルギーが、大気に与える影響やそれによる大気の運動について気象現象と関連させて理解できる。</li> </ul>		
(3) 海洋と海水の運動		<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の気候に大きな影響を及ぼす海水の動きやエルニーニョ現象、気象関係の環境問題について考えることができる。</li> </ul>		
(4) 地球の環境		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の天気について、雲の画像や天気図を用いて理解を深めることができる。</li> <li>自然からの恩恵を、主に資源を題材にして考えることができる。□</li> <li>自然災害についてその要点を整理し、減災や防災について、身近な問題をとらえて考えることができる。□</li> </ul>		
4. 宇宙の構造と進化				
(1) 宇宙における地球				
ア 宇宙の構成		<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽を普通の恒星と考え、明るさや色を他の恒星と比較しながら、その誕生や進化について理解できる。</li> </ul>		
イ 惑星としての地球		<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の惑星としての特徴について学習し、理解できる。</li> </ul>		
ウ 地球の概観		<ul style="list-style-type: none"> <li>地球の形や重力・地磁気・熱といった特徴、そこから推定される地球の内部構造を学ぶとともに、その調べ方についても理解できる。</li> </ul>		
(2) 宇宙の構造				
ア 太陽系		<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽系がどのような天体で構成されているかを確認し、各惑星の特徴を他と比較しながら整理することで、理解を深めることができる。</li> <li>太陽の活動と内部構造について学習し、その理解を深めることができる。</li> <li>ケプラーの法則を扱い、太陽を1つの焦点とした惑星運動について理解できる。</li> </ul>		
イ 恒星と銀河系		<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の宇宙像の概要を理解でき、銀河までの距離を計算で求めることができる。</li> <li>銀河系の形や構造を理解し、宇宙の構造や進化について考えることができる。</li> </ul>		
ウ 銀河と宇宙		<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な銀河の存在やハッブルの法則を用いた銀河の後退運動について理解できる。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	2	理科	物理基礎	2
教科書		補助教材		
改訂版物理基礎 (数研出版)		改訂ニューグローバル物理基礎+物理 (東京書籍)		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な、見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考、判断、表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつりあい 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と熱量 2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関 第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 波の伝わり方 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴		<ul style="list-style-type: none"> <li>速度がベクトル量であることを知り、<math>x-t</math>図、平均の速度、瞬間の速度との関係を理解する。</li> <li>加速度の定義を学び、<math>v-t</math>図との関係を理解する。</li> <li>落体の運動の特徴を学び、<math>x-t</math>図、<math>v-t</math>図と関連づけて理解する。</li> <li>物体には様々な力がはたらくことを理解し、フックの法則を見いだす。</li> <li>力の合成と分解を理解し、作用・反作用の法則を確認する。</li> <li>慣性の法則、および物体にはたらく力と質量、加速度の関係を理解する。</li> <li>摩擦力の性質を理解する。</li> <li>流体中にある物体にはたらく力について理解し、圧力と浮力を定量的に扱える。</li> <li>仕事の定義を知り、正・負の仕事を具体的に理解する。</li> <li>運動エネルギーの変化が受けた仕事に等しいことを理解する。</li> <li>重力および弾性力による位置エネルギーを理解する。</li> <li>エネルギーの原理から、力学的エネルギー保存則が成立していることを理解する。</li> <li>原子や分子の熱運動と温度の関係を知り、熱容量・比熱の定義を理解する。</li> <li>物質の三態と状態変化について熱運動の考え方から理解する。</li> <li>仕事と熱の変換、内部エネルギー、熱力学第1法則を学び、熱現象を定量的に扱える。</li> <li>熱機関と熱効率、熱現象の不可逆性について学び、エネルギー利用について理解を深める。</li> <li>単振動の伝搬による波が正弦波であることを理解する。</li> <li>波の重ねあわせの原理を理解し、定常波の性質を説明することができる。</li> <li>音は縦波であることを知り、音の屈折やうなりについて理解する。</li> <li>弦の振動や気柱の共鳴では定常波ができていることを理解する。</li> </ul>		
第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電気の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー 第2章 交流と電磁波 1. 交流 2. 電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電 第2章 物理学が拓く世界 1. 摩擦をコントロールする 2. エネルギーを有効利用する 3. 見えないものを見る		<ul style="list-style-type: none"> <li>帯電のしくみを知り、導体と不導体の違いを理解する。</li> <li>オームの法則と合成抵抗の求め方を理解する。</li> <li>ジュールの法則と電力の求め方を理解する。</li> <li>交流と直流の違いと特徴を理解する。</li> <li>電磁波の発生のしくみを知り、電磁波の種類を理解する。</li> <li>エネルギーには様々な形態があり、他の形態に変換しても総量は変化しないことを学ぶ。</li> <li>私たちの生活を支える電気エネルギーについて理解を深める。</li> <li>物理基礎で学んだ事柄が、日常生活や科学技術と深い結びつきがあることを学ぶ。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	2	理科	物理	2
教科書		補助教材		
改訂版総合物理1(数研出版)、改訂版総合物理2(数研出版)		改訂ニューグローバル物理基礎+物理(東京書籍)		
到達目標	物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	物理学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	物理学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則についての理解を深め、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考、判断、表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
総合物理1 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 6. 剛体にはたらく力のつりあい 第4章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則 3. 反発係数 第5章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力 3. 単振動 4. 万有引力 第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化 4. 不可逆変化と熱機関		<ul style="list-style-type: none"> <li>剛体にはたらく力と力のモーメントのつりあいを理解する。</li> <li>剛体にはたらく力の合成法を知り、重心の意味を理解する。</li> <li>運動量と力積および、その間の関係を理解する。</li> <li>直線および平面運動における運動量保存則を理解する。</li> <li>反発係数を理解し、運動量保存則と合わせて利用できることを理解する。</li> <li>等速円運動について成り立つ関係を理解する。</li> <li>慣性力を使って力のつりあいより、運動の様子を調べることができることを理解する。</li> <li>単振動を理解し、ばね振り子、単振り子の周期を求めることができることを理解する。</li> <li>万有引力の法則、万有引力による位置エネルギーを理解する。</li> <li>ボイルの法則、シャルルの法則を理解する。</li> <li>気体分子の運動から、熱力学諸量を求められることを理解する。</li> <li>断熱、定積、定圧、等温変化をボイル・シャルルの法則と熱力学第一法則を用いて理解する。</li> <li>熱機関と熱効率、熱現象の不可逆性について学び、エネルギー利用について理解を深める。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(文系)人文社会科学科	2学年	理科	化学基礎	2
教科書		補助教材		
改訂版 化学基礎(数研出版)		セミナー化学基礎(第一学習社)		
到達目標	化学的な事物・現象についての観察, 実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 1 化学の学習を通し、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験, 観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 ・実験に主体的に取り組んでいるか。	・実験に対し、問題意識を持ちながら取り組んでいるか。 ・教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 ・客観的な事実に基づいて、現象を科学的に判断することができるか。 ・自らの考えを的確に表現することができたか。	・実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 ・化学に関わる計算や考え方を身につけたか。 ・自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。	・実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけているか。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能・表現」を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
・第1編 第1章 物質の構成  第2章 物質の構成粒子  第3章 粒子の結合		・あらゆる物質は原子、分子、イオン、等の微細な粒子からできていることを理解し、成分としての元素の概念が理解できる。 ・物質の分類として混合物、純物質、単体、化合物について理解できる。 ・物質は原子・分子・イオンの基本粒子からできていることを理解できる。 ・物質の三態について理解できる。  ・原子の基本的な内部構造を学び、原子の性質と結びつきについて理解できる。 ・原子が陽子、中性子、電子などで構成されていることを理解できる。 ・イオン結合・共有結合・金属結合の様式と表し方について理解できる。 ・電気陰性度を理解し、分子の形と極性について考察できる。  ・イオンがどのように結合しているか。さらに、イオン結合からなる物質の特徴的な性質を理解できる。 ・共有結合からなる物質について学び、またその種類や表しかたを理解できる。 ・電気陰性度が異なる原子の電子の偏りが極性の原因であることを理解できる。 ・多数の原子が共有結合で結合していることを理解できる。 ・金属結合のしくみについて理解し、特性や利用法について理解できる。		
・第2編 第1章 物質質量と化学反応式  第2章 酸と塩基の反応  第3章 酸化還元反応		・相対質量で原子や分子などの質量を表すことを理解できる。 ・物質質量の考え方(アボガドロ数、物質の質量や体積等と物質質量の関係)を理解できる。 ・物質質量、濃度に関わる計算が確実にできる。 ・質量パーセント濃度、モル濃度について確実に求めることができる。 ・物質の変化を化学反応式で表す事を学び、化学変化の量的関係について理解する。 ・物質質量に関わる計算力を身につける。  ・酸や塩基の定義および反応には水素イオンが寄与していることを理解する。 ・酸性酸化物および塩基性酸化物の定義および酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。 ・水溶液の液性の程度をpHにより表すことができることを理解する。 ・酸と塩基が中和するときの量的関係が理解でき、確実に計算できる。 ・滴定実験により未知の濃度の酸や塩基を求めることができる。  ・酸化還元反応を電子の授受による考え方を理解する。 ・酸化数を用いて酸化還元を統一的に考え、理解する。 ・酸化剤・還元剤のはたらきと化学変化を化学反応式で表すことができる。 ・金属のイオン化傾向、電池や電気分解での反応および量的関係も理解し、確実に計算ができる。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	2学年	理科	化学基礎	2
教科書		補助教材		
改訂版 化学基礎(数研出版)		セミナー化学基礎+化学(第一学習社), 化学総合資料(実教出版)		
到達目標	化学的な事物・現象についての観察, 実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 1 化学の学習を通し、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験, 観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 ・実験に主体的に取り組んでいるか。	・実験に対し、問題意識を持ちながら取り組んでいるか。 ・教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 ・客観的な事実に基づいて、現象を科学的に判断することができるか。 ・自らの考えを的確に表現することができたか。	・実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 ・化学に関わる計算や考え方を身につけたか。 ・自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。	・実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能・表現」を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
・第1編 第1章 物質の構成  第2章 物質の構成粒子  第3章 粒子の結合		・あらゆる物質は原子、分子、イオン、等の微細な粒子からできていることを理解し、成分としての元素の概念が理解できる。 ・物質の分類として混合物、純物質、単体、化合物について理解できる。 ・物質は原子・分子・イオンの基本粒子からできていることを理解できる。 ・物質の三態について理解できる。  ・原子の基本的な内部構造を学び、原子の性質と結びつきについて理解できる。 ・原子が陽子、中性子、電子などで構成されていることを理解できる。 ・イオン結合・共有結合・金属結合の様式と表し方について理解できる。 ・電気陰性度を理解し、分子の形と極性について考察できる。  ・イオンがどのように結合しているか。さらに、イオン結合からなる物質の特徴的な性質を理解できる。 ・共有結合からなる物質について学び、またその種類や表しかたを理解できる。 ・電気陰性度が異なる原子の電子の偏りが極性の原因であることを理解できる。 ・多数の原子が共有結合で結合していることを理解できる。 ・金属結合のしくみについて理解し、特性や利用法について理解できる。		
・第2編 第1章 物質質量と化学反応式  第2章 酸と塩基の反応  第3章 酸化還元反応		・相対質量で原子や分子などの質量を表すことを理解できる。 ・物質質量の考え方(アボガドロ数、物質の質量や体積等と物質質量の関係)を理解できる。 ・物質質量、濃度に関わる計算が確実にできる。 ・質量パーセント濃度、モル濃度について確実に求めることができる。 ・物質の変化を化学反応式で表す事を学び、化学変化の量的関係について理解する。 ・物質質量に関わる計算力を身につける。  ・酸や塩基の定義および反応には水素イオンが寄与していることを理解する。 ・酸性酸化物および塩基性酸化物の定義および酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。 ・水溶液の液性の程度をpHにより表すことができることを理解する。 ・酸と塩基が中和するときの量的関係が理解でき、確実に計算できる。 ・滴定実験により未知の濃度の酸や塩基を求めることができる。  ・酸化還元反応を電子の授受による考え方を理解する。 ・酸化数を用いて酸化還元を統一的に考え、理解する。 ・酸化剤・還元剤のはたらきと化学変化を化学反応式で表すことができる。 ・金属のイオン化傾向、電池や電気分解での反応および量的関係も理解し、確実に計算ができる。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	2学年	理科	化学	2
教科書		補助教材		
改訂版 化学(数研出版)		セミナー化学基礎+化学(第一学習社), 化学総合資料(実教出版)		
到達目標	化学的な事物・現象についての観察, 実験などを行い, 自然に対する関心や探究心を高め, 化学的に探究する能力と態度を育てるとともに, 基本的な概念や原理・法則を理解し, 科学的な自然観を養う。 1 化学の学習を通し, 化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験, 観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち, 意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 ・実験に主体的に取り組んでいるか。	・実験に対し, 問題意識を持ちながら取り組んでいるか。 ・教師からの発問に対して自らの考えで実証的, 論理的に答えているか。 ・客観的な事実に基づいて, 現象を科学的に判断することができるか。 ・自らの考えを的確に表現することができたか。	・実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 ・化学に関わる計算や考え方を身につけたか。 ・自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。	・実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し, 知識を身に付けているか。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を, 実験・実習で③「技能・表現」を評価する。 上記の1に重きをおき, 総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
・第3編 第1章 非金属元素 1 元素の分類と周期表 2 水素 3 貴ガス元素 4 ハロゲン元素 5 酸素・硫黄 6 窒素・リン 7 炭素・ケイ素  第2章 金属元素(I)ー典型元素ー 1 アルカリ金属元素 2 2族元素 3 アルミニウム・亜鉛 4 スズ・鉛  第3章 金属元素(II)ー遷移元素ー 1 遷移元素の特徴 2 鉄 3 銅 4 銀 5 金・クロム・マンガン 5 金・クロム・マンガン 6 金属イオンの分離・確		・周期表から元素の分類を理解できる。・水素の性質を知り単体および化合物の性質を理解できる。 ・貴ガス元素, ハロゲン元素の特性を知り, 単体およびその化合物の性質を理解できる。 ・酸素・硫黄および窒素・リンの特性を知り, 単体およびその化合物の性質を理解できる。 ・炭素・ケイ素の特性を知り, 単体およびその化合物の性質を理解できる。  ・アルカリ金属, 2族元素の特性を知り, 単体およびその化合物の性質を理解できる。 ・アルミニウム・亜鉛およびスズ・鉛の特性を知り, 単体およびその化合物の性質を理解できる。  ・遷移元素全般の特性を理解できる。鉄の単体およびその化合物の性質を理解できる。 ・我々の身近な金属の代表である銅・銀の特性を知り単体およびその化合物の性質を理解できる。 ・金・クロム・マンガンの特性を知り, 単体およびその化合物の性質を理解できる。 ・沈殿の生成・炎色反応などを理解し, 金属イオンの分離・生成ができる。		
第I編 物質の状態 第1章 粒子の結合と結晶 1 原子とイオン 2 イオン結合とイオン結晶 3 分子と共有結晶 4 分子間にはたらく力  第2章 粒子の熱運動 1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧  第3章 気体 1 気体の体積 2 気体の状態方程式 3 混合気体の圧力 4 実在気体  第4章 溶液 1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液		・復習 ・復習  ・内部エネルギーから分子の熱運動を考えさせ, 温度域別の分子の速さを理解することができる。 ・物理変化のしくみを知り, 物質の三態変化と熱について理解できる。 ・気液平衡という状態について理解し, 成分気体の圧力をそれぞれ算出することができる。  ・ボイル・シャルルの法則について, 理解し, さまざまな化学量を算出することができる。 ・気体の状態方程式の成り立ちを理解し, 体積・圧力などを算出することができる。 ・気液平衡のときとそうでないときで場合分けができ, 場合に応じて気体の圧力を算出できる。 ・実在気体と理想気体の定義を知り, 算出の違いについて理解する。  ・物質が水に溶解するしくみを理解し, 気体の場合との関係を参考にしながら学ぶ。 ・飽和溶液の溶質・溶媒について, どのような量的な関係が成り立つかを考える。 ・溶質に依存しない共通の性質が現れることを理解し, 分子量の測定ができる。 ・コロイド溶液は, 通常の溶液とは異なるさまざまな性質があることを理解する。		
第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱 2 化学反応と光		・反応熱と状態変化に伴う熱などの種類と定義を学び, さまざまな熱量を算出できる。 ・光によって引き起こされる化学反応, 光を発する化学反応の例について学ぶ。		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(文系)人文社会科学科	2	理科	生物基礎	2
教科書		補助教材		
改訂 生物基礎(東京書籍)		リードα 生物基礎(数研出版)・スクエア最新図説生物neo(第一学習社)		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価規準)		
第1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー		<ul style="list-style-type: none"> <li>生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けることができる。</li> <li>生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解することができる。</li> <li>生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解することができる。</li> </ul>		
第2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子 2章 遺伝情報の分配 3章 遺伝情報とタンパク質の合成		<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解することができる。</li> <li>DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解することができる。</li> <li>DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解することができる。</li> </ul>		
第3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境 2章 体内環境を維持するしくみ 3章 免疫		<ul style="list-style-type: none"> <li>体内環境が保たれていることを理解することができる。</li> <li>体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解することができる。</li> <li>免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解することができる。</li> </ul>		
第4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と遷移 2章 バイオームとその分布 3章 生態系とその保全		<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解することができる。</li> <li>気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解することができる。</li> <li>生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解することができる。</li> <li>生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識することができる。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	2	理科	生物基礎	2
教科書		補助教材		
改訂 生物基礎(東京書籍)		リードα 生物基礎+生物(数研出版)・スクエア最新図説生物neo(第一学習社)		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価規準)		
第1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー		<ul style="list-style-type: none"> <li>生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けることができる。</li> <li>生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解することができる。</li> <li>生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解することができる。</li> </ul>		
第2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子 2章 遺伝情報の分配 3章 遺伝情報とタンパク質の合成		<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解することができる。</li> <li>DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解することができる。</li> <li>DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解することができる。</li> </ul>		
第3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境 2章 体内環境を維持するしくみ 3章 免疫		<ul style="list-style-type: none"> <li>体内環境が保たれていることを理解することができる。</li> <li>体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解することができる。</li> <li>免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解することができる。</li> </ul>		
第4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と遷移 2章 バイオームとその分布 3章 生態系とその保全		<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解することができる。</li> <li>気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解することができる。</li> <li>生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解することができる。</li> <li>生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識することができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	2	理 科	生物	2
教科書		補助教材		
改訂生物(東京書籍)		リードα 生物基礎+生物(数研出版)・スクエア最新図説生物neo(第一学習社)		
到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価規準)		
第1編 生命現象と物質 1章 生体物質と細胞 2章 タンパク質の構造と酵素 3章 細胞間の相互作用とタンパク質 4章 代謝とエネルギー		<ul style="list-style-type: none"> <li>細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解することができる。</li> <li>様々なタンパク質が様々な生命現象を支えていることを理解することができる。</li> <li>呼吸によって有機物からエネルギーが取り出される仕組みを理解することができる。</li> <li>光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられるしくみを理解することができる。</li> </ul>		
第2編 遺伝子のはたらき 1章 DNAの構造と複製 2章 遺伝情報の発現 3章 遺伝子の発現調節 4章 バイオテクノロジー		<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの複製の仕組み、遺伝子の発現の仕組み及び遺伝情報の変化を理解することができる。</li> <li>遺伝子の発現が調節されていること及びその仕組みの概要を理解することができる。</li> <li>遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解することができる。</li> </ul>		
第3編 生殖と発生 1章 生物の有性生殖 2章 動物の発生 3章 動物の発生のしくみ 4章 植物の発生		<ul style="list-style-type: none"> <li>減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的組合せが生じることを理解することができる。</li> <li>遺伝子の連鎖と組換えについて理解することができる。</li> <li>配偶子形成と受精の過程について理解することができる。</li> <li>卵割から器官分化の始まりまでの過程について理解することができる。</li> <li>細胞の分化と形態形成の仕組みを理解することができる。</li> <li>配偶子形成と受精及び胚発生の過程について理解することができる。</li> <li>被子植物の器官の分化過程について理解することができる。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	2	理数	理数物理	4
教科書		補助教材		
改訂版物理基礎、改訂版総合物理1、改訂版総合物理2 (数研出版)		改訂ニューグローバル物理基礎+物理 (東京書籍)		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーについて関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な、見方や考え方を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物体の運動と様々なエネルギーに関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーについて、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考、判断、表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
物理基礎 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 2. 加速度 3. 落体の運動 第2章 運動の法則 1. 力とのはたらき 2. 力のつりあい 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー 4. 力学的エネルギーの保存 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と熱量 2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関 第3編 波 第1章 波の性質 1. 波と媒質の運動 2. 波の伝わり方 第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振・共鳴 第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 1. 電気の性質 2. 電流と電気抵抗 3. 電気とエネルギー 第2章 交流と電磁波 1. 交流 2. 電磁波 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 1. エネルギーの移り変わり 2. エネルギー資源と発電 第2章 物理学が拓く世界 1. 摩擦をコントロールする 2. エネルギーを有効利用する 3. 見えないものを見る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・速度がベクトル量であることを知り、x-t図、平均の速度、瞬間の速度との関係を理解する。</li> <li>・加速度の定義を学び、v-t図との関係を理解する。</li> <li>・落体の運動の特徴を学び、x-t図、v-t図と関連づけて理解する。</li> <li>・物体には様々な力がはたらくことを理解し、フックの法則を見いだす。</li> <li>・力の合成と分解を理解し、作用・反作用の法則を確認する。</li> <li>・慣性の法則、および物体にはたらく力と質量、加速度の関係を理解する。</li> <li>・摩擦力の性質を理解する。</li> <li>・流体中にある物体にはたらく力について理解し、圧力と浮力を定量的に扱える。</li> <li>・仕事の定義を知り、正・負の仕事を具体的に理解する。</li> <li>・運動エネルギーの変化が受けた仕事に等しいことを理解する。</li> <li>・重力および弾性力による位置エネルギーを理解する。</li> <li>・エネルギーの原理から、力学的エネルギー保存則が成立していることを理解する。</li> <li>・原子や分子の熱運動と温度の関係を知り、熱容量・比熱の定義を理解する。</li> <li>・物質の三態と状態変化について熱運動の考え方から理解する。</li> <li>・仕事と熱の変換、内部エネルギー、熱力学第1法則を学び、熱現象を定量的に扱える。</li> <li>・熱機関と熱効率、熱現象の不可逆性について学び、エネルギー利用について理解を深める。</li> <li>・単振動の伝搬による波が正弦波であることを理解する。</li> <li>・波の重ねあわせの原理を理解し、定常波の性質を説明することができる。</li> <li>・音は縦波であることを知り、音の屈折やうなりについて理解する。</li> <li>・弦の振動や気柱の共鳴では定常波ができていることを理解する。</li> <li>・帯電のしくみを知り、導体と不導体の違いを理解する。</li> <li>・オームの法則と合成抵抗の求め方を理解する。</li> <li>・ジュールの法則と電力の求め方を理解する。</li> <li>・交流と直流の違いと特徴を理解する。</li> <li>・電磁波の発生のしくみを知り、電磁波の種類を理解する。</li> <li>・エネルギーには様々な形態があり、他の形態に変換しても総量は変化しないことを学ぶ。</li> <li>・私たちの生活を支える電気エネルギーについて理解を深める。</li> <li>・物理基礎で学んだ事柄が、日常生活や科学技術と深い結びつきがあることを学ぶ。</li> <li>・剛体にはたらく力と力のモーメントのつりあいを理解する。</li> <li>・剛体にはたらく力の合成法を知り、重心の意味を理解する。</li> <li>・運動量と力積および、その間の関係を理解する。</li> <li>・直線および平面運動における運動量保存則を理解する。</li> <li>・反発係数を理解し、運動量保存則と合わせて利用できることを理解する。</li> <li>・等速円運動について成り立つ関係を理解する。</li> <li>・慣性力を使って力のつりあいより、運動の様子を調べることができることを理解する。</li> <li>・単振動を理解し、ばね振り子、単振り子の周期を求めることができることを理解する。</li> <li>・万有引力の法則、万有引力による位置エネルギーを理解する。</li> <li>・ボイルの法則、シャルルの法則を理解する。</li> <li>・気体分子の運動から、熱力学諸量を求められることを理解する。</li> <li>・断熱、定積、定圧、等温変化をボイル・シャルルの法則と熱力学第一法則を用いて理解する。</li> <li>・熱機関と熱効率、熱現象の不可逆性について学び、エネルギー利用について理解を深める。</li> </ul>		
総合物理1 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 6. 剛体にはたらく力のつりあい 第4章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存則 3. 反発係数 第5章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力 3. 単振動 4. 万有引力 第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化 4. 不可逆変化と熱機関				

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	2学年	理数	理数化学	4
教科書		補助教材		
改訂版 化学基礎、改訂版 化学(数研出版)		セミナー化学基礎+化学(第一学習社)、化学総合資料(実教出版)		
到達目標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 1 物質と変化について化学的な解釈や説明ができることを通して、知的好奇心を持って課題を見だし、主体的に解決しようとする意欲を高める。 2 化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を、深く系統的に理解させる。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 ・実験に主体的に取り組んでいるか。	・実験の中で問題を見出し、取り組んでいるか。 ・教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 ・客観的な事実に基づいて現象を科学的に判断することができるか。 ・自らの考えを的確に表現することができたか。	・実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 ・化学に関わる計算方法を身につけたか。 ・自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。	・実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能」を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
化学基礎 ・第1編 第1章 物質の構成  第2章 物質の構成粒子  第3章 粒子の結合		・あらゆる物質は原子、分子、イオン、等の微細な粒子からできていることを理解し、成分としての元素の概念が理解できる。  ・物質の分類として混合物、純物質、単体、化合物について理解できる。 ・物質は原子・分子・イオンの基本粒子からできていることを理解できる。 ・物質の三態について理解できる。 ・原子の基本的な内部構造を学び、原子の性質と結びつきについて理解できる。 ・原子が陽子、中性子、電子などで構成されていることを理解できる。 ・イオン結合・共有結合・金属結合の様式と表し方について理解できる。 ・電気陰性度を理解し、分子の形と極性について考察できる。 ・イオンがどのように結合しているか。さらに、イオン結合からなる物質の特徴的な性質を理解できる。 ・共有結合からなる物質について学び、またその種類や表しかたを理解できる。 ・電気陰性度が異なる原子の電子の偏りが極性の原因であることを理解できる。 ・多数の原子が共有結合で結合していることを理解できる。 ・金属結合のしくみについて理解し、特性や利用法について理解できる。		
・第2編 第1章 物質と化学反応式  第2章 酸と塩基の反応  第3章 酸化還元反応		・相対質量で原子や分子などの質量を表すことを理解できる。 ・物質の考え方(アボガドロ数、物質の質量や体積等と物質の関係を)理解できる。 ・物質、濃度に関わる計算が確実にできる。 ・質量パーセント濃度、モル濃度について確実に求めることができる。 ・物質の変化を化学反応式で表す事を学び、化学変化の量的関係について理解する。 ・物質に関わる計算力を身につける。 ・酸や塩基の定義および反応には水素イオンが寄与していることを理解する。 ・酸性酸化物および塩基性酸化物の定義および酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。 ・水溶液の液性の程度をpHにより表すことができることを理解する。 ・酸と塩基が中和するときの量的関係が理解でき、確実に計算できる。 ・滴定実験により未知の濃度の酸や塩基を求めることができる。 ・酸化還元反応を電子の授受による考え方を理解する。 ・酸化数を用いて酸化還元を統一的に考え、理解する。 ・酸化剤・還元剤のはたらきと化学変化を化学反応式で表すことができる。 ・金属のイオン化傾向、電池や電気分解での反応および量的関係も理解し、確実に計算ができる。		
化学 ・第3編 無機物質 第1章 非金属元素 1 元素の分類と周期表 2 水素 3 希ガス元素 4 ハロゲン元素 第2章 金属元素(I) 1 アルカリ金属元素 2 2属元素 3 アルミニウム・亜鉛 4 スズ・鉛 第3章 金属元素(II) 1 遷移元素の特色 2 鉄 3 銅 4 銀・金		・無機物質の性質や反応などを、元素の周期表と関連付けて思考、判断できる。 ・無機物質について観察・実験をおこない、規則性を見いだしたり、事象が生じる要因や仕組みを科学的に考察できる。  ・無機物質の性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・無機物質を、日常生活および化学工業に関連づけて理解し、知識を身につけている。  ・無機物質の性質や反応などを、元素の周期表と関連付けて思考、判断できる。 ・無機物質について観察・実験をおこない、規則性を見いだしたり、事象が生じる要因や仕組みを科学的に考察できる。  ・無機物質の性質や反応について観察・実験をおこない、その基本操作や記録の仕方を習得している。 ・無機物質の性質や反応に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・無機物質を、日常生活および化学工業に関連づけて理解し、知識を身につけている。 ・金属イオンの反応について、観察・実験を通して探究し、実験技能の習得や理解を図る。		
・第1編 第1章 粒子の結合と結晶の構造 1 原子とイオン 2 イオン結合とイオン結晶 3 分子と共有結合  第2章 物質の三態と状態変化 1 粒子の熱運動 2 分子間力と三態の変化 3 状態変化とエネルギー 4 物質の種類と物理的性質 第3章 気体 1 気体の体積 2 気体の状態方程式 3 混合気体の圧力 4 実在気体 第4章 溶液 1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液		・化学結合と結晶の性質について、復習する。 ・イオン結晶の構造について学習する。 ・共有結合の結晶構造について学習する。 ・分子間の結合、および分子結晶の性質と構造について学習する。 ・金属結晶の構造について学習する。  ・物質の三態変化を復習し、その変化に伴う熱の出入りも学習する。 ・飽和蒸気圧を学習し、飽和蒸気圧と沸騰の関係を学ぶ。また、化学結合と物質の融点・沸点との関係を学習する。  ・ボイル・シャルルの法則をそれぞれ理解し、知識を身につけている。 ・気体の状態方程式を理解し、その応用を学習する。また、全圧と分圧を学習し、混合気体の平均分子量を理解する。  ・理想気体と実在気体との違いを理解する。  ・水和という現象を理解し、水に溶解する物質と溶解しない物質に分類できる。 ・質量パーセント濃度、モル濃度、質量モル濃度といった濃度の表し方を理解している。 ・浸透圧や浸透圧測定の実験の原理を理解している。 ・凝析を効果的に行わせる方法を理解している。		

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	2	理数	理数生物	4
教科書		補助教材		
改訂 生物基礎(東京書籍) 改訂 生物(東京書籍)		リードα 生物基礎+生物(数研出版)・スクエア最新図説生物neo(第一学習社)		
到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価規準)		
生物基礎 第1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー		<ul style="list-style-type: none"> <li>生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身に付けることができる。</li> <li>生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解することができる。</li> <li>生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解することができる。</li> </ul>		
第2編 遺伝子とのはたらき 1章 生物と遺伝子 2章 遺伝情報の分配 3章 遺伝情報とタンパク質の合成		<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解することができる。</li> <li>DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解することができる。</li> <li>DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解することができる。</li> </ul>		
第3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境 2章 体内環境を維持するしくみ 3章 免疫		<ul style="list-style-type: none"> <li>体内環境が保たれていることを理解することができる。</li> <li>体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解することができる。</li> <li>免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解することができる。</li> </ul>		
第4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と遷移 2章 バイオームとその分布 3章 生態系とその保全		<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解することができる。</li> <li>気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解することができる。</li> <li>生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解することができる。</li> <li>生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識することができる。</li> </ul>		
生物 第1編 生命現象と物質 1章 生体物質と細胞 2章 タンパク質の構造と酵素 3章 細胞間の相互作用とタンパク質 4章 代謝とエネルギー		<ul style="list-style-type: none"> <li>細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解することができる。</li> <li>様々なタンパク質が様々な生命現象を支えていることを理解することができる。</li> <li>呼吸によって有機物からエネルギーが取り出される仕組みを理解することができる。</li> <li>光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられるしくみを理解することができる。</li> </ul>		
第2編 遺伝子のはたらき 1章 DNAの構造と複製 2章 遺伝情報の発現 3章 遺伝子の発現調節 4章 バイオテクノロジー		<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの複製の仕組み、遺伝子の発現の仕組み及び遺伝情報の変化を理解することができる。</li> <li>遺伝子の発現が調節されていること及びその仕組みの概要を理解することができる。</li> <li>遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解することができる。</li> </ul>		
第3編 生殖と発生 1章 生物の有性生殖 2章 動物の発生 3章 動物の発生のしくみ 4章 植物の発生		<ul style="list-style-type: none"> <li>減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的組合せが生じることを理解することができる。</li> <li>遺伝子の連鎖と組換えについて理解することができる。</li> <li>配偶子形成と受精の過程について理解することができる。</li> <li>卵割から器官分化の始まりまでの過程について理解することができる。</li> <li>細胞の分化と形態形成の仕組みを理解することができる。</li> <li>配偶子形成と受精及び胚発生の過程について理解することができる。</li> <li>被子植物の器官の分化過程について理解することができる。</li> </ul>		

令和3年 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	2	理数	課題研究	1
教科書		補助教材		
到達目標	<p>数学・科学に関する課題を設定し、観察、実験、実習などを通して研究を行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、創造性の基礎を学ぶ。また、基本的な概念や原理・法則を理解し、数学・科学的な考え方を養う。</p> <p>1 数学・科学の学習を通し、論理的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験、実習、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。</p>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の興味・関心に基づき、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。</li> <li>様々なメディアを介して、意欲的に情報収集をおこなったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験、実習に対し、問題意識を持ちながら取り組んでいるか。</li> <li>教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。</li> <li>客観的な事実に基づいて、現象を科学的に判断することができるか。</li> <li>自らの考えを的確に表現することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。</li> <li>物理、化学、数学に関わる計算や考え方を身につけたか。</li> <li>自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。</li> <li>論理的な構成を工夫し、適切な内容でまとめることができたか。</li> <li>学習活動を通して、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、深めることができたか。</li> </ul>
学習の評価	<p>1 ②「思考・判断」、③「表現」、④「知識・理解」に重点を置き評価する。 2 ポスターやまとめの状況等で①「関心・意欲・態度」、④「知識・理解」を、実験・実習で③「技能・表現」を評価する。</p> <p>上記の2点を考慮し、総合的に成績を算出する。</p>			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ、内容、調査方法の検討</li> <li>テーマ、内容、調査方法の決定、活動計画の作成</li> <li>各グループの課題に対する調査、研究、実験等の実施</li> <li>中間発表に向けてのまとめ、ポスター作成等</li> <li>発表会に向けてのまとめ、ポスター作成等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマに対する調査、検討が十分行われているか。</li> <li>教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。</li> <li>客観的な事実に基づいて、現象を科学的に判断することができるか。</li> <li>自らの考えを的確に表現することができたか。</li> <li>各グループの課題に沿って、考え方広げ、深めることができたか。</li> <li>実験、実習に対して問題意識を持ちながら取り組めたか。</li> <li>論理的な構成を工夫し、適切な内容でまとめることができたか。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	3	理科	物理	4
教科書		補助教材		
改訂版総合物理1、改訂版総合物理2(数研出版)		改訂 ニューグローバル 物理基礎+物理 (東京書籍) 物理重要問題集(数研出版)		
到達目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	物理的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	物理的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考、判断、表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び各種テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
総合物理1 第1編 力と運動 第5章 円運動と万有引力 3 単振動  第2編 熱と気体 第2章 気体のエネルギーと状態変化 1 気体の法則 2 気体分子の運動 3 気体の状態変化  総合物理2 第4編 電気と磁気 第1章 電場 1 静電気力 2 電場 3 電位 4 物質と電場 5 コンデンサー  第2章 電流 1 オームの法則 2 直流回路 3 半導体  第3章 電流と磁場 1 磁場 2 電流のつくる磁場 3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力  第4章 電磁誘導と電磁波 1 電磁誘導の法則 2 交流の発生 3 自己誘導と相互誘導 4 交流回路 5 電磁波  第5編 原子 第1章 電子と光 1 電子 2 光の粒子性 3 X線 4 粒子の波動性  第2章 原子と原子核 1 原子の構造とエネルギー準位 2 原子核 3 放射線とその性質 4 核反応と核エネルギー 5 素粒子  物理学が築く未来  問題演習(重要問題集)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・単振動を理解し、ばね振り子、単振り子の周期を求められることを理解する。</li> <li>・ボイルの法則、シャルルの法則を理解する。</li> <li>・気体分子の運動から、熱力学諸量を求められることを理解する。</li> <li>・断熱、定積、定圧、等温変化をボイル・シャルルの法則と熱力学第一法則を用いて理解する。</li> <li>・クーロンの法則と電気量保存則を理解するとともに、電子の移動の観点から静電気現象を理解する。</li> <li>・電場の概念を知り、電気力線を用いて電場の様子を表現する。</li> <li>・電位の概念を身に付け、電位と静電気力による仕事の関係を理解する。</li> <li>・導体や不導体内部での電場と電位の様子を理解する。</li> <li>・コンデンサーの性質を理解し、コンデンサーの電圧や電荷を定量的に扱える</li> <li>・オームの法則を用いて電流や電圧を求められる。</li> <li>・キルヒホッフの法則を用いて回路各部の電流電圧を求められる。</li> <li>・半導体の性質を理解し、ダイオードやトランジスターのしくみについて学ぶ。</li> <li>・磁場の概念を知り、磁力線を用いて磁場の様子を表現する。</li> <li>・電流がつくる磁場の性質を理解し、磁場の強さを求められる。</li> <li>・磁束密度の概念を身に付け、電流が磁場から受ける力の強さを求められる。</li> <li>・ローレンツ力の性質を理解し、磁場中での荷電粒子の運動を説明できる。</li> <li>・レンツの法則とフェラデーの電磁誘導の法則から、誘導起電力の向きと大きさを理解する。</li> <li>・交流の基本的性質を理解する、</li> <li>・回路中でのコイルの役割から、自己誘導と相互誘導の性質を理解し、変圧器のしくみを知る。</li> <li>・交流回路中のコイルやコンデンサーのはたらきを知り、位相差やリアクタンス、インピーダンスについて理解する。</li> <li>・電磁波の発生とその性質について理解する。</li> <li>・電子の発見について学び、電子の特徴を知る。</li> <li>・光子説から光電効果を説明することができる。</li> <li>・X線の波動性と粒子性について理解する。</li> <li>・粒子の波動性について理解する。</li> <li>・原子のボーアモデルを理解し、量子条件と振動数条件からエネルギー準位を計算できる。</li> <li>・原子核について理解する。</li> <li>・放射性崩壊の特徴と放射線の性質を理解する。</li> <li>・核分裂と核融合を核反応式を用いて表し、放出されるエネルギーの利用について学ぶ。</li> <li>・素粒子の分類と特徴について学ぶ。</li> <li>・物理で学んだことが、日常生活や科学技術、社会発展と深い関わりがあることを学ぶ。</li> <li>・問題演習により、物理現象やその現象を支配する原理法則への理解を深める。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	3	理科	化学	4単位
教科書		補助教材		
改訂版 化学 (数研出版)		セミナー化学基礎+化学(第一学習社), 化学総合資料(実教出版), 重要問題集(数研出版)		
到達目標	化学的な事物・現象についての観察, 実験などを行い, 自然に対する関心や探究心を高め, 化学的に探究する能力と態度を育てるとともに, 基本的な概念や原理・法則を理解し, 科学的な自然観を養う。 1 物質とその変化について化学的な解釈や説明ができることを通して, 知的好奇心を持って課題を見いだし, 主体的に解決しようとする意欲を高める。 2 化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を, 深く系統的に理解させる。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の事物・現象に関心や探究心を持ち, 意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。</li> <li>実験に主体的に取り組んでいるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の中で問題を見出し, 取り組んでいるか。</li> <li>教師からの発問に対して自らの考えで実証的, 論理的に答えているか。</li> <li>客観的な事実に基づいて現象を科学的に判断することができるか。</li> <li>自らの考えを的確に表現することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。</li> <li>化学に関わる計算方法を身につけたか。</li> <li>自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し, 知識を身につけているか。</li> </ul>
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」, ④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を, 実験・実習で③「技能」を評価する。 上記の1に重きをおき, 総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱 2 化学反応と光 第3章 化学反応の速さとしくみ 1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応のしくみ 第4章 化学平衡 1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡		<ul style="list-style-type: none"> <li>結合エネルギーと反応熱の関係を理解している。</li> <li>光化学反応や化学発光を理解している。</li> <li>同じ反応でも着目する物質によって反応速度が異なることを理解している。</li> <li>反応速度と濃度, 温度, 触媒, 表面積の関係を理解している。</li> <li>触媒を加えると活性化エネルギーは変化するが, 反応熱は変化しないことを理解している。</li> <li>化学平衡の法則を理解し, 平衡定数を求めたり, 平衡状態での物質の物質量を求めることができる。</li> <li>温度, 圧力, 触媒などの条件がどのようにして決められているかを理解している。</li> <li>塩の加水分解, 弱酸・弱塩基の遊離, 緩衝液, 溶解度積について理解している。</li> </ul>		
第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 1 有機化合物の特徴と分類 2 有機化合物の分類 第2章 脂肪族炭化水素 1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 脂肪族カルボン酸と酸無水物 4 エステルと油脂 第4章 芳香族化合物 1 芳香族炭化水素 2 フェノール類 3 芳香族カルボン酸 4 芳香族アミンとアゾ化合物 5 有機化合物の分離		<ul style="list-style-type: none"> <li>有機化合物と無機化合物の相違点を明確に理解している。</li> <li>構造式から性質や反応性を考察・判断できる。</li> <li>構造異性体の関係を理解し, 知識を身につけている。</li> <li>代表的な官能基の性質に対する知識を身につけている。</li> <li>炭化水素の性質や反応性がその構造に特徴付けられる事を見出し, 異性体を論理的に考察する。</li> <li>炭化水素の分類とその反応性との関係や構造異性体の関係を理解し, 知識を身につけている。</li> <li>官能基をもつ有機化合物の性質や反応性がその構造に特徴付けられる事を見出し, 構造異性体や光学異性体を論理的に考察する。</li> <li>酸素を含むものとしてアルコール誘導体を中心に, 反応性と有機化合物相互の関連について, 観察・実験を通して考察する。</li> <li>芳香族炭化水素や, 官能基をもつ芳香族化合物の性質や反応性がその構造に特徴付けられる事を見出し, 構造異性体や光学異性体を論理的に考察する。</li> <li>酸素を含むものとしてフェノール類, 窒素を含むものとしてニトロ化合物, アミン類を中心に, 反応性と有機化合物相互の関連について, 観察・実験を通して考察する。</li> <li>芳香族化合物の位置異性体の関係を理解し, 知識を身につけている。</li> </ul>		
第5編 天然有機化合物 第1章 天然有機化合物 1 天然有機化合物の種類 2 単糖類・二糖類 3 アミノ酸 第2章 天然高分子化合物 1 多糖類 2 タンパク質・核酸		<ul style="list-style-type: none"> <li>リン脂質と細胞膜について理解している。</li> <li>糖の量的関係に関連する計算問題が解ける。</li> <li>アミノ酸の等電点について理解している。</li> <li>デンプンの加水分解に関わる計算問題を解くことができる。</li> <li>タンパク質の成分元素について理解し, それに関する問題を解くことができる。</li> </ul>		
第6編 合成高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 1 高分子化合物の構造と性質 第2章 合成高分子化合物 1 合成繊維 2 合成樹脂 3 高分子化合物と人間生活 4 天然ゴムと合成ゴム		<ul style="list-style-type: none"> <li>高分子化合物は, 単量体が重合で多数結合してできた重合体であることを理解している。</li> <li>合成繊維の量的関係についての問題が解ける。</li> <li>合成樹脂の重合度について理解している。</li> <li>合成樹脂のリサイクルについて理解している。</li> <li>合成ゴムの原料, 構造を性質を理解している。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	3	理 科	生物	4
教科書		補助教材		
改訂 生物(東京書籍)	リードα 生物基礎+生物、生物重要問題集(数研)、スクエア最新図説生物neo(実教出版)			
到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価規準)		
4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応 2章 動物の行動 3章 植物の環境応答		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応する仕組みを理解することができる。</li> <li>・刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解することができる。</li> <li>・植物が環境変化に反応する仕組みを理解することができる。</li> </ul>		
5編 生態と環境 1章 生物の多様性と生態学 2章 個体群と生物群集 3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 4章 生態系と生物多様性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個体群とその変動について、生物群集の成り立ちと多様な種が共存する仕組みについて理解することができる。</li> <li>・生態系における物質生産とエネルギー効率について理解することができる。</li> <li>・生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識することができる。</li> </ul>		
6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の起源と、その後の生物進化の道筋を理解することができる。</li> <li>・生物進化がどのようにして起こるのかを理解することができる。</li> <li>・生物はその系統に基づいて分類できることを理解することができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(文系)	3	理科	化学探究	2
教科書		補助教材		
改訂版 化学基礎(数研)		セミナー化学基礎(第一学習社)		
到達目標	化学的な事物・現象についての観察, 実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。 1 化学の学習を通し、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験, 観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 ・実験に主体的に取り組んでいるか。	・実験に対し、問題意識を持ちながら取り組んでいるか。 ・教師からの発問に対して自らの考えで実証的、論理的に答えているか。 ・客観的な事実に基づいて、現象を科学的に判断することができるか。 ・自らの考えを的確に表現することができたか。	・実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 ・化学に関わる計算や考え方を身につけたか。 ・自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。	・実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を、実験・実習で③「技能」を評価する。 上記の1に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
・第1編 第1章 物質の構成  第2章 物質の構成粒子  第3章 粒子の結合		・あらゆる物質は原子、分子、イオン、等の微細な粒子からできていることを理解し、成分としての元素の概念が理解でき、発問等に答えることができる。 ・物質の分類として混合物、純物質、単体、化合物について理解でき、発問等に答えることができる。 ・物質は原子・分子・イオンの基本粒子からできていることを理解でき、発問等に答えることができる。 ・物質の三態について理解でき、発問等に答えることができる。  ・原子の基本的な内部構造を学び、原子の性質と結びつきについて理解でき、発問等に答えることができる。 ・原子が陽子、中性子、電子などで構成されていることを理解でき、発問等に答えることができる。 ・イオン結合・共有結合・金属結合の様式と表し方について理解でき、発問等に答えることができる。 ・電気陰性度を理解し、分子の形と極性について考察でき、発問等に答えることができる。  ・イオンがどのように結合しているか。さらに、イオン結合からなる物質の特徴的な性質を理解できる。 ・共有結合からなる物質について学び、またその種類や表しかたを理解でき、発問等に答えることができる。 ・電気陰性度が異なる原子の電子の偏りが極性の原因であることを理解でき、発問等に答えることができる。 ・多数の原子が共有結合で結合していることを理解でき、発問等に答えることができる。 ・金属結合のしくみについて理解し、特性や利用法について理解でき、発問等に答えることができる。		
・第2編 第1章 物質質量と化学反応式  第2章 酸と塩基の反応  第3章 酸化還元反応		・相対質量で原子や分子などの質量を表すことを理解でき、発問等に答えることができる。 ・物質質量の考え方(アボガドロ数、物質の質量や体積等と物質質量の関係)を理解できる。 ・物質質量、濃度に関わる計算が確実にでき、発問等に答えることができる。 ・質量パーセント濃度、モル濃度について確実に求めることができ、発問等に答えることができる。 ・物質の変化を化学反応式で表す事を学び、化学変化の量的関係について理解する。 ・物質質量に関わる計算の応用力をつけることができる。  ・酸や塩基の定義および反応には水素イオンが寄与していることを理解でき、発問等に答えることができる。 ・酸性酸化物および塩基性酸化物の定義および酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。 ・水溶液の液性の程度をpHにより表すことができることを理解でき、発問等に答えることができる。 ・酸と塩基が中和するときの量的関係が理解でき、確実に計算できる。 ・滴定実験により未知の濃度の酸や塩基を求めることができ、発問等に答えることができる。  ・酸化還元反応を電子の授受による考え方を理解でき、発問等に答えることができる。 ・酸化数を用いて酸化還元を統一的に考え、理解でき、発問等に答えることができる。 ・酸化剤・還元剤のはたらきと化学変化を化学反応式で表すことができ、発問等に答えることができる。 ・金属のイオン化傾向、電池や電気分解での反応および量的関係も理解し、確実に計算ができる。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会学科	3	理科	化学探究	2
教科書		補助教材		
改訂版 化学基礎(数研)		セミナー化学基礎(第一学習社)		
到達目標	化学的な事物・現象についての観察, 実験などを行い, 自然に対する関心や探究心を高め, 化学的に探究する能力と態度を育てるとともに, 基本的な概念や原理・法則を理解し, 科学的な自然観を養う。 1 化学の学習を通し, 化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2 実験, 観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち, 意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 ・実験に主体的に取り組んでいるか。	・実験に対し, 問題意識を持ちながら取り組んでいるか。 ・教師からの発問に対して自らの考えで実証的, 論理的に答えているか。 ・客観的な事実に基づいて, 現象を科学的に判断することができるか。 ・自らの考えを的確に表現することができたか。	・実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 ・化学に関わる計算や考え方を身につけたか。 ・自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。	・実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し, 知識を身に付けているか。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を, 実験・実習で③「技能」を評価する。 上記の1に重きをおき, 総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
・第1編 第1章 物質の構成  第2章 物質の構成粒子  第3章 粒子の結合		・あらゆる物質は原子, 分子, イオン, 等の微細な粒子からできていることを理解し, 成分としての元素の概念が理解でき, 発問等に答えることができる。 ・物質の分類として混合物, 純物質, 単体, 化合物について理解でき, 発問等に答えることができる。 ・物質は原子・分子・イオンの基本粒子からできていることを理解でき, 発問等に答えることができる。 ・物質の三態について理解でき, 発問等に答えることができる。 ・原子の基本的な内部構造を学び, 原子の性質と結びつきについて理解でき, 発問等に答えることができる。 ・原子が陽子, 中性子, 電子などで構成されていることを理解でき, 発問等に答えることができる。 ・イオン結合・共有結合・金属結合の様式と表し方について理解でき, 発問等に答えることができる。 ・電気陰性度を理解し, 分子の形と極性について考察でき, 発問等に答えることができる。 ・イオンがどのように結合しているか。さらに, イオン結合からなる物質の特徴的な性質を理解できる。 ・共有結合からなる物質について学び, またその種類や表しかたを理解でき, 発問等に答えることができる。 ・電気陰性度が異なる原子の電子の偏りが極性の原因であることを理解でき, 発問等に答えることができる。 ・多数の原子が共有結合で結合していることを理解でき, 発問等に答えることができる。 ・金属結合のしくみについて理解し, 特性や利用法について理解でき, 発問等に答えることができる。		
・第2編 第1章 物質質量と化学反応式  第2章 酸と塩基の反応  第3章 酸化還元反応		・相対質量で原子や分子などの質量を表すことを理解でき, 発問等に答えることができる。 ・物質質量の考え方(アボガドロ数, 物質の質量や体積等と物質質量の関係)を理解できる。 ・物質質量, 濃度に関わる計算が確実にでき, 発問等に答えることができる。 ・質量パーセント濃度, モル濃度について確実に求めることができ, 発問等に答えることができる。 ・物質の変化を化学反応式で表す事を学び, 化学変化の量的関係について理解する。 ・物質質量に関わる計算の応用力をつけることができる。 ・酸や塩基の定義および反応には水素イオンが寄与していることを理解でき, 発問等に答えることができる。 ・酸性酸化物および塩基性酸化物の定義および酸や塩基の価数, 電離度による強弱の分類法を理解する。 ・水溶液の液性の程度をpHにより表すことができることを理解でき, 発問等に答えることができる。 ・酸と塩基が中和するときの量的関係が理解でき, 確実に計算できる。 ・滴定実験により未知の濃度の酸や塩基を求めることができ, 発問等に答えることができる。 ・酸化還元反応を電子の授受による考え方を理解でき, 発問等に答えることができる。 ・酸化数を用いて酸化還元を統一的に考え, 理解でき, 発問等に答えることができる。 ・酸化剤・還元剤のはたらきと化学変化を化学反応式で表すことができ, 発問等に答えることができる。 ・金属のイオン化傾向, 電池や電気分解での反応および量的関係も理解し, 確実に計算ができる。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(文系)	3	理科	生物探究	2
教科書		補助教材		
改訂 生物基礎(東京書籍)		セミナー生物基礎(第一学習社)・スクエア最新図説生物neo(実教出版)		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。また問題演習を通して生物現象に対する思考を深める。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価規準)		
1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー 探究活動  2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子 2章 遺伝情報の分配 3章 遺伝情報とタンパク質の合成 探究活動  3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境 2章 体内環境を維持するしくみ 3章 免疫 探究活動  4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と遷移 2章 バイオームとその分布 3章 生態系とその保全 探究活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身に付け発問等に答えることができる。</li> <li>生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解し発問等に答えることができる。</li> <li>遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解し発問等に答えることができる。</li> <li>DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解し発問等に答えることができる。</li> <li>DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解し発問等に答えることができる。</li> <li>体内環境が保たれていることを理解し発問等に答えることができる。</li> <li>体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解することができる。</li> <li>免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解し発問等に答えることができる。</li> <li>陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解し、発問等に答えることができる。</li> <li>気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解し、発問等に答えることができる。</li> <li>生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、発問等に答えることができる。</li> <li>生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識し、発問等に答えることができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会科学科	3	理科	生物探究	2
教科書		補助教材		
改訂 生物基礎(東京書籍)		セミナー生物基礎(第一学習社)・スクエア最新図説生物neo(実教出版)		
到達目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。また問題演習を通して生物現象に対する思考を深める。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価規準)		
1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー 探究活動  2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子 2章 遺伝情報の分配 3章 遺伝情報とタンパク質の合成 探究活動  3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境 2章 体内環境を維持するしくみ 3章 免疫 探究活動  4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と遷移 2章 バイオームとその分布 3章 生態系とその保全 探究活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物と遺伝子について観察、実験などを通して探究し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身に付け発問等に答えることができる。</li> <li>・生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解し発問等に答えることができる。</li> <li>・遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解し発問等に答えることができる。</li> <li>・DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解し発問等に答えることができる。</li> <li>・DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解し発問等に答えることができる。</li> <li>・体内環境が保たれていることを理解し発問等に答えることができる。</li> <li>・体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解することができる。</li> <li>・免疫とそれにかかわる細胞の働きについて理解し発問等に答えることができる。</li> <li>・陸上には様々な植生がみられ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解し、発問等に答えることができる。</li> <li>・気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解し、発問等に答えることができる。</li> <li>・生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、発問等に答えることができる。</li> <li>・生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性を認識し、発問等に答えることができる。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	3	理科	物理・化学研究	1
教科書		補助教材		
		物理重要問題集(数研出版)、化学重要問題集(数研出版)		
到達目標	物理・化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学・化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学・化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	物理学・化学的な事物・現象に関心や探究心を持ち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	物理学・化学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理学・化学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理学・化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考、判断、表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の態度及び各種テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、レポート等により③「技能」を評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
物理分野 ①単元確認問題、オリジナル問題での演習 ②重要問題集による問題演習 1 等加速度運動 2 力とつりあい 3 運動の法則 4 抵抗力を受ける運動 5 運動量の保存 6 円運動・万有引力 7 単振動・単振り子 8 温度と熱量 9 気体分子の運動と状態変化 10 波の性質 11 音波 12 光波 13 静電気力と電場 14 コンデンサー 15 直流回路 16 電流と磁場 17 電磁誘導 18 交流回路 19 電子と光 20 原子と原子核  生徒の進路希望や実情に応じて項目を取捨選択する。		・問題演習を通して、基礎事項の定着や物理学の基本概念・原理・法則の理解を深める。 ・応用問題・発展問題を使用した演習を通して、実践的な技能を磨くとともに、さらに理解を深める。		
化学分野 問題演習(化学重要問題集) 1 物質の構成粒子 2 物質量と化学反応式 3 化学結合と結晶 4 物質の三態・気体の法則 5 溶液 6 化学反応とエネルギー 7 反応の速さと化学平衡 8 酸と塩基の反応 9 酸化・還元と電池・電気分解 10 非金属元素 11 金属元素 12 無機物質の性質・反応 13 脂肪族化合物 14 芳香族化合物 15 有機化合物の構造と・反応 16 天然高分子化合物 17 合成高分子化合物 18 総合問題		・問題演習を通して、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ・発展的な問題や論述問題等の演習を通して、思考力や記述力を身につける。		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科(理系)	3	理 科	化学・生物研究	1
教科書		補助教材		
改訂版 化学(数研出版)、改訂 生物(東京書籍)		化学重要問題集(数研出版)、生物重要問題集(数研出版)		
到達目標	化学・生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的・生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	化学や生物現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、化学や生物現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な化学や生物現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	化学や生物の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、化学と生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価規準)		
生物分野 問題演習(標準問題精講) 生物の特徴 遺伝子とその働き 生物の体内環境 バイオームの多様性と分布 生態系とその保全 細胞 生命現象とタンパク質 同化 異化 遺伝情報の発現 有性生殖 発生 植物の環境応答 動物の反応と行動 生態と環境 生物の進化 生物の系統と分類		・重要問題集を用いて単元ごとに問題演習を行い、問題の解法を習得することで、入試レベルの問題に対応することができる。		
化学分野 問題演習(化学重要問題集) 1 物質の構成粒子 2 物質と化学反応式 3 化学結合と結晶 4 物質の三態・気体の法則 5 溶液 6 化学反応とエネルギー 7 反応の速さと化学平衡 8 酸と塩基の反応 9 酸化・還元と電池・電気分解 10 非金属元素 11 金属元素 12 無機物質の性質・反応 13 脂肪族化合物 14 芳香族化合物 15 有機化合物の構造と・反応 16 天然高分子化合物 17 合成高分子化合物 18 総合問題		・問題演習を通して、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ・発展的な問題や論述問題等の演習を通して、思考力や記述力を身につける。		

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	3	理数	理数物理	5
教科書		補助教材		
改訂版総合物理1、改訂版総合物理2(数研出版)		改訂 ニューグローバル 物理基礎+物理 (東京書籍) 物理重要問題集(数研出版)		
到達目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	物理的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	物理的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物理的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物理的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
学習の評価	1 定期考査で②「思考、判断、表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び各種テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
総合物理1 第1編 力と運動 第5章 円運動と万有引力 3 単振動  第2編 熱と気体 第2章 気体のエネルギーと状態変化 1 気体の法則 2 気体分子の運動 3 気体の状態変化  総合物理2 第4編 電気と磁気 第1章 電場 1 静電気力 2 電場 3 電位 4 物質と電場 5 コンデンサー  第2章 電流 1 オームの法則 2 直流回路 3 半導体  第3章 電流と磁場 1 磁場 2 電流のつくる磁場 3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力  第4章 電磁誘導と電磁波 1 電磁誘導の法則 2 交流の発生 3 自己誘導と相互誘導 4 交流回路 5 電磁波  第5編 原子 第1章 電子と光 1 電子 2 光の粒子性 3 X線 4 粒子の波動性  第2章 原子と原子核 1 原子の構造とエネルギー準位 2 原子核 3 放射線とその性質 4 核反応と核エネルギー 5 素粒子  物理学が築く未来  問題演習(重要問題集)		<ul style="list-style-type: none"> <li>単振動を理解し、ばね振り子、単振り子の周期を求めることができることを理解する。</li> <li>ボイルの法則、シャルルの法則を理解する。</li> <li>気体分子の運動から、熱力学諸量を求められることを理解する。</li> <li>断熱、定積、定圧、等温変化をボイル・シャルルの法則と熱力学第一法則を用いて理解する。</li> <li>クーロンの法則と電気料保存則を理解するとともに、電子の移動の観点から静電気現象を理解する。</li> <li>電場の概念を知り、電気力線を用いて電場の様子を表現する。</li> <li>電位の概念を身に付け、電位と静電気力による仕事の関係を理解する。</li> <li>導体や不導体内部での電場と電位の様子を理解する。</li> <li>コンデンサーの性質を理解し、コンデンサーの電圧や電荷を定量的に扱える</li> <li>オームの法則を用いて電流や電圧を求められる。</li> <li>キルヒホッフの法則を用いて回路各部の電流電圧を求められる。</li> <li>半導体の性質を理解し、ダイオードやトランジスターのしくみについて学ぶ。</li> <li>磁場の概念を知り、磁力線を用いて磁場の様子を表現する。</li> <li>電流がつくる磁場の性質を理解し、磁場の強さを求められる。</li> <li>磁束密度の概念を身に付け、電流が磁場から受ける力の強さを求められる。</li> <li>ローレンツ力の性質を理解し、磁場中での荷電粒子の運動を説明できる。</li> <li>レンツの法則とファラデーの電磁誘導の法則から、誘導起電力の向きと大きさを理解する。</li> <li>交流の基本的性質を理解する。</li> <li>回路中でのコイルの役割から、自己誘導と相互誘導の性質を理解し、変圧器のしくみを知る。</li> <li>交流回路中のコイルやコンデンサーのはたらきを知り、位相差やリアクタンス、インピーダンスについて理解する。</li> <li>電磁波の発生とその性質について理解する。</li> <li>電子の発見について学び、電子の特徴を知る。</li> <li>光量子説から光電効果を説明することができる。</li> <li>X線の波動性と粒子性について理解する。</li> <li>粒子の波動性について理解する。</li> <li>原子のボーアモデルを理解し、量子条件と振動数条件からエネルギー準位を計算できる。</li> <li>原子核について理解する。</li> <li>放射性崩壊の特徴と放射線の性質を理解する。</li> <li>核分裂と核融合を核反応式を用いて表し、放出されるエネルギーの利用について学ぶ。</li> <li>素粒子の分類と特徴について学ぶ。</li> <li>物理で学んだことが、日常生活や科学技術、社会発展と深い関わりがあることを学ぶ。</li> <li>問題演習により、物理現象やその現象を支配する原理法則への理解を深める。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	3	理数	理数化学	5単位
教科書		補助教材		
改訂版 化学 (数研出版)		セミナー化学基礎+化学(第一学習社), 化学総合資料(実教出版), 重要問題集(数研出版)		
到達目標	化学的な事物・現象についての観察, 実験などを行い, 自然に対する関心や探究心を高め, 化学的に探究する能力と態度を育てるとともに, 基本的な概念や原理・法則を理解し, 科学的な自然観を養う。 1 物質とその変化について化学的な解釈や説明ができることを通して, 知的好奇心を持って課題を見だし, 主体的に解決しようとする意欲を高める。 2 化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を, 深く系統的に理解させる。 3 化学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち, 意欲的に授業に参加して取り組んでいるか。 ・実験に主体的に取り組んでいるか。	・実験の中で問題を見出し, 取り組んでいるか。 ・教師からの発問に対して自らの考えで実証的, 論理的に答えているか。 ・客観的な事実に基づいて現象を科学的に判断することができるか。 ・自らの考えを的確に表現することができたか。	・実験の方法や実験器具の使い方を理解して正しく行うことを身につけたか。 ・化学に関わる計算方法を身につけたか。 ・自然界の事物現象について科学的に探究する方法を身につけたか。	・実験等を通して自然の事物現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し, 知識を身につけているか。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」, ④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況等で①「関心・意欲・態度」を, 実験・実習で③「技能」を評価する。 上記の1に重きをおき, 総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱 2 化学反応と光 第3章 化学反応の速さとしくみ 1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応のしくみ 第4章 化学平衡 1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡		・結合エネルギーと反応熱の関係を理解している。 ・光化学反応や化学発光を理解している。 ・同じ反応でも着目する物質によって反応速度が異なることを理解している。 ・反応速度と濃度, 温度, 触媒, 表面積の関係を理解している。 ・触媒を加えると活性化エネルギーは変化するが, 反応熱は変化しないことを理解している。 ・化学平衡の法則を理解し, 平衡定数を求めたり, 平衡状態での物質の物質量を求めることができる。 ・温度, 圧力, 触媒などの条件がどのようにして決められているかを理解している。 ・塩の加水分解, 弱酸・弱塩基の遊離, 緩衝液, 溶解度積について理解している。		
第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 1 有機化合物の特徴と分類 2 有機化合物の分類 第2章 脂肪族炭化水素 1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 脂肪族カルボン酸と酸無水物 4 エステルと油脂 第4章 芳香族化合物 1 芳香族炭化水素 2 フェノール類 3 芳香族カルボン酸 4 芳香族アミンとアゾ化合物 5 有機化合物の分離		・有機化合物と無機化合物の相違点を明確に理解している。 ・構造式から性質や反応性を考察・判断できる。 ・構造異性体の関係を理解し, 知識を身につけている。 ・代表的な官能基の性質に対する知識を身につけている。 ・炭化水素の性質や反応性がその構造に特徴付けられる事を見出し, 異性体を論理的に考察する。 ・炭化水素の分類とその反応性との関係や構造異性体の関係を理解し, 知識を身につけている。 ・官能基をもつ有機化合物の性質や反応性がその構造に特徴付けられる事を見出し, 構造異性体や光学異性体を論理的に考察する。 ・酸素を含むものとしてアルコール誘導体を中心に, 反応性と有機化合物相互の関連について, 観察・実験を通して考察する。 ・芳香族炭化水素や, 官能基をもつ芳香族化合物の性質や反応性がその構造に特徴付けられる事を見出し, 構造異性体や光学異性体を論理的に考察する。 ・酸素を含むものとしてフェノール類, 窒素を含むものとしてニトロ化合物, アミン類を中心に, 反応性と有機化合物相互の関連について, 観察・実験を通して考察する。 ・芳香族化合物の位置異性体の関係を理解し, 知識を身につけている。		
第5編 天然有機化合物 第1章 天然有機化合物 1 天然有機化合物の種類 2 単糖類・二糖類 3 アミノ酸 第2章 天然高分子化合物 1 多糖類 2 タンパク質・核酸		・リン脂質と細胞膜について理解している。 ・糖の量的関係に関連する計算問題が解ける。 ・アミノ酸の等電点について理解している。 ・デンプンの加水分解に関わる計算問題を解くことができる。 ・タンパク質の成分元素について理解し, それに関する問題を解くことができる。		
第6編 合成高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 1 高分子化合物の構造と性質 第2章 合成高分子化合物 1 合成繊維 2 合成樹脂 3 高分子化合物と人間生活 4 天然ゴムと合成ゴム		・高分子化合物は, 単量体が重合で多数結合してできた重合体であることを理解している。 ・合成繊維の量的関係についての問題が解ける。 ・合成樹脂の重合度について理解している。 ・合成樹脂のリサイクルについて理解している。 ・合成ゴムの原料, 構造を性質を理解している。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科	3	理数	理数生物	5
教科書		補助教材		
改訂 生物(東京書籍)	リードα 生物基礎+生物、生物重要問題集(数研)、スクエア最新図説生物neo(実教出版)			
到達目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を見いだそうと意欲的に取り組もうとする。また、自然界の様々な事象を科学的に考察しようとする。	生物や生命現象の普遍的な原理・原則に基づきながら、なぜ多様性を示しているかを考えることができる。また、生物や生命現象の仕組みや働きを総合的に見たり、相互関連的に考え、説明することができる。	観察や実験などの直接体験を通して、適切な方法で多種多様な生物や生命現象を探究することができる。また、観察・実験などの結果をレポートにまとめることができる。	生物や生命活動の基本的な概念や原理・法則が理解できる。また、生物の持つ歴史性が理解できる。
学習の評価	1 定期考査で②「思考・判断・表現」、④「知識・理解」を評価する。 2 課題の提出状況、授業中の実験・観察の態度及び課題テストで①「関心・意欲・態度」を評価し、授業中の実験及びそのレポートにより③「技能」を評価する。 3 上記1に重きを置きながら、2の観点を加えて、総合的に評価する。			
学習内容(項目・単元)		学習到達目標(評価規準)		
4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応 2章 動物の行動 3章 植物の環境応答		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応する仕組みを理解することができる。</li> <li>・刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解することができる。</li> <li>・植物が環境変化に反応する仕組みを理解することができる。</li> </ul>		
5編 生態と環境 1章 生物の多様性と生態学 2章 個体群と生物群集 3章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 4章 生態系と生物多様性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個体群とその変動について、生物群集の成り立ちと多様な種が共存する仕組みについて理解することができる。</li> <li>・生態系における物質生産とエネルギー効率について理解することができる。</li> <li>・生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識することができる。</li> </ul>		
6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の起源と、その後の生物進化の道筋を理解することができる。</li> <li>・生物進化がどのようにして起こるのかを理解することができる。</li> <li>・生物はその系統に基づいて分類できることを理解することができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・ 人文社会科学科	1	保健体育	体育	3
教科書		補助教材		
現代高等 保健体育 改訂版 (大修館)		Active Sports 2021		
到達目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自分の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	学習状況での ①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③運動の技能 ④知識・理解を、実技テストで ②思考・判断 ③運動の技能 ④知識・理解を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
体づくり運動		(1)自己の体に関心をもち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。 (2)互いに協力して運動を行う。 (3)体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫することができるようになる。		
新体力テスト		(1)自己の記録を正確に測定することができる。 (2)体力面での現状を知り、課題を見つけることができる。		
球技		(1)チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 (2)チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 (3)勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。		
器械運動		(1)マット・鉄棒・跳び箱の運動について、技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができるようにする。 (2)器械運動に主体的に取り組むとともに、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや健康・安全を確保できるようにする。 (3)技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を計ぞするための取り組みを工夫できるようにする。		
陸上競技		(1)競走・跳躍・投てきの運動について、記録の向上や協奏の楽しさ喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることができるようにする。 (2)陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3)技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
ダンス		(1)創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスについて、感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようにする。 (2)ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3)ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、交流や発表の仕方などを理解し、グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
武道		(1)柔道、剣道について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開ができるようにする。 (2)武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとし、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3)伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
体育理論		(1)スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指した行動ができるようになること。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・人文社会科学科	1	保健体育	保健	1
教科書		補助教材		
現代高等 保健体育 改訂版 (大修館)		図説現代高等保健 改訂版		
到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③知識・理解	
	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	
学習の評価	定期考査で②思考・判断 ③知識・理解を、学習状況で①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③知識・理解を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
「現代社会と健康」 ・私たちの健康のすがた ・健康のとらえ方 ・健康と意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり ・生活習慣病とその予防 ・食事と健康 ・運動と健康 ・休養・睡眠と睡眠		・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解する。 ・健康の考え方やその保持増進の方法は、個人の適切な意思決定や行動選択が重要であることを理解する。 ・健康を保持増進し生活習慣病を予防するためには、食事・運動・休養及び睡眠ともに調和のとれた生活を実践することが必要であることを理解する。		
・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防 ・欲求と適応機制 ・心身相関とストレス ・心の健康と自己実現		・喫煙・飲酒及び薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について知り、喫煙・飲酒については適切な意思決定と行動選択を、薬物は決して行わないことが必要であることを理解する。 ・感染症の新たな問題について知り、その社会的な対策と個人の適切な行動を理解する。 ・人間の欲求と適応機制には様々な種類があること及び精神と身体には密接な関連があることを理解する。 ・精神の健康を保持増進するためには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であることを理解する。		
・交通事故の現状と要因 ・交通社会における運転者の資質と責任 ・安全な交通社会づくり ・応急手当の意義とその基本 ・心肺蘇生法 ・日常的な応急手当		・交通事故を防止するためには、車両の特性を理解し、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度及び交通環境の整備などが重要であることを理解する。 ・交通事故には責任や補償問題が生じることを理解できるようにする。 ・心肺蘇生法の原理や方法に関して理解し、実践できるようになる。 ・日常的な傷害や疾病に対して、それに応じた基本的な応急手当の手順や方法を理解する。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・ 人文社会科学科	2	保健体育	体育	2
教科書		補助教材		
現代高等 保健体育 改訂版 (大修館)		Active Sports 2020		
到達目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自分の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	学習状況で①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③運動の技能 ④知識・理解を、実技テストで②思考・判断、③運動の技能、④知識・理解を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
体づくり運動		(1)自己の体に関心をもち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。 (2)互いに協力して運動を行う。 (3)体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫することができるようになる。		
新体力テスト		(1)自己の記録を正確に測定することができる。 (2)体力面での現状を知り、課題を見つけることができる。		
球技		(1)チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 (2)チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 (3)勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。		
器械運動		(1)マット・鉄棒・跳び箱の運動について、技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができるようにする。 (2)器械運動に主体的に取り組むとともに、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや健康・安全を確保できるようにする。 (3)技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を計ぞするための取り組みを工夫できるようにする。		
陸上競技		(1)競走・跳躍・投てきの運動について、記録の向上や協奏の楽しさ喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることができるようにする。 (2)陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3)技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
ダンス		(1)創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスについて、感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようにする。 (2)ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3)ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、交流や発表の仕方などを理解し、グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
武道		(1)柔道、剣道について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防が展開ができるようにする。 (2)武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとするなど、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3)伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
体育理論		(1)運動やスポーツの効果的学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。		

令和3年度 教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・ 人文社会科学科	2	保健体育	保健	1
教科書		補助教材		
現代高等 保健体育 改訂版 (大修館)		図説現代高等保健 改訂版		
到達目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③知識・理解	
	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	
学習の評価	定期考査で②思考・判断 ③知識・理解を、授業状況で①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③知識・理解を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
II 生涯を通じる健康 1 思春期と健康 2 性意識と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画と人工妊娠中絶 6 加齢と健康 7 高齢者のための社会的取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期における心身の発達や健康問題について、理解する。</li> <li>・性に関する情報への対処など適切な意志決定や行動選択が必要であることを理解する。</li> <li>・健全な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場から理解する。</li> <li>・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康問題について理解する。</li> <li>・加齢に伴い、心身が変化することを形態面及び機能面から理解する。</li> <li>・中高年の健康状態、生活状況やこれらに対する種々の施策が行われていることを取り上げるとともに、高齢社会の到来に対応して、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることを理解する。</li> </ul>		
II 生涯を通じる健康 8 保健制度とその活用 9 医療制度とその活用 10 医薬品と健康 11 様々な保健活動や対策 III 社会生活と環境 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 健康被害の防止と環境対策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国には、人々の健康を守るための保健・医療制度が存在し、行政およびその他の機関などから保健に関する情報や医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることを理解する。</li> <li>・生涯を通じて健康を保持増進するためには、自己の健康上の課題を的確に把握し、種々の医療機関および保健・医療サービスなどを適切に活用していくことが必要であることを理解する。</li> <li>・人間の生活や産業活動に伴う環境汚染などは、人々も健康に影響や被害をもたらすことがあることを理解する。</li> <li>・環境汚染防止および改善対策、法律等を理解する。</li> </ul>		
III 社会生活と環境 4 環境衛生活動のしくみと働き 5 食品衛生活動のしくみと働き 6 食品と環境の保健と私たち 7 働くことの健康 8 労働災害と健康 9 健康的な職業生活		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の安全性の確保や健康増進にかかる法律や行政・生産者・消費者の役割について理解する。</li> <li>・職業病や労働災害の質や量の変化、および予防のための安全管理と働く人の健康管理が必要であることを理解する。</li> <li>・働く人の健康の保持増進は、心身の両面にわたる総合的、積極的な対策の推進やメンタルヘルスケアの重要性、積極的な余暇の活用が大切であることを理解する。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・ 人文社会科学科	3	保健体育	体育	2
教科書		補助教材		
高等学校 改訂版 保健体育(第一学習社)		Active Sports 2019		
到達目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自分の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につけている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
学習の評価	学習状況で①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③運動の技能 ④知識・理解を、実技テストで②思考・判断、③運動の技能、④知識・理解を加味し総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
体づくり運動		(1)自己の体に関心をもち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。 (2)互いに協力して運動を行う。 (3)体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫することができるようになる。		
新体力テスト		(1)自己の記録を正確に測定することができる。 (2)体力面での現状を知り、課題を見つけることができる。		
選 択	器械運動	(1) マット・鉄棒・跳び箱の運動について、技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて、演技することができるようにする。 (2) 器械運動に主体的に取り組むとともに、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや健康・安全を確保できるようにする。 (3) 技の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、発表の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を計ぞするための取り組みを工夫できるようにする。		
	陸上競技	(1) 競走・跳躍・投てきの運動について、記録の向上や協奏の楽しさ喜びを味わい、各種目特有の技能を高めることができるようにする。 (2) 陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとし、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3) 技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
	ダンス	(1) 創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスについて、感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようにする。 (2) ダンスに主体的に取り組むとともに、互いに共感し高め合おうとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3) ダンスの名称や用語、文化的背景と表現の仕方、体力の高め方、課題解決の方法、交流や発表の仕方などを理解し、グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
	球技	(1) チームの課題や自己の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 (2) チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 (3) 勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。		
	武道	(1) 柔道、剣道について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を用いた攻防を展開することができるようにする。 (2) 武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとし、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 (3) 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。		
体育理論		(1) 豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、をの解決を目指した活動を行うことができること。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・人文社会科学科	1	芸術	音楽 I	2
教科書		補助教材		
高校生の音楽1(教育芸術社)		MUSIC NOTE(啓隆社)		
到達目標	1. 歌唱・・・様々な歌曲に親しませ、曲種に応じた発声や歌唱法を工夫させる。 2. 器楽・・・リコーダー、キーボード、ギター等の楽器に親しみ、さらにそれらを用いて豊かなアンサンブル表現を養う。 3. 創作・・・イメージに合わせて曲を編曲したり、創作したりすることができる。 4. 鑑賞・・・音楽の時代背景や音楽の諸要素に着目させながら鑑賞する能力を養う。			
評価の観点	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
	音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心をもち、意欲的に音楽活動しようとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫しようとしている。	音楽表現を工夫するために必要な技能を身につけ、創造的に表現している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、よさを味わって聴いている。
学習の評価	1. 筆記テスト、実技テストにより①、②、③を評価する。 2. 鑑賞プリント、課題により④を評価する。 3. 授業状況(表現・鑑賞への取り組み)により、1・2と合わせて総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
<歌詞に込められたメッセージ> 「校歌」 「翼をください」 「世界に一つだけの花」  <世界の歌> 「オー・ソーレ・ミーオ」 「おお シャンゼリゼ」  <リズムアンサンブル> Clapping Quartet  <鑑賞> 「ボレロ」		・歌詞に込められた思いを感じ取り、作曲者の意図を理解し、表現を工夫している。  ・曲種によって発声を工夫して歌唱している。  ・シャンソン、カンツォーネの特徴を理解し、それぞれの語感を生かして歌唱表現をしている。  ・リズムの特徴を感じながら、ノリの良いアンサンブルを楽しんでいる。  ・楽器や編成の特徴を理解し、積極的に鑑賞している。		
<言葉と音楽> 「待ちぼうけ」 「野ばら」  <世界の歌> 「Amazing Grace」 「荒れ野に御使い」  <劇音楽> 「A Whole New World」 「Oh Happy Day」  <鑑賞> 「交響曲第9番」 世界の諸民族の音楽  <リコーダー・キーボード・トーンチャイムアンサンブル> 「威風堂々」 「木星」		・歌詞の内容を理解し、言葉のまとまりや言葉のリズム、旋律の動きを結びつけることができる。  ・原語の特徴や発音を意識した歌唱表現をしている。  ・楽曲の時代や背景を理解して作品を味わっている。  ・物語の内容と登場人物の心情を理解し、感情移入をして歌唱している。  ・世界の諸民族の生活や文化の特徴を理解し、積極的に鑑賞している。  ・他のパートとのバランス・ハーモニーに気をつけて合唱表現を工夫している。  ・楽器の奏法やパートの役割を理解し、アンサンブル表現を工夫している。		
<日本の歌> 「この道」 「花の街」 「ソーラン節」 「ふるさと」  <創作アンサンブル> 「日本音階」「オリジナル曲」  <鑑賞> 日本の伝統音楽		・日本語の美しい語感を生かした歌唱表現をしている。  ・日本の音階の特徴を感じ取りイメージを持って創作を行っている。  ・自分たちのイメージに合った曲を編曲・創作し、演奏している。  ・日本の伝統音楽に興味関心を持ち、その特徴を感じ取っている。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科 理数科学科・人文社会科学科	1	芸術	美術 I	2
教科書		補助教材		
高校生の美術1(日文)				
到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			
評価の観点	①美術への関心・意欲・態度	②発想や構想の能力	③創造的な技能	④鑑賞の能力
	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的な機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現を構想する。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫する。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。
学習の評価	1. 課題作品の制作過程とその作品により①、②、③を評価する。 2. 授業態度と課題の提出状況により①を、鑑賞レポートにより④を評価する。 3. 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
オリエンテーション	・学習内容への興味関心を高め、美術について自分なりに考えようとする。			
表現 — デザイン 使うものをつくる	・使う場面や用途、使う人の気持ちを考えてデザインを構想する。 ・陶土の特性や制作技法を理解し、素材の特徴を生かして表現を工夫する。 ・自他の作品を使用し、陶土の温かみや作り手の思いを感じ取り、日常生活の中にある美術文化への感性を高める。			
鑑賞 — 生活の中の美術	・社会にある様々なデザインの事例に関心を持ち、身近な日用品などを通して暮らしと形や機能との関係を見直そうとすることができる。 ・日常生活の中にあるデザインに目を向け、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り、暮らしとデザインについて理解する。			
表現 — 彫刻 オノマトペを形にする	・オノマトペを表す形や構成を構想し、創造的に表す。 ・形体、動勢、量感などの造形要素を理解し、表現の構想を練る。 ・材料や用具の特性を理解し、活用しながら表現を創意工夫する。 ・作者の心情や表現意図、表現の工夫を感じ取り、作品のよさや美しさを主体的に味わう。			
鑑賞 — 多様な絵画表現	・制作された時代や主題が異なる作品を比較鑑賞し、それぞれの制作の技術と表現の関係について理解する。			
表現 — 絵画 油彩による表現	・主体的に主題を生成し、形体や色彩などを創意工夫して表現しようとする。 ・材質感、空間表現、マチエールなどについて理解し、目的や意図に応じて効果を生かしながら表現を工夫している。 ・油彩による描画の特性を生かして表現している。 ・自他の作品を鑑賞し、作者の心情や意図と表現の工夫などについて感じ取り、理解を深めている。			
表現 — 映像メディア しりとりアニメーション	・映像メディアの特性を理解して、意欲的に動画作成に取り組む。 ・メタモルフォーゼなどアニメーションならではの表現方法や、ユニークな動きの追求などテーマをもって制作に取り組む。 ・他者の作品とつなげることを理解して、表現方法を工夫し協調して創作を進める。 ・他者の制作した部分を正しく評価し、共同して一つの作品を作る達成感を味わう。			

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・人文社会科学科	1	芸術	書道 I	2
教科書		補助教材		
書 I (教育図書)				
到達目標	書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。			
評価の観点	①書への関心・意欲・態度	②書表現の構想と工夫	③創造的な表現の技能	④鑑賞の能力
	書を愛好し、書作品や書制作に興味関心を持ち、意欲的に活動しようとする。	各作品の時代背景や作者、用筆・運筆等を理解し、自分なりの表現をすると共に基礎的な力を身につける。	自己のイメージを表現するための技能を身につけ、それを生かして創造的に表現する。	身のまわりにある書から、すぐれた芸術作品まで幅広く鑑賞し、多様な書表現への理解を深める。
学習の評価	1、毎回の提出物で②③を主に評価する。 2、①④を授業態度、臨書ノート、創作プリント、鑑賞レポート等を多面的に評価する。 3、1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
漢字の書の学習 篆刻の学習 隷書の学習 ・曹全碑 楷書の学習 ・鄭羲下碑 ・牛橛造像記 ・孔子廟堂碑 ・九成宮醴泉銘 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 楷書による創作 行書の学習 ・蘭亭序 ・祭姪稿 ・風信帖 行書による創作 展覧会鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具について理解するとともに、執筆法に習熟する。</li> <li>・漢字の五書体と仮名二書体の歴史を理解し、特徴を理解する。</li> <li>・篆刻の伝統的美的様式を理解し、姓名印を刻す。</li> <li>・隷書の用筆法を理解し、横広のゆったりした字形で臨書できる。</li> <li>・楷書の構成美を理解し、硬筆で表現できる。</li> <li>・円筆による雄大さを感じ取り、臨書できる。</li> <li>・方筆による魁偉な表現を味わい、臨書できる。</li> <li>・品格の高さを感じ取り、臨書できる。</li> <li>・計算された造形を感じ取り、引き締まった線で臨書できる。</li> <li>・特徴ある用筆法を理解し、澄んだ線で臨書できる。</li> <li>・筆の弾力を効かせた特異な用筆法を理解し、厚みのある線で臨書できる。</li> <li>・2文字から5文字の漢語でふさわしい表現ができる。</li> <li>・優雅で貴族的な雰囲気を感じ取り、ゆったりとした調子で臨書できる。</li> <li>・激しい感情表現を感じ、直筆で臨書できる。</li> <li>・計算された造形を感じ取り、引き締まった線で臨書できる。</li> <li>・2文字から5文字の言葉で創作する。</li> <li>・作品を直観的・かつ分析的に鑑賞し、感想をまとめることができる。</li> </ul>		
仮名の書の学習 ・用筆 ・高野切第3種の臨書  ・短冊の創作 ・色紙に創作  展覧会鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮名の伝統的な書線美を感じ取り、書くことができる。</li> <li>・平明で優美な表現を感じ取り、リズムカルに表現できるとともに、平仮名片仮名の成り立ちや平安朝の表記法が理解できる。</li> <li>・短冊の伝統的形式を理解し、短歌を一首書くことができる。</li> <li>・優れた散らし書きを鑑賞し、自分なりに構成を工夫し、短歌を散らし書きできる。</li> <li>・作品を直観的・かつ分析的に鑑賞し、感想をまとめることができる。</li> </ul>		
漢字仮名交じりの書の学習 ・漢字と仮名の調和 ・題字の揮毫 ・詩を書く		<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字(行書楷書)と平仮名片仮名の調和を考え、表現できる。</li> <li>・書籍やレコードのタイトルを、相応しい書風で表現できる。</li> <li>・自作他作の詩を、相応しい書風や構成を考えて創作できる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	2	芸術	音楽基礎研究	1
教科書		補助教材		
高校生の音楽2(教育芸術社)		MUSIC NOTE(啓隆社)		
到達目標	1. 表現・・・曲種に応じた発声やリコーダー等の楽器の奏法を工夫させると共に、曲の特徴を生かした表現を工夫させる。音楽の構成や諸要素をふまえた表現を工夫させる。 2. 鑑賞・・・音楽の時代背景や音楽の諸要素に着目しながら鑑賞する能力を養う。			
評価の観点	①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
	音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を持ち、意欲的に音楽活動しようとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫しようとしている。	音楽表現を工夫するために必要な技能を身につけ、創造的に表現している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、よさを味わって聴いている。
学習の評価	1. 筆記テスト、実技テストにより①、②、③を評価する。 2. 鑑賞プリントにより④を評価する。 3. 授業状況(表現・鑑賞への取り組み)により、1・2と合わせて総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
<歌唱> 「糸」 「早春賦」 「見上げてごらん夜の星を」 「夏は来ぬ」 <リズムアンサンブル> 「Clapping Quartet2」 <鑑賞> バロック・古典派の作品		・歌詞の内容を理解し、言葉の語感・抑揚を生かして歌唱表現を工夫している。 ・リズムの特徴を感じ取りながらノリの良いアンサンブルになるように工夫をしている。 ・有名な作曲家の生涯や音楽の構成を理解し、いろいろな種類の曲の特徴を聴き取っている。		
<歌唱> 「うつろの心」 「愛の喜び」 <器楽アンサンブル> トーンチャイム、トーンチャイム、リコーダー、リズム楽器、ギター等 <鑑賞> ロマン派・近代の作品		・イタリア語の発音に注意してイタリアオペラのアリアを表情豊かに歌っている。 ・それぞれの楽器や音の特徴や組み合わせに気をつけてアンサンブル表現を工夫している。 ・有名な作曲家の生涯や音楽の構成を理解し、いろいろな種類の曲の特徴を聴き取っている。		
<クラスコンサート> 合唱曲 器楽アンサンブル ヴォイスアンサンブル		・グループの編成に合わせて、曲を編曲する。 ・楽器の組み合わせや音色のバランスを考えて演奏する。 ・協力し合いながら主体的に取り組んでいる。		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	2	芸術	美術基礎研究	1
教科書		補助教材		
高校生の美術2 (日文)				
到達目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化についての理解を深め、個性豊かな美術の能力を高める。			
評価の観点	①美術への関心・意欲・態度	②発想や構想の能力	③創造的な技能	④鑑賞の能力
	美術文化を理解し、個性豊かな美術の能力を高めようとする。	感性や想像力を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、個性豊かに発想して主題を生成し、美的・効果的な表現を構想する。	個性豊かな表現をするために、表現形式や材料・技法を活用する技能を身につける。	美術についての多様な見方を深め、美術のよさや美しさを味わう。
学習の評価	1. 課題作品の制作過程とその作品により①、②、③を評価する。 2. 授業態度と課題の提出状況により①を、鑑賞レポートにより④を評価する。 3. 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
オリエンテーション		・学習内容への興味関心を高め、制作や鑑賞への期待をもつことができる。		
鑑賞 — さまざまな表現		・制作された時代や主題が異なる作品を比較鑑賞し、それぞれの制作の技術と表現の関係について理解を深める。		
表現 — 絵画 日本画:植物を描く		・日本画による表現に関心をもち、日本画で表すことの意義や可能性について考える。 ・植物から感じ取った美しさを表現することに関心をもち、主体的に主題を生成して表現しようとしている。 ・日本画の特性を生かして、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ・日本の伝統的な美術の表現に関心をもち、日本の美術文化について理解する。		
鑑賞 — 生活の中の形		・日常の生活で使用される製品に関心をもち、生活に適した製品を作り出すプロダクトデザインの意味や展開などについて考える。 ・生活の中で目にする製品について鑑賞し、素材や形体の特徴と機能の関係、作者の意図と表現の工夫を感じ取り、生活を豊かにするプロダクトデザインについて理解する。 ・ユーザビリティやエコロジーへの配慮など、現代社会とプロダクトデザインとの関わりに関心をもちことができる。		
表現 — 絵画 油彩画:自分を表現する		・イメージを深めるために様々な発想をこころみ、主題の構想を練る。 ・効果的な表現方法を工夫して、主題を表現しようとする。 ・油彩の技法や用具を表現の意図に応じて活用する。 ・作品の鑑賞を通して、自他の特性や個性について理解を深める。		
表現 — 彫刻 形のないものを形にしよう		・抽象表現について理解し、形や構成を構想して創造的に表す。 ・形体、量感や質感、動勢や塊などの造形要素について理解し、創造的な表現の構想を練る。 ・彫刻の材料や用具の特性を理解し、材料や用具を活用しながら表現を創意工夫する。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	2	芸術	書道基礎研究	1
教科書		補助教材		
書Ⅱ (教育図書)				
到達目標	書道の諸活動を通して創造的な表現の能力を伸ばすとともに、理論や伝統を理解させ書を愛好する心情を育てる。			
評価の観点	①書への関心・意欲・態度	②書表現の構想と工夫	③創造的な表現の技能	④鑑賞の能力
	書を愛好し、書作品や書制作に興味関心を持ち、意欲的に活動しようとする。	幅広い古典の臨書等、経験を通して理解を深めると共に、書写能力を高める。	感興や意図に応じた素材の設定や、素材に即した表現の構想と吟味及び達成ができる。	今までの学習をふまえて能動的に鑑賞し、より感性をみがく。
学習の評価	1、毎回の提出物で②③を主に評価する。 2、①④を授業態度、臨書ノート、創作ノート、鑑賞レポート等多面的に評価する。 3、1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
漢字の書の学習 篆書の学習 ・甲骨文 ・金文 ・小篆 隸書の学習 ・乙瑛碑 ・礼器碑 草書の学習 ・書譜 ・黄庭堅草書詩卷 ・離洛帖 ・倪元璐草書条幅 ・良寛詩  清朝の篆書隸書の学習 ・金農 ・呉讓之 展覧会鑑賞 創作 ・漢字少字数の創作  ・漢字多字数の創作		<ul style="list-style-type: none"> <li>篆書の各書体の歴史を理解し、特徴を感受・分析したうえで、臨書ができる。</li> <li>隸書の歴史を理解し、各古典の特徴を感受・分析したうえで、臨書ができる。</li> <li>草書体の書線の特徴を理解する。</li> <li>草書の歴史を理解し、各古典の特徴を感受・分析したうえで、臨書ができる。</li> <li>各古典の特徴と成立の背景を理解し、表現を味わいつつ臨書できる。</li> <li>現代の表現に通ずるものであることを理解し、表現史を体感しつつ臨書ができる。</li> <li>作品を直観的、かつ分析的に鑑賞し、感想を述べることができる。</li> <li>言葉との関連を考えながら創作できる。</li> <li>自作の篆刻作品の押し方、押す位置を研究し、作品を引き立てることができる。</li> <li>表現の意図を明確にし、用具用材の使い方に工夫しつつ、創作ができる。</li> </ul>		
漢字仮名交じりの書の学習 展覧会鑑賞 創作 鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を直観的、かつ分析的に鑑賞し、感想を述べることができる。</li> <li>自分の感情にふさわしい語句を撰文し、ふさわしい表現ができる。</li> <li>音楽、美術選択者と共に作品鑑賞し、意見を交換する。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	3	芸術	美術研究	2
教科書		補助教材		
高校生の美術3(日文)				
到達目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②芸術的な感受や表現の工夫	③創造的な表現の技能	④鑑賞の能力
	文化遺産や美術文化についての理解を深め、伝統と文化を尊重する態度と新たな美術文化を創造しようとする意欲を高める。	造形的な創造活動の基本となる諸要素の理解を深め、感性や造形感覚と創造的な構成の能力を高める。	対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。	文化財や美術作品、作家などについての鑑賞を通して、美術や美術文化を尊重する態度、批評する能力を高める。
学習の評価	1. 課題作品の制作課程とその作品により②、③を評価する。 2. 授業態度と課題の提出状況により①を、鑑賞レポートにより④を評価する。 3. 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
鑑賞 — 日本の美術と文化 東洋・西洋の美術と文化		<ul style="list-style-type: none"> <li>文化遺産や美術作品の鑑賞を通して、それぞれの時代による美術の変遷や歴史的背景などによる表現形式の違いを理解する。</li> <li>民族、風土、宗教などの違いによる作品の傾向、作者の意図による作風を理解し、それぞれのよさや美しさを味わう。</li> </ul>		
表現 — 絵画 デッサン		<ul style="list-style-type: none"> <li>自然や身近なものを対象として、自己の素直な目で深く観察し、均衡、律動、比例などの美的秩序を確かめる。</li> <li>主体的に対象のイメージや空間、形体などを把握し、美しさを発見する。</li> <li>形体や色彩、材質感などの表し方を工夫し、表現する能力を高める。</li> </ul>		
表現 — デザイン 構成		<ul style="list-style-type: none"> <li>形体の性質と空間に果たす機能等について理解を深め、分割や配置などの工夫により、変化と統一のある構成ができるようにする。</li> <li>色彩の体系及び機能等について理解を深め、美的秩序を意図した調和のとれた配色ができるようにする。</li> <li>様々な材料の特性について理解を深め、表現の可能性を追求するとともに、材料と用具とのかかわりについて関心をもち表現効果を高める。</li> <li>形体や色彩、材質などの効果的な使い方を考え、構造や機能を工夫して、それらを総合的に扱い、美的秩序を意図した平面や立体の表現能力を高める。</li> </ul>		
鑑賞 — 現代の美術と文化		<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の美術が国や地域を越えて人類共通の課題や価値を共有するための役割を果たしていることなどについて理解する。</li> <li>美術や文化が人間の営みの基盤をつくり、生活や社会を心豊かにしていることを深く考え、優れた文化遺産を守り継承していくことの意義を理解する。</li> </ul>		

令和3年度教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科・ 人文社会科学科	1	外国語	コミュニケーション英語 I	3
教科書		補助教材		
Revised ELEMENT English Communication I (啓林館)		ELEMENT English Communication I 予習ワーク、Workbook(Advanced)、LEAP (数研出版)		
到達目標	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。具体的な言語活動は以下の通り。</p> <p>ア. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</p> <p>ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</p> <p>エ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</p> <p>1. 広く言葉への関心を高め、豊かな言語観を育てる。</p> <p>2. 英語の基礎的な知識や技能の修得を通して、コミュニケーション能力の養成を図る。</p> <p>3. 英語の学習を通じて、言語や文化に対する理解を深める。</p> <p>4. 音読を通して、英語を正確に読ませる。</p>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
	コミュニケーションに必要な技能を意欲的に学び取り、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	情報や考えなど、伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向など、相手が伝えようとすることを理解する。	英語の学習を通して、言語についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
学習の評価	<p>1. 定期考査や授業中の発表で②「表現の能力」、③「理解の能力」、④「知識・理解」を評価する。</p> <p>2. 課題の提出状況、確認小テスト及び授業中の参加態度で①「関心・意欲・態度」を評価する。</p> <p>1の評価に2を加味し、総合的に評価する。</p>			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
Lesson 1 Rukugo in English!		<ul style="list-style-type: none"> <li>・かい枝さんが英語落語を通じて学んだことを理解する。</li> <li>・自己紹介をし、自分の好きな活動について書く。</li> <li>・英語の5文型、to不定詞と動名詞について理解する。</li> </ul>		
Lesson 2 Christian the Lion		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョンとエースのライオンとの生活について理解する。</li> <li>・これまでにペットを飼ったことがあるか、その経験または希望について話し合う。</li> <li>・現在完了形、受動態、分詞の限定用法について理解する。</li> </ul>		
Lesson 3 Prediction of the Future		<ul style="list-style-type: none"> <li>・アシモフが未来を予想した内容について理解する。</li> <li>・50年後の世界がどうなっているか意見を述べる。</li> <li>・S+V+O(疑問詞節・if節)、関係代名詞について理解する。</li> </ul>		
Lesson 4 Twice Bombed, Twice Survived		<ul style="list-style-type: none"> <li>・山口さんが被爆をした経緯と、自らの経験を伝えた方法について理解する。</li> <li>・自分の使命は何かについての意見を文章に書く</li> <li>・助動詞+受動態、主張・提案などを表す動詞のthat節における動詞の原形、過去完了形について理解する。</li> </ul>		
Lesson 5 Umami		<ul style="list-style-type: none"> <li>・うま味とはどのようなものかを理解する。</li> <li>・アメリカ人の友人に和食について説明する手紙を書く。</li> <li>・助動詞+受動態、要求・提案などを表すthat節における動詞の原形、関係代名詞のwhatについて理解する。</li> </ul>		
Lesson 6 The Story of PlayPumps		<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレイポンプの計画について理解する。</li> <li>・水不足を解決するための計画を発表する。</li> <li>・関係代名詞の非限定用法、形式主語のitについて理解する。</li> </ul>		
Lesson 7 Biomimetics		<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオミメティクスはどのような学問か、環境問題の解決のために活用された技術を理解する。</li> <li>・割り箸を使うべきでないという意見に賛同するか賛同しないか、討論をする。</li> <li>・現在完了進行形、関係副詞、形式目的語のitについて理解する。</li> </ul>		
Lesson 8 The Power of Presentation		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年東京オリンピック招致のプレゼンテーションにニックが協力することになった経緯を理解する。</li> <li>・自分の学校について中学生に説明する。</li> <li>・仮定法過去、仮定法過去完了について理解する。</li> </ul>		
Lesson 9 Bopsy		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボブシーの夢はどのようなものか、ボブがボブシーのためにどんな計画をしたか理解する。</li> <li>・自分の夢についてスピーチ原稿を書き、発表する。</li> <li>・S+V+C(分詞)、S+V(知覚・使役動詞)+O+C(分詞・原形不定詞)、関係代名詞のwhatについて理解する。</li> </ul>		
Lesson 10 Playing the Enemy		<ul style="list-style-type: none"> <li>・南アフリカの黒人と白人が親密になるために、マンデラがスポーツを利用しようとした経緯、スプリングボクスの選手たちが刑務所を訪れた際に悟ったことをつかむ。</li> <li>・アパルトヘイト政策中の南アフリカの写真を見て、写真からわかる南アフリカの様子を文章に書く。</li> <li>・過去完了進行形、進行形の受動態、分詞構文について理解する。</li> </ul>		

令和3年度教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・ 理数科学科・人文社会科学科	1	外国語	英語表現 I	3
教科書		補助教材		
MAINSTREAM English Expression I (ZOSHINDO)		Grand View English Grammar in 48 Stages、チャート、英語の発音ノート(すべて教研出版)、英語の構文80(美誠社)		
到達目標	情報や考えなどを場面や目的に応じて英語で伝える能力や、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
	コミュニケーションに必要な技能を意欲的に学び取り、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常生活の身近な話題について、伝えたいことを英語で書いたり話したりして表現する。	日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や意向など相手が伝えようとすることを理解する。	日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解している。
学習の評価	1. 定期考査で②「表現の能力」、③「理解の能力」、④「知識・理解」を評価する。 2. 課題の提出状況、確認小テスト及び授業中の参加態度で①「関心・意欲・態度」、②「表現の能力」を評価する。 1の評価に2を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
MAINSTREAM English Expression I		Grand View E.G.		
Lesson 1 Nice to Meet You	L.1~2 文の種類	英語で自己紹介を行い、相手とコミュニケーションを図ろうとする。文の要素を理解する。		
Lesson 2 What kind of Music Do You Like?	L.3~4 文の構造	自分の好きな音楽について話したり、英語で書いたりする。句型を理解する。		
Lesson 3 My Treasure	L.5 時制	自分の大切なものについて英語で説明する。語と語の連結部の発音に注意して音読できる。		
Lesson 4 This Coming Weekend	L.6 時制	未来を表す表現について理解し、未来の予定について英語で書いたり話したりする。助動詞を理解して、適切な英文を書くことができる。		
Grammar Practice	L.7 進行形	既習の文法事項を復習し定着を図る。受動態を理解する。		
Skill 1 Making a Speech		効果的なスピーチの仕方について学び、実際にスピーチを行う。		
Lesson 5 Subjects I'm Taking	L.8~10 完了形・助動詞	進行形の働きを理解し、自分が取っている科目について英語で伝える。不定詞について理解する。		
Lesson 6 Are you in a Club?	L.11~12 助動詞	現在完了の働きを理解し、クラブ活動について英語で書いたり話したりする。動名詞を理解する。		
Lesson7 The Schiil Festival Is Soon	L.13~15 受動態	現在完了進行形、過去完了形の働きを理解し、学校行事の企画や準備について英語で書いたり話したりする。		
Lesson 8 Getting to Asahi Senior High School	L.16~18 不定詞	助動詞や命令文を用いて英語で道案内ができるようにする。分詞を理解して、適切な英語を書くことができる。		
	L.19~23 動名詞・分詞			
Lesson 9 The Store I Often Go To	L.24 比較	自分がよく行く店について英語で説明する。比較の用法を理解する。		
Lesson 10 I Feel Sick	L.25 比較	自分の健康状態について英語で説明することができる。体調不良を訴えたり、アドバイスをしたりできるようになる。		
Skill 2 Conversation Strategies	L.26 関係詞	あいづちなどの表現を交えるなど自然なコミュニケーションの方法を学ぶ。関係代名詞の用法を理解する。		
Lesson11 Volunteer Activity	L.27 関係詞	ボランティア活動について英語で書いたり話したりする。依頼文のメールを書く。関係副詞の用法を理解する。		
Lesson12 Japanese Food	L.28 関係詞	日本食について英語で説明することができる。英文リーフレット用の原稿を作成する。		
Lesson 13 Countries Around the World	L.29~31仮定法	関係代名詞を用いて留学に関する手紙を書く。仮定法を理解する。		
Lesson 14 Reduce, Reuse, Recycle	L.32,L.35 仮定法・否定	ゴミ問題について話し合ったり、記事を書いたりする。比較表現の理解を深める。疑問詞の用法を理解して適切な英語を書くことができる。		
Lesson 15 We Are What We Eat	L.36~37 否定・強調	食生活について自分の意見を英語でまとめる。関係副詞の意味と働きを理解する。		
Lesson 16 An Imressive Book	L.38~39 特殊構文	自分が薦めたい本について話したり、ブックレビューを書いたりする。		
Skill 3 Writing a Passage	L.40~OL1 接続詞	文章の構成や役立つ表現を理解し、読み手を意識して英文を書く。		
	L.33~34, L.41~OL2 時制の一致・名詞			
Lesson17 Performing a Skit	L.42 冠詞	スキットを演じる上でのスキルを学び、実際にグループでスキットを作って発表する。		
Lesson 18 Making a Presentation	OL3 冠詞	発表の仕方や効果的な発表とはどのようなものかを学び、実際にプレゼンテーションを行う。形容詞についての理解を深める。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科	2	外国語	コミュニケーション英語 II	3・4
教科書		補助教材		
Revised ELEMENT English Communication II (啓林館)		Revised ELEMENT English Communication II 予習ノート(啓林館)ワークブック(啓林館), NEO現代を見る・Neo現代を読む(いっずな書店), Cutting Edge Green・Blue(エミル出版), ユメタン1(アルク), 東大英単語熟語鉄壁(KADOKAWA)		
到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 具体的な言語活動の目標は、 ア. 事物に関する紹介報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 イ. 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をするすることができる。 ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめることができる。 エ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書くことができる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
	コミュニケーションに必要な技能を意欲的に学び取り、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	情報や考えなど、伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向など、相手が伝えようとすることを理解する。	英語の学習を通して、言語についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
学習の評価	(1) 定期考査や授業中の発表で②「表現の能力」、③「理解の能力」、④「知識・理解」を評価する。 (2) 課題の提出状況、確認小テスト及び授業中の参加態度で①「関心・意欲・態度」を評価する。 (1)の評価に(2)を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
Lesson 1 Beyond Words 現代を見る(1-4), ユメタン1(Unit1, 2)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・非音声的言語とは何かを理解する。</li> <li>・非音声的言語にはどのような種類があるかを理解する。</li> <li>・非音声的言語が文化によって異なることを理解する。</li> <li>・日常的に使われている非音声的言語について説明する。</li> </ul> <文法事項>助動詞+完了形, 受動態の動名詞, 付帯状況を表すwith A Bについて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力や英文の論理関係を意識し、英語を正しく読む力を身につける。</li> </ul>		
Lesson 2 Stay Hungry, Stay Foolish 現代を見る(5-8), ユメタン1(Unit3, 4, 5)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブズがコンピューターに印刷デザインを組み込むことになったきっかけについて理解する。</li> <li>・ジョブズが会社を解雇された話から伝えようとしていることを理解する。</li> <li>・ジョブズが病気になった話から伝えようとしていることを理解する。</li> <li>・自分の座右の銘について書き、発表する。</li> </ul> <文法事項>複合関係詞, S+V(be動詞)+C(that節), be動詞+to不定詞について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・英文の論理関係を意識し、語彙力や英語を正しく読む力を身につける。</li> </ul>		
Lesson 3 A Teenager To Change the World 現代を見る(9-13), ユメタン1(Unit6, 7, 8)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャックが研究を始めた経緯について理解する。</li> <li>・研究におけるジャックの苦労について理解する。</li> <li>・ジャックが成功した理由について理解する。</li> <li>・世界を変えるために何ができるかについて書く。</li> </ul> <文法事項> 動名詞の意味上の主語, 疑問詞+ do you think + (S') + V'?, 未来進行形について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙力や速読スキルを身につけ、段階的に入試レベルの読解力を養成する。</li> </ul>		
Lesson 4 Life in a Jar 現代を見る(14-20), ユメタン1(Unit9, 10)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・イレーナがユダヤ人を救うことにした経緯を理解する。</li> <li>・イレーナがユダヤ人のために行ったことを理解する。</li> <li>・イレーナが警察につかまってから解放されるまでの経緯を理解する。</li> <li>・イレーナの後悔について理解する。</li> </ul> インターネットでイレーナについて調べ、彼女にインタビューしている設定で劇を行う。 <文法事項>完了形の受動態, さまざまな分詞構文について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・速読スキルを身につけ、段階的に入試レベルの読解力を養成する。</li> </ul>		
Further Reading 1 Two Brainteasers Cutting Edge Green (Unit 1-3), 鉄壁(Section1-3)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農夫が土地を与えられることになった経緯を理解する。</li> <li>・農夫がどのようにして難問を解いたか理解する。</li> <li>・川渡しをしている男が出会った難問を理解する。</li> <li>・男がどのようにして難問を解いたか理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・速読スキルを身につけ、段階的に入試レベルの読解力を養成する。</li> </ul>		
Lesson 5 Space Debris Cutting Edge Green (Unit 4-6), 鉄壁(Section4-6)		<題材内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇宙ごみとは何かを理解する。</li> <li>・宇宙ごみが引き起こす問題を理解する。</li> <li>・宇宙ごみ問題の解決のために行われている取り組みについて理解する。</li> <li>・宇宙探査に資金を費やすべきかについて議論する。</li> </ul> <文法事項> 接続詞+分詞, 二重否定, 部分否定について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、語彙力や読解力と論理的な思考力を養成する。</li> </ul>		
Lesson 6 Caddy for Life Cutting Edge Green (Unit 7-9), 鉄壁(Section7-9)		<題材内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブルースとワトソンの関係がどのようなものだったかを理解する。</li> <li>・ブルースとワトソンの別離と再会について理解する。</li> <li>・ブルースの病気と、病気に対してどのように立ち向かったかについて理解する。</li> <li>・日米での好きなスポーツの違いについて議論する。</li> </ul> <文法事項> 独立分詞構文, 関係副詞の非限定用法について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、語彙力や読解力と論理的な思考力を養成する。</li> </ul>		

<p>Lesson 7 iPS Cells</p> <p>Cutting Edge Green (Unit 10-13), 鉄壁(Section10-13)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山中博士がiPS細胞の研究を始めた経緯を理解する。</li> <li>・iPS細胞でどのような問題が解決するかを理解する。</li> <li>・激化する再生医療分野での競争について理解する。</li> <li>・再生医療について意見を交換し、世界に誇る日本人科学者や日本の技術について意見をまとめ、発表する。</li> </ul> <p>&lt;文法事項&gt; 不定詞の意味上の主語, ifを省略した仮定法, 同格のthatについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、語彙力および読解力と論理的な思考力を養成する。</li> </ul>
<p>Lesson 8 Selective Breeding</p> <p>Cutting Edge Green (Unit 14-16), 鉄壁(Section14-16)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬と人間との関わりについて理解する。</li> <li>・犬の品種改良の利点について理解する。</li> <li>・犬の品種改良の欠点について理解する。</li> <li>・品種改良の是非について意見を交換し、ほかの動物の品種改良の例をまとめ、発表する。</li> </ul> <p>&lt;文法事項&gt;仮定法の慣用表現, 完了形の動名詞, 強調構文について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、語彙力および読解力と論理的な思考力を養成する。</li> </ul>
<p>Further Reading 2 The Little Prince and the Fox</p> <p>Cutting Edge green(Unit 17), , 鉄壁(Section17)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キツネが言う『きずなを作る』とは何かを理解する。</li> <li>・キツネが言う『儀式』とは何かを理解する。</li> <li>・キツネが王子に教えた秘密について理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、語彙力および読解力と論理的な思考力を養成する。</li> </ul>
<p>Lesson 9 The Vancouver Asahi</p> <p>Take Pleasure in Your English Reading(Unit 18-19), Improve Your English in Reading(Unit ), 鉄壁(Section18-19)</p>	<p>&lt;題材内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日が結成された当時の日系の状況を理解する。</li> <li>・チームを立て直すために朝日が行ったことを理解する。</li> <li>・朝日のプレーによって何が変わったかについて理解する。</li> <li>・戦争によって朝日がどうなったか、戦後どのように評価されたかを理解する。</li> <li>・海外出身の選手が直面する問題について議論する。</li> </ul> <p>&lt;文法事項&gt; whatを用いた強調, 無生物主語, 倒置について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な語彙力および入試標準レベルの英文読解力を段階的に養成する。</li> </ul>
<p>Lesson 10 Euglena</p> <p>Cutting Edge Blue(1-3), Neo 現代を読む(Unit 1-3), 鉄壁(Section20-22)</p>	<p>&lt;題材内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミドリムシとはどのような生物か、またどのような利用法があるかを理解する。</li> <li>・出雲さんがミドリムシ研究を始め、成功するまでの経緯を理解する。</li> <li>・現在どのような目的でミドリムシが研究されているかを理解する。</li> <li>・日本が温暖化ガスの排出を減らすためにできることについて議論する。</li> </ul> <p>&lt;文法事項&gt; 複合関係詞however, if節に相当する表現, 未来完了形について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な語彙力および入試標準レベルの英文読解力を段階的に養成する。</li> </ul>
<p>Further Reading 3 Pyramids</p> <p>Cutting Edge Blue(4-6), NEO現代を読む(Unit 4-6), 鉄壁(Section23-25)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピラミッドの建設方法に関する2つの説と、それぞれの欠陥について理解する。</li> <li>・ウーダンの提唱した新説がどのようなものか理解する。</li> <li>・フランスの研究チームの発見がウーダンの新説とどのような関わりがあるか理解する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な語彙力および入試標準レベルの英文読解力を段階的に養成する。</li> </ul>
<p>Pleasure Reading A Retrieved Reformation</p> <p>Cutting Edge Blue(7), NEO現代を読む(Unit 7), 鉄壁(Section26-28)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジミーがエルモアで成功を収め、アナベルと結婚することになった経緯を理解する。</li> <li>・金庫に閉じ込められた子どもを助けるために、ベンの前で金庫破りをしたジミーの気持ちを理解する。</li> <li>・ジミーを見逃したベン of 気持ちを理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な語彙力および入試標準レベルの英文読解力を段階的に養成する。</li> </ul>

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・理数科学科	2	外国語	英語表現Ⅱ	2
教科書		補助教材		
MAINSTREAM English Expression II Second Edition (増進堂)		英作文法標準問題集(駿台文庫)・Write to the Point(数研出版)・チャート式基礎からの新々総合英語(数研出版)・英語の構文80(美誠社)・Vintage(いっずな書店)		
到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 具体的な言語活動の目標は、 ア. 事物に関する紹介報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 イ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめることができる。 ウ. 情報や自分の考えなど、伝えたいことを英語で話すことができる。 エ. 情報や自分の考えなどについて、まとまりのある英文を書くことができる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
	コミュニケーションに必要な技能を意欲的に習得し、積極的に言語活動を行ってコミュニケーションを図ろうとする。	情報や考えなど、伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向など、相手が伝えようとすることを理解する。	英語の学習を通して、言語についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解している。
学習の評価	(1) 定期考査や授業中の発表で②「表現の能力」、③「理解の能力」、④「知識・理解」を評価する。 (2) 課題の提出状況、確認小テスト及び授業中の活動への参加態度で①「関心・意欲・態度」を評価する。 (1)の評価に(2)を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
教科書		補助教材		
Lesson 1	Self Introduction	英作文法 Lesson 1-22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や学校での会話を聞いたり、紹介文を読んだりして話し手や書き手の意向や伝えたい情報を理解する。</li> <li>・情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり書いたりして積極的に表現する。</li> <li>・英語の表現と日本語の表現の違いを意識する。</li> <li>・5文型、時制、受動態、助動詞、仮定法、不定詞、動名詞、分詞、名詞節、関係詞、代名詞、Itの用法、形容詞・副詞、比較、疑問・否定、副詞節、接続語句等の基本的文法事項を確認する。</li> <li>・自分の伝えたいことを英語で積極的に表現する。</li> </ul>	
Lesson 2	A Place I recommend You Go			
Lesson 3	What I'm worried about			
Lesson 4	If I Were the Principal			
Appendices	Speech			
Lesson 5	A Memory of Childhood	Write to the Point 1-10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なテーマについて説明した文章や会話を読んだり聞いたりして、書き手や話し手の意向などを理解する。</li> <li>・情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり書いたりして積極的に表現する。</li> <li>・英語の表現と日本語の表現の違いを意識する。</li> <li>・主語、目的語、理由表現、時制、動詞、関係詞、時間と数の表現等の基本的文法事項を確認する。</li> <li>・自分の伝えたいことを英語で積極的に表現する。</li> </ul>	
Lesson 6	Japan's Prefectures			
Lesson 7	My Favorite Way to Eat Curry			
Lesson 8	The History of Mobile Phones in Japan			
Appendices	Presentation Evaluation			
Lesson 9	Family Rules	Write to the Point 11-18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章や会話を読んだり聞いたりして書き手や話し手の意向などを的確に理解する。</li> <li>・情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり書いたりして積極的に表現する。テーマについて自分の意見を英語で適切に表現することができる。</li> <li>・英語の表現と日本語の表現の違いを意識する。</li> <li>・仮定・条件、比較、譲歩等の基本的文法事項を確認する。</li> <li>・自分の伝えたいことを英語で積極的に表現する。</li> </ul>	
Lesson 10	Manga in School Libraries			
Lesson 11	What You Can do for the Environment			
Appendices	Paragraph Writing Essay Writing			

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会科学科	2	英語	総合英語	5
教科書		補助教材		
Revised ELEMENT English Communication II (啓林館) MAINSTREAM English Expression II Second Edition (増進堂)		Revised ELEMENT English Communication II Workbook Advanced(啓林館), NEO現代を見る(いなづな書店) Cutting Edge Green, Blue(エミル出版), 英作文法標準問題集(駿台文庫), Write to the Point(数研出版), ユメタン1(アルク), 東大英単語熟語鉄壁(KADOKAWA)		
到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 具体的な言語活動の目標は、 ア. 事物に関する紹介報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 イ. 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をするすることができる。 ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめることができる。 エ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書くことができる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
	コミュニケーションに必要な技能を意欲的に学び取り、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	情報や考えなど、伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向など、相手が伝えようとすることを理解する。	英語の学習を通して、言語についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
学習の評価	(1) 定期考査や授業中の発表で②「表現の能力」、③「理解の能力」、④「知識・理解」を評価する。 (2) 課題の提出状況、確認小テスト及び授業中の参加態度で①「関心・意欲・態度」を評価する。 (1)の評価に(2)を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
Lesson 1 Beyond Words  現代を見る(1-4), ユメタン1(Unit1,2) 英作文法 Lesson 1-4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・非音声的言語とは何かを理解する。</li> <li>・非音声的言語にはどのような種類があるかを理解する。</li> <li>・非音声的言語が文化によって異なることを理解する。</li> <li>・日常的に使われている非音声的言語について説明する。</li> </ul> <文法事項>助動詞+完了形, 受動態の動名詞, 付帯状況を表すwith A Bについて理解する。		
Lesson 2 Stay Hungry, Stay Foolish  現代を見る(5-8), ユメタン1(Unit3-5) 英作文法 Lesson 5-8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョブズがコンピューターに印刷デザインを組み込むことになったきっかけについて理解する。</li> <li>・ジョブズが会社を解雇された話から伝えようとしていることを理解する。</li> <li>・ジョブズが病気になる話から伝えようとしていることを理解する。</li> <li>・自分の座右の銘について書き、発表する。</li> </ul> <文法事項>複合関係詞, S+V(be動詞)+C(that節), be動詞+to不定詞について理解する。		
Lesson 3 A Teenager To Change the World  現代を見る(9-13), ユメタン1(Unit6-8), 英作文法 Lesson 9-12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャックが研究を始めた経緯について理解する。</li> <li>・研究におけるジャックの苦労について理解する。</li> <li>・ジャックが成功した理由について理解する。</li> <li>・世界を変えるために何ができるかについて書く。</li> </ul> <文法事項> 動名詞の意味上の主語, 疑問詞+ do you think + (S') +V'?, 未来進行形について理解する。		
Lesson 4 Life in a Jar  現代を見る(14-18), ユメタン1(Unit9-10), 英作文法 Lesson 9-12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・イレーナがユダヤ人を救うことにした経緯を理解する。</li> <li>・イレーナがユダヤ人のために行ったことを理解する。</li> <li>・イレーナが警察につかまってから解放されるまでの経緯を理解する。</li> <li>・イレーナの後悔について理解する。</li> <li>・インターネットでイレーナについて調べ、彼女にインタビューしている設定で劇を行う。</li> </ul> <文法事項>完了形の受動態, さまざまな分詞構文について理解する。		
Further Reading 1 Two Brainteasers  MAINSTREAM Lesson1  Cutting Edge Green(Unit 1-3), 英作文法 Lesson 13-16 鉄壁(Section1-3)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農夫が土地を与えられることになった経緯を理解する。</li> <li>・農夫がどのようにして難問を解いたか理解する。</li> <li>・川渡しをしている男が出会った難問を理解する。</li> <li>・男がどのようにして難問を解いたか理解する。</li> </ul> ・速読スキルを身につけ、段階的に入試レベルの読解力を養成する。 ・動詞の語法についての文法事項を確認する。		
Lesson 5 Space Debris  MAINSTREAM Lesson2~3  Cutting Edge Green(Unit4-7), 英作文法 Lesson 17-20, 鉄壁(Section4-6)		<題材内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇宙ごみとは何かを理解する。</li> <li>・宇宙ごみが引き起こす問題を理解する。</li> <li>・宇宙ごみ問題の解決のために行われている取り組みについて理解する。</li> <li>・宇宙探査に資金を費やすべきかについて議論する。</li> </ul> <文法事項> 接続詞+分詞, 二重否定, 部分否定について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、語彙力や読解力と論理的な思考力を養成する。</li> <li>・関係詞、時間の表現、数字の表現についての文法事項を確認する。</li> </ul>		
Lesson 6 Caddy for Life  MAINSTREAM Lesson4~5  Cutting Edge Green (Unit 8-10), 英作文法 Lesson 21-22, Write to the Point(A1-2), 鉄壁(Section7-9)		<題材内容> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブルースとワトソンの関係がどのようなものだったかを理解する。</li> <li>・ブルースとワトソンの別離と再会について理解する。</li> <li>・ブルースの病気と、病気に対してどのように立ち向かったかについて理解する。</li> <li>・日米での好きなスポーツの違いについて議論する。</li> </ul> <文法事項> 独立分詞構文, 関係副詞の非限定用法について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、語彙力や読解力と論理的な思考力を養成する。</li> <li>・仮定・条件の表現について、また比較の表現について文法事項を確認する。</li> </ul>		

<p>Lesson 7 iPS Cells</p> <p>MAINSTREAM Lesson6～7</p> <p>Improve Your English in Reading(Unit 11-13), Write to the Point(A3-6), 鉄壁 (Section10-13)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山中博士がiPS細胞の研究を始めた経緯を理解する。</li> <li>・iPS細胞でどのような問題が解決するかを理解する。</li> <li>・激化する再生医療分野での競争について理解する。</li> <li>・再生医療について意見を交換し、世界に誇る日本人科学者や日本の技術について意見をまとめ、発表する。</li> </ul> <p>&lt;文法事項&gt; 不定詞の意味上の主語, ifを省略した仮定法, 同格のthatについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、語彙力および読解力と論理的な思考力を養成する。</li> <li>・比較の応用、譲歩の表現、重要表現などの文法事項を確認する。</li> </ul>
<p>Lesson 8 Selective Breeding</p> <p>MAINSTREAM Lesson8</p> <p>Cutting Edge Green(Unit 14-16), Write to the Point(A7-9)鉄壁 (Section14-17)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犬と人間との関わりについて理解する。</li> <li>・犬の品種改良の利点について理解する。</li> <li>・犬の品種改良の欠点について理解する。</li> <li>・品種改良の是非について意見を交換し、ほかの動物の品種改良の例をまとめ、発表する。</li> </ul> <p>&lt;文法事項&gt;仮定法の慣用表現, 完了形の動名詞, 強調構文について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、語彙力および読解力と論理的な思考力を養成する。</li> <li>・重要表現について文法事項を確認する。</li> </ul>
<p>Further Reading 2 The Little Prince and the Fox</p> <p>Cutting Edge Green(Unit 17-18), Write to the Point(A10-12), 鉄壁 (Section18-21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キツネが言う『きずなを作る』とは何かを理解する。</li> <li>・キツネが言う『儀式』とは何かを理解する。</li> <li>・キツネが王子に教えた秘密について理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、語彙力および読解力と論理的な思考力を養成する。</li> <li>・主語の決定について発展的な文法事項を確認する。</li> </ul>
<p>Lesson 9 The Vancouver Asahi</p> <p>MAINSTREAM Lesson9</p> <p>Cutting Edge Blue(Unit 1-3), Write to the Point(A13-15), 鉄壁 (Section22-25)</p>	<p>&lt;題材内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日が結成された当時の日系の状況を理解する。</li> <li>・チームを立て直すために朝日が行ったことを理解する。</li> <li>・朝日のプレーによって何が変わったかについて理解する。</li> <li>・戦争によって朝日がどうなったか、戦後どのように評価されたかを理解する。</li> <li>・海外出身の選手が直面する問題について議論する。</li> </ul> <p>&lt;文法事項&gt; whatを用いた強調, 無生物主語, 倒置について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な語彙力および入試標準レベルの英文読解力を段階的に養成する。</li> <li>・主語の決定、目的の表現について発展的な文法事項を確認する。</li> </ul>
<p>Lesson 10 Euglena</p> <p>MAINSTREAM Lesson10</p> <p>Cutting Edge Blue (3-4), Write to the Point(A16-18), 鉄壁 (Section26-29)</p>	<p>&lt;題材内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミドリムシとはどのような生物か、またどのような利用法があるかを理解する。</li> <li>・出雲さんがミドリムシ研究を始め、成功するまでの経緯を理解する。</li> <li>・現在どのような目的でミドリムシが研究されているかを理解する。</li> <li>・日本が温暖化ガスの排出を減らすためにできることについて議論する。</li> </ul> <p>&lt;文法事項&gt; 複合関係詞however, if節に相当する表現, 未来完了形について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な語彙力および入試標準レベルの英文読解力を段階的に養成する。</li> <li>・理由の表現、時制についての発展的な文法事項を確認する。</li> </ul>
<p>Further Reading 3 Pyramids</p> <p>Cutting Edge Blue (5-6), Write to the Point(B1-3) 鉄壁 (Section30-33)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピラミッドの建設方法に関する2つの説と、それぞれの欠陥について理解する。</li> <li>・ウーダンの提唱した新説がどのようなものか理解する。</li> <li>・フランスの研究チームの発見がウーダンの新説とどのような関わりがあるか理解する</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な語彙力および入試標準レベルの英文読解力を段階的に養成する。</li> <li>・時制、動詞の語法についての発展的な文法事項を確認する。</li> </ul>
<p>Pleasure Reading A Retrieved Reformation</p> <p>MAINSTREAM Lesson10</p> <p>Cutting Edge Blue (7-8), Write to the Point(B4-7) 鉄壁 (Section34-37)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジミーがエルモアで成功を収め、アナベルと結婚することになった経緯を理解する。</li> <li>・金庫に閉じ込められた子どもを助けるために、ベンの前で金庫破りをしたジミーの気持ちを理解する。</li> <li>・ジミーを見逃したベン of 気持ちを理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な語彙力および入試標準レベルの英文読解力を段階的に養成する。</li> <li>・関係詞についての発展的な文法事項を確認する。</li> </ul>

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会科学科	2	英語	異文化理解	2
教材				
・Take a Stance(センゲージラーニング) ・CNN Workbook Extended course(朝日出版社)				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を通して、時事問題、風俗習慣、地理、歴史、文化などに関して探究し、それに関するディスカッションを通して理解を深めることができる。</li> <li>・多文化への関心を高め、様々な文化の多様性と共通性などを理解し、多文化理解を深めることで、自国の文化を再認識する態度を養う。</li> <li>・様々なテーマについてリサーチし、プレゼンテーションしたり、身近な話題についてのディベートをとおして、自分の考えを適切に伝えることができる能力を養成する。</li> <li>・自然な英語を聞き取ったり、まとまりのある英文を読んだりして、内容を理解し、さらに自分の意見を英語で表現することができる。</li> </ul>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
	コミュニケーションに必要な技能を意欲的に学び取り、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	情報や考えなど、伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向など、相手が伝えようとしていることを理解する。	英語の学習を通して、言語についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
学習の評価	(1) 定期考査で③「理解の能力」、④「知識・理解」を評価する。各学期1回スピーキングテストを行い、②「表現の能力」を評価する。 (2) 授業中の参加態度(Performance Evaluation)や自己評価を取り入れ、①「関心・意欲・態度」を評価する。 (1)の評価に(2)を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
1 Staying Connected with Friends or Being Exposed 2 Women's Protection or Gender Equality? 3 Eco or Ego? 4 A Rewarding Pastime or a Waste of Time? 7 Should High Schoolers Work Part-time? 8 The Pros and Cons of Globalization		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ内容について、聞き手に分かりやすくリテリングしたり、パワーポイントにまとめて、プレゼンテーションを行うことができる。</li> <li>・身近な問題に関する日本の現状と世界の動向について理解を深めることができる。</li> <li>・諸問題の功罪を理解し、自分の立場を明らかにして、考えを明示できる。また、グループディスカッションやミニディベートでは、テキストで学んだ表現を活用することができる。</li> </ul>		
9 Humans or AI? 10 A valuable Experience or a disadvantage in Job Hunting? 11 Big Government or Limited Government? 12 Are Homeless Responsible for Their Homelessness? 14 Open Broders or Closed Societies? 15 Tax Hikes: Direct or Indirect?		<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解した内容について、パワーポイントやビデオなどICT機器を活用して相手にわかりやすく伝えることができる。</li> <li>・日本や世界の諸問題について、テキストだけでなく、新聞記事やインターネットを活用して情報を収集し、整理して、自分の考えを英語で表現することができる。</li> <li>・グループディスカッションでは、相手の意見を踏まえて、自分の考えを明示できる。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに学習したことを踏まえて、テーマに基づいてディスカッション(ディベート)やプレゼンテーションを行う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人でプレゼンテーションを行い、聞き手とインタラクションを取りながら発表することができる。</li> <li>・グループディスカッションでは、自分の意見を明確に伝えるとともに、相手の意見について自分の考えを述べるができる。</li> <li>・ALTやクラスメートの発表を聴いて、まとめたり、自分の意見を言ったりすることができる。</li> <li>・プレゼンテーションやディスカッションの内容をもとに、英文でレポートを書くことができる。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	3	外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	理系(4), 文系(5)
教科書		補助教材		
Revised ELEMENT English CommunicationⅢ(啓林館)		Change the world advanced, Change the world standard(いっいずな書店)		
到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。また、様々な分野の英文を読むことで、展開の推測、情報の推理および整理、情報の検索といったレベルの高い読解のスキルを伸ばす。 具体的な言語活動の目標は、 ア. 事物に関する紹介報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 イ. 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方を行うことができる。 ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめることができる。 エ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書くことができる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
	コミュニケーションに必要な技能を意欲的に学び取り、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	情報や考えなど、伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向など、相手が伝えようとすることを理解する。	英語の学習を通して、言語についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
学習の評価	(1) 定期考査や授業中の発表で②「表現の能力」、③「理解の能力」、④「知識・理解」を評価する。 (2) 課題の提出状況、確認小テスト及び授業中の参加態度で①「関心・意欲・態度」を評価する。 (1)の評価に(2)を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
Lesson 1 Change the world Unit 1-3		統計を利用する際に筆者と読者が気をつけるべきことについて理解する。 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 2 Change the world Unit 4-6		<ul style="list-style-type: none"> <li>何が言語を消滅させるのかを理解する。</li> <li>言語が消えるときに、私たちが失うものは何かを理解する。</li> <li>世界の言語を守るために何ができ、何がなされているかを理解する。</li> <li>もし英語を話す人々が増えたら、日本でもこの課と同じようなことが起きるかどうかについて議論する。</li> </ul> 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 3 Change the world Unit 7-10		<ul style="list-style-type: none"> <li>オランウータンが住むボルネオ島とスマトラ島の天然熱帯雨林が消滅すると予測されている理由を理解する。</li> <li>便利なヤシ油が引き起こしている問題は何かを理解する。</li> <li>ヤシ油がオランウータンの絶滅の原因になるかもしれないことを理解する。</li> <li>ヤシ油を使い続けるべきか否かについて話し合う。</li> </ul> 現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 4 Change the world Unit 11-14		<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスコースマーカーについて理解し、文章の構成を考えながら、概要や要点をとらえることができる。</li> <li>ニュートンが万有引力の概念を思いついた物語の真実を理解する。</li> <li>心理学者が、精神的特徴を説明する用語である「気骨」を考え出した経緯などを理解する。</li> <li>気骨に対するよりよい理解が、何を可能にするかを理解する。</li> <li>「気骨」があると思う人物についてまとめ、発表する。</li> </ul> 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 5 Change the world Unit 15-20		<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者が授業で出した課題がどのようなものだったか理解する。</li> <li>この課題から得られる教訓を理解する。</li> </ul> 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 6 Lesson 7 入試総合問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>ムベンバが発見した現象について理解する。</li> <li>「ムベンバ」効果をめぐる議論について理解する。</li> </ul> 現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 8 Lesson 9 入試総合問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>ダーウィンがガラパゴス諸島で気づいた動植物の変化について理解する。</li> <li>ダーウィンとウォレスが、どのように進化論を考えついたかを理解する。</li> <li>ダーウィンとウォレスが、それぞれに与えた影響について理解する。</li> <li>人間を含め、生物に進化の可能性はあるかについてまとめ、発表する。</li> </ul> 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 10 入試総合問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>マークに関する筆者の思い出を理解する。</li> <li>それぞれのクラスメートについて言える最もすばらしいことを考え、それを書き留めるよう指導し、そのことがあげた効果について理解する。</li> <li>戦死したマークがいつもリストを身に付けていた事と、当時のクラスメートも同様であった事を理解する。</li> <li>他人の短所にばかり目が行き、長所に気づきにくいのはなぜかを話し合う。</li> </ul> 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科・ 理数科学科	3	外国語	英語表現Ⅱ	2
教科書		補助教材		
MAINSTREAM English Expression II (ZOSHINDO)		Write to the Point英作文(数研出版)、Vintage (いっずな書店)		
到達目標	(1) 言語や文化に対する関心を高め、今までに習得した知識を生かしながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 (2) 語彙、文法、構文、基本英文など英語で表現するために必要な知識を発展的に学習させ、応用力や実践力を養う。 (3) ALTとのチーム・ティーチングで自然な英語表現力を養う。 (4) 自分の意見や考えについて、ある程度まとまりのある内容を表現できるような「伝える能力」の育成を目指す。			
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	コミュニケーションに必要な技能を意欲的に学び取り、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	情報や考えなど、伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向など、相手が伝えようとすることを理解する。	英語の学習を通して、言語についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
学習の評価	(1) 定期考査や授業中の発表などで②「表現の能力」、③「理解の能力」、④「知識・理解」を評価する。 (2) 課題の提出状況、確認小テスト及び授業中の参加態度で①「関心・意欲・態度」を評価する。 (3) 上記の(1)の評価に(2)を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
MAINSTREAM English Expression II Part 5: Lesson 15 Family Name First?/Given Name First?  Part 5: Lesson 16 Should GM Food Be Promoted?  Part 5: Lesson 17 Should We Abolish the Death Penalty?		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「序論－本論－結論」の構成を意識して、エッセイを書くことができる。</li> <li>・読みやすいパラグラフを書くために、具体例を効果的に取り入れたり、対比・対照、譲歩の表現を使ったりすることができる。</li> <li>・グラフや資料の内容を活用して、エッセイを書くことができる。</li> <li>・Cause &amp; Effectや図表の引用表現を使って効果的なエッセイを書くことができる。</li> </ul>		
Write to the Point EXERCISES B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入試頻出の重要構文に加え、内容や語句の表現を習得する。</li> <li>・ある程度長い日本語を英語で表現できる実践力を養成する。</li> <li>・自分の考えを、ある程度まとまった量の英文で自由自在に表現できる応用力を養う。</li> </ul>		
Vintage Field2 語法、Field3 イディオム		<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語表現に必須の語法を習得し、正しい英語で表現できる力を養成する。</li> <li>・入試頻出の重要構文に加え、内容や語句の表現を習得する。</li> </ul>		

令和3年度 教育計画 (シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
理数科学科 人文社会科学科	3	英語	英語探究	4
教科書		補助教材		
ELEMENT English CommunicationIII (啓林館)		Change the world advanced, Change the world standard(いっいずな書店)		
到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。また、様々な分野の英文を読むことで、展開の推測、情報の推理および整理、情報の検索といったレベルの高い読解のスキルを伸ばす。 具体的な言語活動の目標は、 ア. 事物に関する紹介報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。 イ. 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方を行うことができる。 ウ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめることができる。 エ. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書くことができる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②表現の能力	③理解の能力	④知識・理解
	コミュニケーションに必要な技能を意欲的に学び取り、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	情報や考えなど、伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向など、相手が伝えようとすることを理解する。	英語の学習を通して、言語についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
学習の評価	(1) 定期考査や授業中の発表で②「表現の能力」、③「理解の能力」、④「知識・理解」を評価する。 (2) 課題の提出状況、確認小テスト及び授業中の参加態度で①「関心・意欲・態度」を評価する。 (1)の評価に(2)を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
Lesson 1 Change the world Unit 1-3		統計を利用する際に筆者と読者が気をつけるべきことについて理解する。 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 2 Change the world Unit 4-6		<ul style="list-style-type: none"> <li>何が言語を消滅させるのかを理解する。</li> <li>言語が消えるときに、私たちが失うものは何かを理解する。</li> <li>世界の言語を守るために何ができ、何がなされているかを理解する。</li> <li>もし英語を話す人々が増えたら、日本でもこの課と同じようなことが起きるかどうかについて議論する。</li> </ul> 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 3 Change the world Unit 7-10		<ul style="list-style-type: none"> <li>オランウータンが住むボルネオ島とスマトラ島の天然熱帯雨林が消滅すると予測されている理由を理解する。</li> <li>便利なヤシ油が引き起こしている問題は何かを理解する。</li> <li>ヤシ油がオランウータンの絶滅の原因になるかもしれないことを理解する。</li> <li>ヤシ油を使い続けるべきか否かについて話し合う。</li> </ul> 現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 4 Change the world Unit 11-14		<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスコースマーカーについて理解し、文章の構成を考えながら、概要や要点をとらえることができる。</li> <li>ニュートンが万有引力の概念を思いついた物語の真実を理解する。</li> <li>心理学者が、精神的特徴を説明する用語である「気骨」を考え出した経緯などを理解する。</li> <li>気骨に対するよりよい理解が、何を可能にするかを理解する。</li> <li>「気骨」があると思う人物についてまとめ、発表する。</li> </ul> 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 5 Change the world Unit 15-20		<ul style="list-style-type: none"> <li>筆者が授業で出した課題がどのようなものだったか理解する。</li> <li>この課題から得られる教訓を理解する。</li> </ul> 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 6 Lesson 7 入試総合問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>ムベンバが発見した現象について理解する。</li> <li>「ムベンバ」効果をめぐる議論について理解する。</li> </ul> 現代社会の身近な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 8 Lesson 9 入試総合問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>ダーウィンがガラパゴス諸島で気づいた動植物の変化について理解する。</li> <li>ダーウィンとウォレスが、どのように進化論を考えついたかを理解する。</li> <li>ダーウィンとウォレスが、それぞれに与えた影響について理解する。</li> <li>人間を含め、生物に進化の可能性はあるかについてまとめ、発表する。</li> </ul> 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		
Lesson 10 入試総合問題演習		<ul style="list-style-type: none"> <li>マークに関する筆者の思い出を理解する。</li> <li>それぞれのクラスメートについて言える最もすばらしいことを考え、それを書き留めるよう指導し、そのことがあげた効果について理解する。</li> <li>戦死したマークがいつもリストを身に付けていた事と、当時のクラスメートも同様であった事を理解する。</li> <li>他人の短所にばかり目が行き、長所に気づきにくいのはなぜかを話し合う。</li> </ul> 現代社会の様々な話題を扱ったまとまりのある英文を読み、読解力と論理的な思考力を養成する。		

令和3年度 教育計画

(シラバス)

学科名	学年	教科	科目	単位数
人文社会科学科	3	英語	総合英語	3
教科書		補助教材		
MAINSTREAM English Expression II (ZOSHINDO)		Write to the Point英作文(数研出版)、Vintage (いっぴずな書店)、Reading40(いっぴずな書店)		
到達目標	(1) 言語や文化に対する関心を高め、今までに習得した知識を生かしながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 (2) 語彙、文法、構文、基本英文など英語で表現するために必要な知識を発展的に学習させ、応用力や実践力を養う。 (3) ALTとのチーム・ティーチングで自然な英語表現力を養う。 (4) 自分の意見や考えについて、ある程度まとまりのある内容を表現できるような「伝える能力」の育成を目指す。			
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	コミュニケーションに必要な技能を意欲的に学び取り、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	情報や考えなど、伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向など、相手が伝えようとすることを理解する。	英語の学習を通して、言語についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
学習の評価	(1) 定期考査や授業中の発表などで②「表現の能力」、③「理解の能力」、④「知識・理解」を評価する。 (2) 課題の提出状況、確認小テスト及び授業中の参加態度で①「関心・意欲・態度」を評価する。 (3) 上記の(1)の評価に(2)を加味し、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
<b>MAINSTREAM English Expression II</b> Part 5: Lesson 15 Family Name First?/Given Name First?  Part 5: Lesson 16 Should GM Food Be Promoted?  Part 5: Lesson 17 Should We Abolish the Death Penalty?		・「序論－本論－結論」の構成を意識して、エッセイを書くことができる。  ・読みやすいパラグラフを書くために、具体例を効果的に取り入れたり、対比・対照、譲歩の表現を使ったりすることができる。  ・グラフや資料の内容を活用して、エッセイを書くことができる。 ・Cause & Effectや図表の引用表現を使って効果的なエッセイを書くことができる。		
<b>Write to the Point</b> EXERCISES B		・入試頻出の重要構文に加え、内容や語句の表現を習得する。 ・ある程度長い日本語を英語で表現できる実践力を養成する。 ・自分の考えを、ある程度まとまった量の英文で自由自在に表現できる応用力を養う。		
<b>Vintage</b> Field2 語法、Field3 イディオム		・英語表現に必須の語法を習得し、正しい英語で表現できる力を養成する。 ・入試頻出の重要構文に加え、内容や語句の表現を習得する。		
Reading 40		・共通テスト形式の問題演習を通して、正確な読解力や速読力を身につける。		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科 理数科学科・人文社会科学科	1	家庭	家庭基礎	2
教科書		補助教材		
新家庭基礎21		生活学Navi (実教)		
到達目標	1. 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 2. 学習した知識や技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 3. 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	家庭生活について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むと共に、実践的な態度を身につけている。	家庭生活について見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し、工夫・創造する能力や表現する能力を身につけている。	家庭や地域の生活を向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
学習の評価	1 定期考査で主に②思考・判断・表現、④知識・理解を評価する。 2 授業や実験・実習の態度やワークシートの作成状況により①関心・意欲・態度、実験・実習のレポート提出状況で②思考・判断・表現、ホームプロジェクト等の取り組み状況から①②③④を多角的、総合的に評価する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
1編 自立して生きる 1章 「自立する」とは 2 青年期の自立をどう実現する？ 3 よりよい人間関係を築くには？ 4 ひとりで暮らすために必要なこととは？		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の自立を目指して青年期の課題に関心を持って取り組んでいる。</li> <li>・「4つの自立」について必要な基礎的・基本的な知識を身につけようと意識している。</li> <li>・自分の考えを表現できるとともに、他者を尊重して行動することができる。</li> </ul>		
3章 選んで着る 1 今何を着ている？ 2 衣服でこんなトラブルが？ 3 衣服は何で出来ている？ 4 洗濯・手入れ、考えている？ 5 衣服はどこからどこへ？ 6 衣服を着る意味とは？		<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服のさまざまな役割を整理する。</li> <li>・被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い絵表示・サイズ表示などの意味が分かる。</li> <li>・汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。</li> <li>・生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。</li> <li>・実習に積極的に取り組み、基本的な縫い方やアイロンがけができる。</li> </ul>		
1編 自立して生きる 2章 楽しく安全に食べる 1 からだと心の健康をつくる食生活とは？ 2 どれだけの栄養が必要か？ 3 栄養素のはたらきとは？ 4 食品をどう見分けるか？ 5 食品を扱う際に注意する点とは？ 6 食事作りのポイントとは？ 7 食の安全は守られているか？ 8 日本の食の課題とは？		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の食生活を振り返る。</li> <li>・日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。</li> <li>・食事摂取量や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。</li> <li>・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。</li> <li>・青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。</li> <li>・基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。</li> <li>・食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。</li> <li>・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるように努力する。</li> </ul>		
※ホームプロジェクト事前学習		・生活のなかから課題を見だし、課題解決に向け意欲を持って計画的に取り組むことができる。		
※ホームプロジェクトの発表		・課題を見出す→題目を決定する→実施計画をたてる→実施する→評価する→次の実践への手順で課題に取り組み、生活の改善に努めたか。		
2編 支え合って生きる 2章 子どもと生きる 1 子どもから何を感じる？ 2 子どもが育つ環境はどうなっている？ 3 子どもの育ちを支える場とは？ 4 子どもはどのような権利を持っている？ 5 子どもを育てるのにどのような支援がある？ 6 子どもが発達するとはどういうこと？ 7 子どもの生活で気をつけたいことは？ 8 子どもにとっての遊びとは？ 9 親になるとはどういうこと？		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育つ力と発達段階を知る。</li> <li>・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。</li> <li>・遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。</li> <li>・子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。</li> <li>・子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。</li> <li>・児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。</li> </ul>		

学習内容(単元・項目)	学習到達目標(評価規準)
1編 自立して生きる 1章 「自立する」とは 1 これからの生き方をどうデザインする？ 2編 支え合って生きる 1章 多様化した社会を生きる 1 家族はどう変わってきたか？ 2 家族をめぐる課題とどう向き合う？ 3 家族をめぐる法律はどうなっている？ 4 多様な生き方の保障とは？ 5 ライフキャリアをどうつくる？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・晩婚化、非婚化、多様な労働形態、離婚率の高さなどの現状を理解する。</li> <li>・家族・家庭生活のあり方に関心を持ち、男女が協力して家庭や社会を築くことの重要性を考えようとしている。</li> <li>・男女共同参画、ワークライフバランスをふまえた家事、職業労働のあり方について考え自己実現のためにパートナーと話し合う姿勢がもてる。</li> </ul>
4章 人間らしく住む 1 人間にとって住まいはなぜ必要か？ 2 住まいの選びの視点とは？ 3 住まいの間取りから何が読み取れるか？ 4 健康で安全な住まいとは？ 5 環境に配慮した住まい・住み方とは？ 6 共に生きる住まい・まちとは？ 7 住まう場を創り育てる方法とは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まい・住環境に関心を持ち、健康で安全かつ快適な住生活を考えようとしている。</li> <li>・住まいの機能を理解し、適切な住まいの選択ができる技術を身につけている。</li> </ul>
5章 消費社会を生きる 1 私たちをとりまく消費生活はどうなっているのか？ 2 情報化の中での消費生活とは？ 3 グローバル化の中での消費生活とは？ 4 自立した生活の必要なお金の管理とは？ 5 「金融自由化」のなかでのお金の管理とは？ 6 「商品を買う」とはどういうこと？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約の重要性や消費者信用、多重債務問題など消費者保護の仕組みを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。</li> <li>・大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。</li> <li>・今までの学習を踏まえ、健康的・経済的な献立作成ができる。</li> <li>・自分の目指すライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。</li> </ul>
3章 支えあい・共に生きる 1 命と暮らしを守るには？ 2 支え合いの仕組みとはどうなっているか？ 3 高齢者とそれを支える仕組みはどうなっているか？ 4 貧困とそれを支える仕組みの現状は？ 5 障害者の現状とそれを支える仕組みの現状は？ 6 福祉のあり方はどう変わっているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢社会の現状と課題を理解する。</li> <li>・高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。</li> <li>・障がい者に関する福祉について学び、障がい者を支える制度と課題を考える。</li> </ul>

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科、理数科学科、人文社会科学科	2	情報	社会と情報	2
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 社会と情報(数研出版)				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 情報化が社会に及ぼす影響や課題について理解し、情報社会に積極的に参画する態度を身につける。</li> <li>2 メディアの特性を踏まえ、情報を適切に収集・処理し、信憑性を判断したうえで、責任をもって発信する力を身につける。</li> <li>3 情報機器や情報通信ネットワークを活用し、他者とコミュニケーションをとりながら協働して問題を解決する力を身につける。</li> <li>4 情報機器や情報通信ネットワークのしくみを理解し、進展する情報社会に対応する基礎的な知識を習得する。</li> </ol>			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	情報のデジタル化や情報通信ネットワークの特性に関心を持つ。他者を尊重し、情報社会の一員として積極的に参画する態度を身につけている。	目的をもって情報を収集・分析し、論理的に思考することができる。情報の収集・発信における様々な問題点を踏まえ、情報モラルやガイドラインに基づいた判断ができる。	情報機器や情報通信ネットワークを活用し、状況に応じてメディアとコミュニケーション手段を効果的に使い分けながら、問題解決等に取り組むことができる。	表現やコミュニケーションのツールとしてコンピュータを効果的に活用するための基礎知識を理解する。情報化の進展が社会に及ぼす影響を踏まえ、適正な情報処理の重要性を理解する。
学習の評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 定期考査で上記の②③④を評価する。</li> <li>2 授業状況及び実習課題で上記の①③を評価する。</li> </ol> 上記1,2の双方に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
(オリエンテーション実習) ・コンピュータとネットワークの基本操作  序編 情報とメディア 第1章 情報とは 第2章 メディアとは 第3章 情報のデジタル化 第4章 インターネットの活用  第1編 情報社会と情報モラル 第1章 情報社会の光と影 第2章 情報セキュリティの確保 第3章 情報社会における法と個人の責任		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの基本操作やネットワークの使い方を理解し、適切に使用できる。</li> <li>・「情報」がもつ意味やはたらきについて理解している。</li> <li>・さまざまなメディアの特徴を理解している。</li> <li>・アナログとデジタルのちがいについて理解している。</li> <li>・デジタル化の際に失われる情報について理解している。</li> <li>・アナログ情報とデジタル情報のちがいについて理解している。</li> <li>・デジタル情報の利点と欠点を理解している。</li> <li>・サーチエンジンのしくみや情報を絞りこむための方法について理解している。</li> <li>・情報化が社会に及ぼす影響と課題について理解している。</li> <li>・情報技術が生み出した問題について理解している。</li> <li>・SNSやブログ、投稿サイトなどのコミュニケーション手段の特性について理解している。</li> <li>・ネット上のトラブルを回避し、インターネットを適切に活用するための知識を身に付けている。</li> <li>・ユーザ認証やアクセス制御など、情報セキュリティを確保するために必要な知識を身に付けている。</li> <li>・通信の秘密を守る必要性を理解している。</li> <li>・暗号やデジタル署名のしくみを理解している。</li> <li>・コンピュータウイルスが社会に及ぼす影響について理解している。</li> <li>・コンピュータウイルスへの対策の重要性とその方法を理解している。</li> <li>・情報の流出やサイバー攻撃等の現状を知るとともに、セキュリティ対策の必要性やその方法を理解している。</li> <li>・著作権などの知的財産権を保護する必要性や、その法律の目的について理解している。</li> <li>・個人情報やプライバシーの保護に関連する法律の意義や内容について理解している。</li> </ul>		
第2編 デジタル情報と情報の活用 第1章 コンピュータのしくみ 第2章 情報のデジタル表現 第3章 情報の表現と伝達 第4章 プレゼンテーション  第3編 情報通信ネットワーク 第1章 コミュニケーション手段の発達 第2章 インターネットのしくみ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータ本体のはたらきや補助記憶装置の種類や特徴などについて理解している。</li> <li>・OSの役割、GUIの特徴について理解している。</li> <li>・ビット、バイトの概念や、デジタル情報の量の単位について理解している。</li> <li>・2進数と10進数の変換のしかたについて理解している。</li> <li>・データ圧縮のしくみや利点について理解している。</li> <li>・音声、静止画、動画のファイル形式の特徴を理解している。</li> <li>・情報伝達のメディアの性質を理解している。</li> <li>・情報を発信するときの注意点について理解している。</li> <li>・多様な形態の情報を統合化し、伝えたい情報をわかりやすく表現するために必要な知識を身に付けている。</li> <li>・プレゼンテーションの実施や資料作成のための知識を身に付けている。</li> <li>・マスコミュニケーションの進展について理解している。</li> <li>・LAN, WAN, インターネットの構造などに関する知識を身に付けている。</li> <li>・インターネットの通信プロトコルは、役割によって複数のプロトコルが存在することについて理解している。</li> <li>・LANの配線形態や規格について理解している。</li> <li>・IPアドレス、ドメイン名、DNSのしくみを理解している。</li> <li>・ウェブページの特徴やその閲覧のしくみについて理解している。</li> <li>・URLの構成や意味について理解している。</li> </ul>		
第4編 望ましい情報社会の構築 第1章 情報システムと人間 第2章 問題解決		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信技術の発達や情報の扱われ方の変化について理解している。</li> <li>・身のまわりでコンピュータや情報システムがどのように利用されているか理解している。</li> <li>・情報通信技術の活用によって、販売や仕事などがどのように変化したか理解している。</li> <li>・生活の安全のために、どのような場所でどのように情報技術が使われているか理解している。</li> <li>・ユーザビリティやアクセシビリティについて理解している。</li> <li>・ユーザインタフェースに関する技術について理解している。</li> <li>・バリアフリーやユニバーサルデザインについての知識を身に付け、その必要性や重要性を理解している。</li> <li>・問題解決を行うためのプロセスを理解している。</li> <li>・各プロセスの手順や方法を理解している。</li> <li>・度数分布表とヒストグラム、データの代表値、分散と標準偏差、散布図と相関係数について、定義や意味を理解している。</li> </ul>		

学科名	学年	教科	科目	単位数
普通科	2	情報	情報の科学	2
教科書		補助教材		
改訂版 高等学校 情報の科学(数研出版)				
到達目標	1 社会を支える情報技術の役割や影響を理解し、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技能を習得する。 2 情報技術の進歩が人間や社会に及ぼす影響を理解し、その特性を踏まえた適切なルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識と技能を習得する。 3 情報機器や情報通信ネットワークに関する基礎的な知識や技能の習得を通して、問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得する。 4 情報社会の発展に積極的に寄与する能力と態度を身につけ、自ら進んで貢献しようという意欲を身につける。			
評価の観点	①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
	社会の情報化が及ぼす影響や課題に関心をもち、問題解決のために情報機器や情報通信ネットワークを活用して、情報社会の発展に主体的に寄与する態度を身につけている。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	情報及び情報技術を適切に活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	情報機器や情報通信ネットワークのしくみ、情報技術全般について科学的な知識を深め、社会における情報技術の役割や課題について理解している。
学習の評価	1 定期考査で上記の②③④を評価する。 2 授業状況及び実習課題で上記の①③を評価する。 上記1,2の双方に重きをおき、総合的に成績を算出する。			
学習内容(単元・項目)		学習到達目標(評価規準)		
(オリエンテーション実習) ・コンピュータとネットワークの基本操作  序編 情報とメディア 第1章 情報とは 第2章 メディアとは 第3章 情報のデジタル化 第4章 インターネットの活用  第1編 コンピュータとデジタル情報 第1章 コンピュータのしくみ 第2章 情報のデジタル表現		<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータの基本操作やネットワークの使い方を理解し、適切に使用できる。</li> <li>「情報」がもつ意味やはたらきについて理解している。</li> <li>さまざまなメディアの特徴を理解している。</li> <li>アナログ情報とデジタル情報のちがいについて理解している。</li> <li>デジタル情報の利点と欠点を理解している。</li> <li>インターネットの特性をふまえて、インターネットを適切に活用することができる。</li> <li>サーチエンジンのしくみや情報を絞りこむための方法について理解している。</li> <li>コンピュータ本体のはたらきや補助記憶装置の種類や特徴などについて理解している。</li> <li>OSの役割、GUIの特徴について理解している。</li> <li>ビット、バイトの概念や、デジタル情報の量の単位について理解している。</li> <li>2進数と10進数の変換のしかたについて理解している。</li> <li>データ圧縮のしくみや利点について理解している。</li> <li>音声、静止画、動画のファイル形式の特徴を理解している。</li> </ul>		
第2編 情報通信ネットワーク 第1章 コミュニケーション手段の発達 第2章 インターネットのしくみ  第3編 問題解決とコンピュータ 第1章 問題解決 第2章 問題の解決と処理手順の自動化 第3章 データベース		<ul style="list-style-type: none"> <li>マスコミュニケーションの進展について理解している。</li> <li>LAN, WAN, インターネットの構造などに関する知識を身に付けている。</li> <li>インターネットの通信プロトコルは、役割によって複数のプロトコルが存在することについて理解している。</li> <li>LANの配線形態や規格について理解している。</li> <li>IPアドレス、ドメイン名、DNSのしくみを理解している。</li> <li>問題解決を行うためのプロセスを理解している。</li> <li>各プロセスの手順や方法を理解している。</li> <li>問題解決の手順をアルゴリズムを用いて表現する方法を理解している。</li> <li>それぞれの探索法の特徴を理解している。</li> <li>それぞれの探索法の手順をアルゴリズムを用いて表現する方法を理解している。</li> <li>データベースの特徴や機能について理解している。</li> <li>データベースの演算を理解している。</li> </ul>		
第4編 情報社会と情報モラル 第1章 情報システムと人間 第2章 情報社会の光と影 第3章 情報セキュリティの確保 第4章 情報社会における法と個人の責任		<ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信技術の発達や情報の扱われ方の変化について理解している。</li> <li>身のまわりでコンピュータや情報システムがどのように利用されているか理解している。</li> <li>ユーザビリティやアクセシビリティについて理解している。</li> <li>ユーザインタフェースに関する技術について理解している。</li> <li>情報化が社会に及ぼす影響と課題について理解している。</li> <li>情報技術が生み出した問題について理解している。</li> <li>SNSやブログ、投稿サイトなどのコミュニケーション手段の特性について理解している。</li> <li>暗号やデジタル署名のしくみを理解している。</li> <li>コンピュータウイルスが社会に及ぼす影響について理解している。</li> <li>コンピュータウイルスへの対策の重要性とその方法を理解している。</li> <li>著作権などの知的財産権を保護する必要性や、その法律の目的について理解している。</li> </ul>		